（様式第 10）

31事 務 第 43号
令和元年10月4日

厚生労働大臣　殿

公立大学法人　名古屋市立大学
理事長　郡　健二郎　（印）

名古屋市立大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 30 年度の業務に関して報告します。

記

1　開設者の住所及び氏名

| | |
|---|---|
| 住　　所 | 〒467-8602　愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄 1 番地 |
| 氏　　名 | 公立大学法人　名古屋市立大学 |

（注）　開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2　名　　称

名古屋市立大学病院

3　所在の場所

〒467-8602
愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄 1 番地
電話(052)851－5511

4　診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

（注）　上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

| | | | |
|---|---|---|---|
| 内科 | | | 有　・　無 |
| 内科と組み合わせた診療科名等 | | | |
| 1呼吸器内科 | 2消化器内科 | 3循環器内科 | 4腎臓内科 |
| 5神経内科 | 6血液内科 | 7内分泌内科 | 8代謝内科 |
| 9感染症内科 | 10アレルギー疾患内科またはアレルギー科 | | 11リウマチ科 |
| 診療実績 | | | |
| ・呼吸器内科及びアレルギー疾患内科は、呼吸器・アレルギー疾患内科で主に診療している。 | | | |
| ・血液内科は、血液・腫瘍内科、内分泌内科及び代謝内科は、内分泌・糖尿病内科で主に診療している。 | | | |

（注）1　「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2　「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載す

ること。

(2)外科

| 外科 | 有 ・ 無 |
|---|---|
| 外科と組み合わせた診療科名<br>1呼吸器外科　2消化器外科　3乳腺外科　4心臓外科<br>5血管外科　6心臓血管外科　7内分泌外科　8小児外科 | |
| 診療実績<br>・内分泌外科については、耳鼻咽喉科、泌尿器科で主に診療している。 | |

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3)その他の標榜していることが求められる診療科名

| |
|---|
| 1精神科　2小児科　3整形外科　4脳神経外科　5皮膚科　6泌尿器科　7産婦人科<br>8産科　9婦人科　10眼科　11耳鼻咽喉科　12放射線科　13放射線診断科<br>14放射線治療科　15麻酔科　16救急科 |

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4)歯科

| 歯科 | 有 ・ 無 |
|---|---|
| 歯科と組み合わせた診療科名<br>1小児歯科　2矯正歯科　3口腔外科 | |
| 歯科の診療体制 | |

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5)(1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

| |
|---|
| 1. 肝臓内科　2. 膵臓内科　3. 呼吸器・アレルギー疾患内科　4. 内分泌・糖尿病内科<br>5. 血液・腫瘍内科　6. 脳神経内科　7. 形成外科　8. 小児泌尿器科　9. リハビリテーション科<br>10. 病理診断科　11. 臨床検査科 |

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

| 精　神 | 感染症 | 結　核 | 療　養 | 一　般 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 28 床 | 床 | 床 | 床 | 772 床 | 800 床 |

6　医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

| 職　　種 | 常　勤 | 非常勤 | 合　計 | 職　　種 | 員　数 | 職　　種 | | 員　数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 医　　師 | 297人 | 188.2人 | 485.2人 | 看護補助者 | 96人 | 診療エックス線技師 | | 0人 |
| 歯科医師 | 7人 | 13.1人 | 20.1人 | 理学療法士 | 14人 | 臨床検査 | 臨床検査技師 | 73人 |
| 薬剤師 | 52人 | 5.8人 | 57.8人 | 作業療法士 | 5人 | | 衛生検査技師 | 0人 |
| 保健師 | 0人 | 0人 | 0人 | 視能訓練士 | 5人 | | その他 | 0人 |
| 助産師 | 46人 | 0.8人 | 46.8人 | 義肢装具士 | 0人 | あん摩マッサージ指圧師 | | 0人 |
| 看護師 | 853人 | 35.9人 | 888.9人 | 臨床工学士 | 16人 | 医療社会事業従事者 | | 9人 |
| 准看護師 | 0人 | 0.8人 | 0.8人 | 栄養士 | 0人 | その他の技術員 | | 25人 |
| 歯科衛生士 | 1人 | 1.8人 | 2.8人 | 歯科技工士 | 1人 | 事務職員 | | 177人 |
| 管理栄養士 | 9人 | 2.9人 | 11.9人 | 診療放射線技師 | 47人 | その他の職員 | | 3人 |

(注) 1　報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2　栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7　専門の医師数

| 専門医名 | 人　数 | 専門医名 | 人　数 |
|---|---|---|---|
| 総合内科専門医 | 69人 | 眼科専門医 | 13人 |
| 外科専門医 | 48人 | 耳鼻咽喉科専門医 | 11人 |
| 精神科専門医 | 15人 | 放射線科専門医 | 19人 |
| 小児科専門医 | 20人 | 脳神経外科専門医 | 11人 |
| 皮膚科専門医 | 10人 | 整形外科専門医 | 21人 |
| 泌尿器科専門医 | 17人 | 麻酔科専門医 | 23人 |
| 産婦人科専門医 | 13人 | 救急科専門医 | 7人 |
| | | 合　計 | 297人 |

(注) 1　報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2　人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8　管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名（　小椋　祐一郎　　）　任命年月日　平成29年4月1日

平成29年4月より医療安全管理委員会　委員

9　前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

| | 歯科等以外 | 歯科等 | 合計 |
|---|---|---|---|
| 1日当たり平均入院患者数 | 670.2人 | 6.6人 | 676.7人 |
| 1日当たり平均外来患者数 | 1634.5人 | 86.8人 | 1721.3人 |
| 1日当たり平均調剤数 | 1468剤 | | |
| 必要医師数 | 165.5人 | | |
| 必要歯科医師数 | 6人 | | |
| 必要薬剤師数 | 23人 | | |
| 必要（准）看護師数 | 400人 | | |

（注）1　「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2　入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数（毎日の 24 時現在の在院患者数の合計）を暦日で除した数を記入すること。

3　外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4　調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5　必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二条の二の算定式に基づき算出すること。

10　施設の構造設備

| 施設名 | 床面積 | 主要構造 | 設備概要 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 集中治療室 | 367.85m² | S造<br>一部SRC/RC造 | 病床数 | 14 床 | 心電計 | 有・無 |
| | | | 人工呼吸装置 | 有・無 | 心細動除去装置 | 有・無 |
| | | | その他の救急蘇生装置 | 有・無 | ペースメーカー | 有・無 |
| 無菌病室等 | ［固定式の場合］　床面積　245.97m²　病床数　15床<br>［移動式の場合］　台数　台 | | | | | |
| 医薬品情報管理室 | ［専用室の場合］　床積　62.81m²<br>［共用室の場合］　共用する室名 | | | | | |
| 化学検査室 | 520.90m² | S造<br>一部SRC/RC造 | （主な設備）検体検査システム | | | |
| 細菌検査室 | 123.15m² | | （主な設備）微生物検査システム | | | |
| 病理検査室 | 221.79m² | | （主な設備）病理標本染色封入システム | | | |
| 病理解剖室 | 81.18m² | S・SRC造 | （主な設備）解剖台、臓器撮影台、滅菌装置 | | | |
| 研究室 | 193.13m² | S造<br>一部SRC/RC造 | （主な設備）クリーンベンチ、オートクレーブ滅菌装置 | | | |
| 講義室 | 401.90m² | | 室数 | 1室 | 収容定員 | 320人 |
| 図書室 | 96.98m² | | 室数 | 2室 | 蔵書数 | 5,700冊程度 |

（注）1　主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2　主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11　紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

| 紹　介　率 | 83．3% | 逆　紹　介　率 | 73．9　% |
|---|---|---|---|
| 算出根拠 | A：紹　介　患　者　の　数 | | 15,765人 |
| | B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数 | | 17,393人 |
| | C：救急用自動車によって搬入された患者の数 | | 3,845人 |
| | D：初　診　の　患　者　の　数 | | 23,543人 |

（注）1　「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2　「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3　A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12　監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

| 氏名 | 所属 | 委員長（○を付す） | 選定理由 | 利害関係 | 委員の要件該当状況 |
|---|---|---|---|---|---|
| 中村　勝己 | 後藤・太田・立岡法律事務所所属弁護士 | ○ | 法律に関する識見を有する者 | 有・無 | 1 |
| 宮本　忠壽 | 知多厚生病院名誉院長 | | 医療安全に関する業務に従事した経験を持つ医師 | 有・無 | 1 |
| 小島　一彦 | 元中日新聞編集委員 | | 医療を受ける者の立場から意見を述べることができる者 | 有・無 | 2 |
| 岩崎　良平 | 日本ガイシ株式会社取締役専務執行役員 | | 医療を受ける者の立場から意見を述べることができる者 | 有・無 | 2 |

（注）　「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

13　監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

| | | |
|---|---|---|
| 委員名簿の公表の有無 | | 有・無 |
| 委員の選定理由の公表の有無 | | 有・無 |
| 公表の方法<br>病院ホームページにて公表している<br>https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/section/central/anzen-kanri/externalauditor/ | | |

（様式第2）

# 高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類（注1）及び取扱患者数

| 先 進 医 療 の 種 類 | 取扱患者数 |
|---|---|
| 腹腔鏡下膀胱尿管逆流防止術 | 6人 |
| MRI撮影及び超音波検査融合画像に基づく前立腺針生検法 | 127人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |

（注）1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準（平成二十年厚生労働省告示第百二十九号）第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

（注）2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第2）

# 高度の医療の提供の実績

## 2 承認を受けている先進医療の種類（注1）及び取扱患者数

| 先 進 医 療 の 種 類 | 取扱患者数 |
|---|---|
| マルチプレックス遺伝子パネル検査　進行再発固形がん（切除が困難で進行性のもの又は治療後に再発したものであって、原発部位が不明なもの又は治療法が存在しないもの、従来の治療法が終了しているもの若しくは従来の治療法が終了予定のものに限る。） | 2人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |

（注）1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準（平成二十年厚生労働省告示第百二十九号）第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

（注）2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第2）

# 高度の医療の提供の実績

## 3 その他の高度の医療

| 医療技術名 | 化学放射線治療後遺残再発食道癌に対する光線力学的治療 | 取扱患者数 | 5人 |
|---|---|---|---|
| 当該医療技術の概要：光感受性物質を投与後、特定波長のレーザー光を遺残再発食道癌に対し照射することにより低侵襲な癌治療 | | | |
| 医療技術名 | 超音波内視鏡下瘻孔形成術 | 取扱患者数 | 20人 |
| 当該医療技術の概要：超音波内視鏡下に胆のう、胆管、膿瘍腔を穿刺し瘻孔を形成しドレナージを行う治療 | | | |
| 医療技術名 | 気管支サーモプラスティ | 取扱患者数 | 5人 |
| 当該医療技術の概要<br>重症喘息患者を対象とした新治療。気管支鏡下に中葉を除く全気管支に専用のプローブを用いて熱を加えることで気管支平滑筋の容量減少から発作回数減少などの効果が期待される。当科では全国的にも早期導入し積極的に治療を行っている。 | | | |
| 医療技術名 | 造血幹細胞移植療法 | 取扱患者数 | 20人 |
| 当該医療技術の概要<br>自家および同種造血幹細胞移植療法は、造血器腫瘍治療において極めて重要な手段である。高度の骨髄抑制および免疫抑制に伴う合併症管理が治療成績を左右し、多臓器にわたる専門的な管理が必要であるため、チーム医療を学ぶ良い機会となる。 | | | |
| 医療技術名 | 腹腔鏡下大腸全摘術 | 取扱患者数 | 6人 |
| 当該医療技術の概要<br>腹腔鏡を用いて大腸を全摘出し、肛門と回腸を吻合する。主に潰瘍性大腸炎・家族性大腸ポリポーシスに対して施行している。 | | | |
| 医療技術名 | 骨盤内臓全摘術 | 取扱患者数 | 6人 |
| 当該医療技術の概要<br>多臓器に浸潤した直腸癌・S状結腸癌に対して骨盤内の臓器を合併切除している。 | | | |
| 医療技術名 | 経肛門的全直腸間膜切除術 | 取扱患者数 | 2人 |
| 当該医療技術の概要<br>直腸癌に対して従来通り腹部からのアプローチのみでなく、肛門からもアプローチして直腸周囲の剥離などをおこなう手術を行っている。 | | | |
| 医療技術名 | 腹腔鏡下食道アカラシア手術 | 取扱患者数 | 3人 |
| 当該医療技術の概要<br>アカラシア手術を腹腔鏡下にて安全に施行している。 | | | |
| 医療技術名 | 胸腔鏡下食道亜全摘出術 | 取扱患者数 | 35人 |
| 当該医療技術の概要<br>切除可能食道癌に対して胸腔鏡下に施行している。 | | | |
| 医療技術名 | 胸腔鏡下食道腫瘍摘出術 | 取扱患者数 | 1人 |
| 当該医療技術の概要<br>切除可能食道胃接合部癌に対して腹腔鏡下に施行している。 | | | |
| 医療技術名 | 腹腔鏡下下部食道噴門側胃切除 | 取扱患者数 | 8人 |
| 当該医療技術の概要<br>切除可能食道胃接合部癌に対して腹腔鏡下に施行している。 | | | |

| 医療技術名 | 膵頭十二指腸切除術 | 取扱患者数 | 38人 |
|---|---|---|---|
| 当該医療技術の概要<br>膵頭部癌または遠位部胆管癌、十二指腸乳頭部癌などに対して、胃のほどんど全てを温存させた上で、膵頭部、十二指腸、胆のう、胆管を合併切除し、空腸を用いて再建している。 | | | |
| 医療技術名 | 腹腔鏡下膵体尾部切除術 | 取扱患者数 | 13人 |
| 当該医療技術の概要<br>良性または低悪性度膵体尾部腫瘍に対して、腹腔鏡下に膵体尾部切除を行っている。 | | | |
| 医療技術名 | 膵全摘出術 | 取扱患者数 | 1人 |
| 当該医療技術の概要<br>膵残存しきれない高度な膵管内進展をきたす症例や、広範内膵外進展をきたす膵腫瘍症例に対し、膵臓全摘に加え解剖学的見識から胆管十二指腸切除を伴う手術を行っている。(術式は膵頭十二指腸切除術に準ずる。) | | | |
| 医療技術名 | Frey手術 | 取扱患者数 | 3人 |
| 当該医療技術の概要<br>内科的治療の困難な慢性膵炎に対し、膵管内圧の上昇を防ぐ目的で、膵頭部のくり抜きと、膵管を長軸方向に開放した上で、膵管と空腸を吻合する手術を行っている。 | | | |
| 医療技術名 | 腹腔鏡下肝部分切除術 | 取扱患者数 | 7人 |
| 当該医療技術の概要<br>肝外側区域切除または肝部分切除を腹腔鏡下に行っている。 | | | |
| 医療技術名 | 腹腔鏡下肝亜区域切除術 | 取扱患者数 | 10人 |
| 当該医療技術の概要<br>肝腫瘍を亜区域範囲で腹腔鏡下で切除している。 | | | |
| 医療技術名 | 腹腔鏡下肝区域切除術 | 取扱患者数 | 15人 |
| 当該医療技術の概要<br>肝腫瘍を区域範囲以上を腹腔鏡で切除している。 | | | |
| 医療技術名 | ロボット支援下食道下部噴門側胃切除術 | 取扱患者数 | 3人 |
| 当該医療技術の概要<br>切除可能食道胃接合部癌に対してロボット支援手術を行っている。 | | | |
| 医療技術名 | ロボット支援下幽門側胃切除術 | 取扱患者数 | 70人 |
| 当該医療技術の概要<br>胃切除のうち幽門側切除の際にロボット支援手術で行っている。 | | | |
| 医療技術名 | ロボット支援下胃全摘術 | 取扱患者数 | 11人 |
| 当該医療技術の概要<br>ロボット支援下に胃全摘術を行っている。 | | | |
| 医療技術名 | ロボット支援下膵体尾部切除術 | 取扱患者数 | 1人 |
| 当該医療技術の概要<br>良性または低悪性度膵体尾部腫瘍に対して、ロボット支援下に膵体尾部切除を行っている。 | | | |
| 医療技術名 | 進行肺癌に対する胸腔鏡下手術 | 取扱患者数 | 5人 |
| 当該医療技術の概要:気管支形成・肺動脈形成を伴う進行肺癌に対し、低侵襲胸腔鏡下手術を施行。 | | | |
| 医療技術名 | 剣状突起下アプローチによる前縦隔腫瘍摘出術 | 取扱患者数 | 21人 |
| 当該医療技術の概要:前縦隔腫瘍に対し、剣状突起下アプローチ胸腔鏡下手術による摘出術を施行。胸骨を切らない低侵襲手術施行。 | | | |

| 医療技術名 | 悪性胸膜中皮腫に対する胸膜肺全摘術 | 取扱患者数 | 1人 |
|---|---|---|---|
| 当該医療技術の概要:悪性胸膜中皮腫に対し、胸膜肺全摘術施行。 | | | |
| 医療技術名 | 気管支腫瘍・狭窄に対する気管支鏡下アルゴンビームレーザー治療 | 取扱患者数 | 4人 |
| 当該医療技術の概要:気管支腫瘍・術後気管支狭窄に対し、気管支鏡下にアルゴンビームレーザー治療を行い、気管支を開存。 | | | |
| 医療技術名 | 気管支腫瘍・狭窄に対する気管支鏡下YAGレーザー治療 | 取扱患者数 | 1人 |
| 当該医療技術の概要:気管支腫瘍・術後気管支狭窄に対し、気管支鏡下にYAGレーザー治療を行い、気管支を開存。 | | | |
| 医療技術名 | ロボット支援下胸腔鏡下肺葉切除術+縦隔リンパ節郭清術 | 取扱患者数 | 9人 |
| 当該医療技術の概要:Davinciを使用した肺癌に対するロボット支援下胸腔鏡下肺葉切除術 | | | |
| 医療技術名 | ロボット支援下胸腔鏡下縦隔腫瘍摘出術 | 取扱患者数 | 2人 |
| 当該医療技術の概要:Davinciを使用した縦隔腫瘍に対する胸腔鏡下縦隔腫瘍摘出術 | | | |
| 医療技術名 | 先天性十二指腸閉鎖症修復術 | 取扱患者数 | 3人 |
| 当該医療技術の概要:新生児の先天異常である十二指腸閉鎖症の修復術 | | | |
| 医療技術名 | 膀胱外反症修復術 | 取扱患者数 | 1人 |
| 当該医療技術の概要:新生児の先天異常である膀胱外反症の修復術。生後48時間までの修復を複数の診療科で行なう必要がある。 | | | |
| 医療技術名 | 新生児会陰式鎖肛修復術 | 取扱患者数 | 1人 |
| 当該医療技術の概要:新生児の先天異常である低位鎖肛に対する修復術。狭いところの大事な機能部位に対する手術。 | | | |
| 医療技術名 | 新生児腸回転異状症手術 | 取扱患者数 | 1人 |
| 当該医療技術の概要:新生児の先天異常である腸回転異常に対する手術。正常な状態にできないため、新たな腸管の納め方を必要とする。 | | | |
| 医療技術名 | 脊椎側弯症手術 | 取扱患者数 | 6人 |
| 当該医療技術の概要<br>成長期に脊椎が弯曲して変形する側弯症に対して、曲がりを矯正して固定する手術 | | | |
| 医療技術名 | 脊椎内視鏡手術 | 取扱患者数 | 3人 |
| 当該医療技術の概要<br>内視鏡を用いて、小さい皮膚切開で骨や靭帯を削り、または、椎間板ヘルニアを切除して神経の圧迫を取り除く手術 | | | |
| 医療技術名 | 脊椎側方侵入椎体間固定 | 取扱患者数 | 5人 |
| 当該医療技術の概要<br>特殊な器械を用いて展開し、脊椎の側方から侵入し操作する小侵襲による脊椎矯正固定術 | | | |
| 医療技術名 | パーキンソン病関連疾患の歩行障害に対する新規リハビリテーション治療の確立 | 取扱患者数 | 40人 |
| 当該医療技術の概要　患者個人での最適歩行リズム(周波数)に合致させたパターン直流電流刺激を併用した歩行訓練を行うことで、歩行リズムの脳内表現を人為的に制御し、治療法が限られていたパーキンソン病関連疾患でみられる歩行障害をターゲットとした新たなリハビリテーション法の開発を目指す。 | | | |

| 医療技術名 | 精巣内精子回収法（TESE）により得られた精子を用いた顕微授精 | 取扱患者数 | 10人 |
|---|---|---|---|
| 当該医療技術の概要<br><br>精巣内から直接得られた精子を用いた顕微授精をおこなうことにより、この男性不妊症の患者が、生児を得ることが出来る。 | | | |
| 医療技術名 | 筋硬直性ジストロフィーに対する着床前診断 | 取扱患者数 | 2人 |
| 当該医療技術の概要<br><br>筋硬直性ジストロフィーは遺伝疾患であり、着床前診断することが出来る。 | | | |
| 医療技術名 | 染色体相互転座に起因する習慣流産患者に対する着床前診断 | 取扱患者数 | 4人 |
| 当該医療技術の概要<br><br>習慣流産の原因の1つである染色体相互転座は着床前診断することが出来る。 | | | |
| 医療技術名 | 不育症患者に対する抗凝固療法 | 取扱患者数 | 20人 |
| 当該医療技術の概要<br><br>抗リン脂質抗体症候群は不育症の原因の1つであり、抗凝固療法（ヘパリン・アスピリン）により治療する。 | | | |
| 医療技術名 | 習慣流産患者の妊娠管理 | 取扱患者数 | 100人 |
| 当該医療技術の概要<br><br>習慣流産患者の診断、治療をおこない妊娠継続分娩管理をおこなう。 | | | |
| 医療技術名 | 重症妊娠高血圧症候群患者の管理 | 取扱患者数 | 50人 |
| 当該医療技術の概要<br><br>重症妊娠高血圧症候群の患者を、高度な集約的治療により、妊娠・分娩管理をおこなう。 | | | |
| 医療技術名 | 前置胎盤・胎盤早期剥離などハイリスク妊婦に対する帝王切開術 | 取扱患者数 | 20人 |
| 当該医療技術の概要<br><br>重圧な合併症を引き起こす可能性のある疾患である、高度な集約的治療により、妊娠・分娩管理をする。 | | | |
| 医療技術名 | 妊娠中期破水妊娠の管理 | 取扱患者数 | 70人 |
| 当該医療技術の概要<br><br>妊娠中期の前期破水は母体のみでなく胎児にも大きな影響を与える。集約的な治療によって妊娠分娩管理をする。 | | | |
| 医療技術名 | 胎児異常の出生前診断 | 取扱患者数 | 25人 |
| 当該医療技術の概要<br>胎児異常の出生前診断は困難で、専門医による診断が必要である。また診断後のカウンセリングにも専門知識が必要である。 | | | |
| 医療技術名 | 異常胎児妊娠妊婦の管理 | 取扱患者数 | 25人 |
| 当該医療技術の概要<br><br>胎児異常妊娠は合併症のみで無く、胎児の状態の把握も重要である。 | | | |
| 医療技術名 | 異常胎児に対する胎内治療 | 取扱患者数 | 0人 |
| 当該医療技術の概要<br><br>異常胎児を母体内で治療することにより、胎内成長過程を改善することが出来る。 | | | |
| 医療技術名 | 子宮頸がんに対する広汎子宮全摘術 | 取扱患者数 | 9人 |
| 当該医療技術の概要<br><br>広汎子宮全摘術は専門性の高い婦人科医のみが実施できる手術である。また術後合併症の頻度も高い。 | | | |
| 医療技術名 | 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術 | 取扱患者数 | 14人 |
| 当該医療技術の概要<br><br>早期子宮体癌に対する子宮全摘及び骨盤内リンパ節郭清を腹腔鏡下にて行う事により低侵襲な治療が可能となる | | | |

| 医療技術名 | 脈絡膜新生血管、黄斑浮腫に対する抗VEGF硝子体内注射 | 取扱患者数 | 1561人 |
|---|---|---|---|
| 当該医療技術の概要　加齢黄斑変性、近視性脈絡膜新生血管、および、糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症による黄斑浮腫に対して抗VEGF薬を硝子体内に注射して、新生血管を縮小あるいは網膜下液、網膜浮腫の改善を測る。 | | | |
| 医療技術名 | 加齢黄斑変性に対する光線力学療法 | 取扱患者数 | 20人 |
| 当該医療技術の概要　光感受性物質を静脈内投与したのちに、レーザー光線をあて、加齢黄斑変性の脈絡膜新生血管を縮小させる。 | | | |
| 医療技術名 | 増殖硝子体網膜症に対する増殖硝子体網膜症手術 | 取扱患者数 | 6人 |
| 当該医療技術の概要 難治性網膜剥離である増殖硝子体網膜症に対し、輪状締結を行い、硝子体および増殖膜を切除、ガスあるいはシリコンオイルで眼内を置換する。 | | | |
| 医療技術名 | インプラントを用いた緑内障手術 | 取扱患者数 | 45人 |
| 当該医療技術の概要 他の治療法で眼圧コントロール不良の緑内障患者に対して、プレートのあるインプラントを用いた濾過手術を施行する。 | | | |
| 医療技術名 | 糖尿病黄斑浮腫、網膜静脈分枝閉塞症、傍中心窩毛細血管拡張症に対する選択的網膜光凝固 | 取扱患者数 | 24人 |
| 当該医療技術の概要 糖尿病黄斑浮腫にたいして、フルオレセイン・インドシアニングリーン蛍光眼底造影を施行し、原因となる毛細血管瘤を自動追尾装置をもったレーザーの機械で選択的に光凝固する | | | |
| 医療技術名 | 人工内耳埋め込み術 | 取扱患者数 | 14人 |
| 当該医療技術の概要　高度難聴患者に対して人工内耳埋め込み術を施行、その後の聴覚リハビリを行っている。 | | | |
| 医療技術名 | 慢性めまいに対する前庭リハビリの新たなる評価法の開発と治療法の開拓 | 取扱患者数 | 30人 |
| 当該医療技術の概要　これまで慢性めまいの病態についても解明が遅れているなか、その調査ならびに前庭リハビリと認知行動療法を行って来た。現在解析中で今後その結果を学会や論文で報告する予定である。 | | | |
| 医療技術名 | 白斑、改善が困難な瘢痕、難治性皮膚潰瘍に対する培養表皮移植の有効性 | 取扱患者数 | 12人 |
| 当該医療技術の概要　白斑、改善が困難な瘢痕、難治性皮膚潰瘍の、従来の治療法では治癒が困難である患者に対して、患者から切手大の皮膚を採取し、外部企業にて培養表皮を作成後に、患部に移植する治療である。特に、顔面の尋常性白斑や広範囲の白斑に対して良好な結果が得られている。 | | | |
| 医療技術名 | ロボット支援下腹腔鏡下逆流防止術 | 取扱患者数 | 2人 |
| 当該医療技術の概要<br>先進医療として厚生労働省が認めた高度な手術である腹腔鏡手術をロボットで行った、日本で唯一行える手術である。細かな縫合技術が必要であるが、ロボットの特徴をまさにいかせる手術である。 | | | |
| 医療技術名 | 腹腔鏡下逆流防止術 | 取扱患者数 | 12人 |
| 当該医療技術の概要<br>先進医療として厚生労働省が認めた高度な手術である | | | |
| 医療技術名 | 腹腔鏡内精巣に対する腹腔鏡下精巣固定術 | 取扱患者数 | 10人 |
| 当該医療技術の概要<br>小児に対するより低侵襲な手術として腹腔鏡を全国に先駆けて取り入れ行っている。腹腔内からの精巣の観察ができ、開腹による手術の時の理解にもつながっている。 | | | |
| 医療技術名 | 尿道下裂形成術 | 取扱患者数 | 34人 |
| 当該医療技術の概要<br>全国一の手術経験を持っている。拡大鏡を用いての繊細かつ高度な技術を要する。<br>繊細な手術になるため、形成術全般に対する知識が深まる。 | | | |
| 医療技術名 | 顕微鏡下精子採取術 | 取扱患者数 | 15人 |
| 当該医療技術の概要<br>男性不妊症に対する補助生殖医療技術。産婦人科と協調しながら顕微鏡下に精子採取術を行っている。<br>東海地区の大学病院では唯一当院でしか経験できないため、特殊な手術の経験となっている。 | | | |

| 医療技術名 | 膀胱尿管逆流に対するロボット支援腹腔鏡下膀胱尿管逆流防止術 | 取扱患者数 | 1人 |
|---|---|---|---|
| 先天性疾患である膀胱尿管逆流に対し、手術支援ロボット「ダヴィンチ」を用いて手術治療を行う技術。医師主導の臨床試験として院内の倫理審査委員会での承認のもとに施行している。従来の腹腔鏡手術に比べ、高精細な視野、自由度の高い鉗子を用い、手術成績の向上が期待される。重篤な術後合併症なく安全に施行できている。 | | | |
| 医療技術名 | 先天性水腎症に対するロボット支援腹腔鏡下腎盂形成術 | 取扱患者数 | 0人 |
| 先天性疾患である水腎症に対し、手術支援ロボット「ダヴィンチ」を用いて手術治療を行う技術。医師主導の臨床試験として院内の倫理審査委員会での承認のもとに施行している。従来の腹腔鏡手術に比べ、高精細な視野、自由度の高い鉗子を用い、手術成績の向上が期待される。本年度は施行症例がなかったが、2012年からこれまでに28例に施行している。 | | | |
| 医療技術名 | 高難度の泌尿生殖器の先天異常に対する手術治療 | 取扱患者数 | 2人 |
| 泌尿生殖器および下部消化管の複雑な先天異常疾患である、総排泄腔遺残（指定難病293）や膀胱外反症。総排泄腔外反（指定難病292）は、発生頻度が10-20万人に1人と希少疾患である。治療には尿路・生殖器・消化器など広い範囲で高難度の手術治療が必要となる。複数の関連各科と合同し手術治療を行い、安全に施行できている。 | | | |
| 医療技術名 | 尿道下裂に対する手術治療 | 取扱患者数 | 34人 |
| 尿道下裂は 250-300人に1人と比較的頻度の高い陰茎の先天異常である。軽度のものから性分化疾患を合併する非常に高度な症例まで幅ひろく存在し、当院へは高度の症例が多く紹介され、手術治療を行っている。当科で開発した手術方法を用いて、良好で安全な治療成績を得ている。 | | | |
| 医療技術名 | 耳鼻科との合同手術　聴神経腫瘍摘出術、真珠腫摘出術 | 取扱患者数 | 12人 |
| 当該医療技術の概要<br>耳鼻科と合同で脳神経モニタリングを行いながら、顔面神経、聴神経の機能温存しながら腫瘍摘出を行う手術である | | | |
| 医療技術名 | 脳深部刺激装置埋め込み術 | 取扱患者数 | 14人 |
| 当該医療技術の概要<br>脳深部刺激装置をMRI定位手術装置を用いて微小電極で脳深部の電気信号を確認しながら、正確な位置に埋め込む手術である | | | |
| 医療技術名 | 硬膜動静脈瘻血管内塞栓術 | 取扱患者数 | 4人 |
| 当該医療技術の概要<br>硬膜動静脈瘻を血管撮影検査でAV-shuntの部位を正しく診断し、血管内塞栓術により、AV-shunt部位を遮断する手術である | | | |
| 医療技術名 | 神経内視鏡手術 | 取扱患者数 | 16人 |
| 当該医療技術の概要<br>神経内視鏡を用いて、頭蓋底の腫瘍、脳内血腫を摘出する手術である。 | | | |
| 医療技術名 | 多血小板フィブリン（PRF：Platelet Rich Fibrin）を用いた歯槽骨造成 | 取扱患者数 | 5人 |
| 当該医療技術の概要　インプラント治療の際の骨再生誘導法に使用する骨補填材に骨造成促進を目的に自己血から作成したPRFを混和する | | | |
| 医療技術名 | 不安障害に対する認知行動療法 | 取扱患者数 | 14人 |
| 当該医療技術の概要<br>パニック障害や社交不安障害患者に、まず呼吸コントロール法や注意訓練法、認知再構成法といった不安をコントロールする技法を習得してもらい、その後不安や恐怖の対象への段階的なエクスポージャー法を施行して、回避等の症状低減を図る。 | | | |
| 医療技術名 | 慢性めまいに対する新世代認知行動療法（アクセプタンス＆コミットメント・セラピー） | 取扱患者数 | 12人 |
| 当該医療技術の概要<br>慢性めまい（心因性めまい）の患者に対して、アクセプタンス、観察者としての自己、脱フュージョン、現在との接触、価値、コミットされた行為、というアクセプタンス＆コミットメント・セラピーのコアプロセスを体験的に習得してもらい、心理的柔軟性を高めることで、QOLの向上を目指し、結果として慢性めまい症状の低減を図る。 | | | |
| 医療技術名 | 児童外来 | 取扱患者数 | 1440人 |
| 当該医療技術の概要<br>児童・思春期に特有な疾患について個人精神療法を中心を行う。 | | | |
| 医療技術名 | サイコオンコロジー | 取扱患者数 | 600人 |
| 当該医療技術の概要<br>がん患者とその家族に対して、支持的精神療法を基本としつつ、がんという疾患の特性を良く理解し、患者の苦痛を包括的に評価し、多職種と協働しながら精神心理的支援を提供する。 | | | |

| 医療技術名 | 難治性てんかんの診断と治療 | 取扱患者数 | 200人 |
|---|---|---|---|
| 当該医療技術の概要<br>難治性てんかんの診断として、入院・外来で終夜脳波などの発作時ビデオ脳波同時記録を行っている。治療としては入院・外来で抗てんかん薬による薬物療法および迷走神経刺激療法(VNS)を行っている。 | | | |
| 医療技術名 | 電気けいれん療法 | 取扱患者数 | 26人 |
| 当該医療技術の概要<br>これまでに数種類の抗うつ薬を十分量、十分期間服用しても改善の得られない難治性うつ病や、副作用のために薬物治療を行えない治療抵抗性うつ病、高齢者のうつ病などに対しては、修正型電気けいれん療法（週2回ずつ約10回を1クールとして施行）を麻酔科の協力を得て行う。 | | | |

（注）1　当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

（注）2　医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること（当該医療が先進医療の場合についても記入すること）。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

| | 疾　患　名 | 患者数 | | 疾　患　名 | 患者数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 球脊髄性筋萎縮症 | 10 | 56 | ベーチェット病 | 94 |
| 2 | 筋萎縮性側索硬化症 | 27 | 57 | 特発性拡張型心筋症 | 46 |
| 3 | 脊髄性筋萎縮症 | 27 | 58 | 肥大型心筋症 | 44 |
| 4 | 原発性側索硬化症 | 27 | 59 | 拘束型心筋症 | 0 |
| 5 | 進行性核上性麻痺 | 10 | 60 | 再生不良性貧血 | 48 |
| 6 | パーキンソン病 | 471 | 61 | 自己免疫性溶血性貧血 | 18 |
| 7 | 大脳皮質基底核変性症 | 8 | 62 | 発作性夜間ヘモグロビン尿症 | 3 |
| 8 | ハンチントン病 | 0 | 63 | 特発性血小板減少性紫斑病 | 82 |
| 9 | 神経有棘赤血球症 | 1 | 64 | 血栓性血小板減少性紫斑病 | 1 |
| 10 | シャルコー・マリー・トゥース病 | 14 | 65 | 原発性免疫不全症候群 | 2 |
| 11 | 重症筋無力症 | 164 | 66 | IgA 腎症 | 87 |
| 12 | 先天性筋無力症候群 | 0 | 67 | 多発性嚢胞腎 | 24 |
| 13 | 多発性硬化症／視神経脊髄炎 | 63 | 68 | 黄色靭帯骨化症 | 74 |
| 14 | 慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー | 18 | 69 | 後縦靭帯骨化症 | 74 |
| 15 | 封入体筋炎 | 54 | 70 | 広範脊柱管狭窄症 | 596 |
| 16 | クロウ・深瀬症候群 | 1 | 71 | 特発性大腿骨頭壊死症 | 37 |
| 17 | 多系統萎縮症 | 5 | 72 | 下垂体性ADH分泌異常症 | 0 |
| 18 | 脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。) | 36 | 73 | 下垂体性TSH分泌亢進症 | 1 |
| 19 | ライソゾーム病 | 17 | 74 | 下垂体性PRL分泌亢進症 | 0 |
| 20 | 副腎白質ジストロフィー | 4 | 75 | クッシング病 | 8 |
| 21 | ミトコンドリア病 | 7 | 76 | 下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症 | 0 |
| 22 | もやもや病 | 31 | 77 | 下垂体性成長ホルモン分泌亢進症 | 0 |
| 23 | プリオン病 | 2 | 78 | 下垂体前葉機能低下症 | 308 |
| 24 | 亜急性硬化性全脳炎 | 0 | 79 | 家族性高コレステロール血症（ホモ接合体） | 415 |
| 25 | 進行性多巣性白質脳症 | 1 | 80 | 甲状腺ホルモン不応症 | 2 |
| 26 | HTLV-1関連脊髄症 | 6 | 81 | 先天性副腎皮質酵素欠損症 | 0 |
| 27 | 特発性基底核石灰化症 | 8 | 82 | 先天性副腎低形成症 | 0 |
| 28 | 全身性アミロイドーシス | 40 | 83 | アジソン病 | 0 |
| 29 | ウルリッヒ病 | 53 | 84 | サルコイドーシス | 272 |
| 30 | 遠位型ミオパチー | 53 | 85 | 特発性間質性肺炎 | 33 |
| 31 | ベスレムミオパチー | 53 | 86 | 肺動脈性肺高血圧症 | 102 |
| 32 | 自己貪食空胞性ミオパチー | 0 | 87 | 肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症 | 102 |
| 33 | シュワルツ・ヤンペル症候群 | 28 | 88 | 慢性血栓塞栓性肺高血圧症 | 8 |
| 34 | 神経線維腫症 | 40 | 89 | リンパ脈管筋腫症 | 20 |
| 35 | 天疱瘡 | 60 | 90 | 網膜色素変性症 | 39 |
| 36 | 表皮水疱症 | 4 | 91 | バッド・キアリ症候群 | 0 |
| 37 | 膿疱性乾癬（汎発型） | 29 | 92 | 特発性門脈圧亢進症 | 2 |
| 38 | スティーヴンス・ジョンソン症候群 | 3 | 93 | 原発性胆汁性肝硬変 | 75 |
| 39 | 中毒性表皮壊死症 | 0 | 94 | 原発性硬化性胆管炎 | 59 |
| 40 | 高安動脈炎 | 20 | 95 | 自己免疫性肝炎 | 90 |
| 41 | 巨細胞性動脈炎 | 10 | 96 | クローン病 | 92 |
| 42 | 結節性多発動脈炎 | 15 | 97 | 潰瘍性大腸炎 | 283 |
| 43 | 顕微鏡的多発血管炎 | 15 | 98 | 好酸球性消化管疾患 | 0 |
| 44 | 多発血管炎性肉芽腫症 | 127 | 99 | 慢性特発性偽性腸閉塞症 | 2 |
| 45 | 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症 | 23 | 100 | 巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症 | 3 |
| 46 | 悪性関節リウマチ | 10 | 101 | 腸管神経節細胞僅少症 | 2 |
| 47 | バージャー病 | 11 | 102 | ルビンシュタイン・テイビ症候群 | 7 |
| 48 | 原発性抗リン脂質抗体症候群 | 3 | 103 | CFC症候群 | 1 |
| 49 | 全身性エリテマトーデス | 403 | 104 | コステロ症候群 | 23 |
| 50 | 皮膚筋炎／多発性筋炎 | 76 | 105 | チャージ症候群 | 1 |
| 51 | 全身性強皮症 | 29 | 106 | クリオピリン関連周期熱症候群 | 6 |
| 52 | 混合性結合組織病 | 42 | 107 | 全身型若年性特発性関節炎 | 6 |
| 53 | シェーグレン症候群 | 229 | 108 | TNF受容体関連周期性症候群 | 6 |
| 54 | 成人スチル病 | 17 | 109 | 非典型溶血性尿毒症症候群 | 2 |
| 55 | 再発性多発軟骨炎 | 4 | 110 | ブラウ症候群 | 6 |

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

| | 疾　患　名 | 患者数 | | 疾　患　名 | 患者数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 111 | 先天性ミオパチー | 17 | 161 | 家族性良性慢性天疱瘡 | 15 |
| 112 | マリネスコ・シェーグレン症候群 | 1 | 162 | 類天疱瘡（後天性表皮水疱症を含む。） | 4 |
| 113 | 筋ジストロフィー | 53 | 163 | 特発性後天性全身性無汗症 | 0 |
| 114 | 非ジストロフィー性ミオトニー症候群 | 28 | 164 | 眼皮膚白皮症 | 2 |
| 115 | 遺伝性周期性四肢麻痺 | 1 | 165 | 肥厚性皮膚骨膜症 | 1 |
| 116 | アトピー性脊髄炎 | 6 | 166 | 弾性線維性仮性黄色腫 | 15 |
| 117 | 脊髄空洞症 | 17 | 167 | マルファン症候群 | 7 |
| 118 | 脊髄髄膜瘤 | 39 | 168 | エーラス・ダンロス症候群 | 2 |
| 119 | アイザックス症候群 | 28 | 169 | メンケス病 | 8 |
| 120 | 遺伝性ジストニア | 2 | 170 | オクシピタル・ホーン症候群 | 8 |
| 121 | 神経フェリチン症 | 8 | 171 | ウィルソン病 | 8 |
| 122 | 脳表ヘモジデリン沈着症 | 4 | 172 | 低ホスファターゼ症 | 13 |
| 123 | 禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症 | 0 | 173 | VATER症候群 | 7 |
| 124 | 皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症 | 3 | 174 | 那須・ハコラ病 | 0 |
| 125 | 神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症 | 25 | 175 | ウィーバー症候群 | 5 |
| 126 | ペリー症候群 | 9 | 176 | コフィン・ローリー症候群 | 12 |
| 127 | 前頭側頭葉変性症 | 6 | 177 | 有馬症候群 | 12 |
| 128 | ビッカースタッフ脳幹脳炎 | 6 | 178 | モワット・ウィルソン症候群 | 6 |
| 129 | 痙攣重積型（二相性）急性脳症 | 14 | 179 | ウィリアムズ症候群 | 6 |
| 130 | 先天性無痛無汗症 | 1 | 180 | ATR－X症候群 | 6 |
| 131 | アレキサンダー病 | 8 | 181 | クルーゾン症候群 | 0 |
| 132 | 先天性核上性球麻痺 | 0 | 182 | アペール症候群 | 6 |
| 133 | メビウス症候群 | 6 | 183 | ファイファー症候群 | 6 |
| 134 | 中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群 | 0 | 184 | アントレー・ビクスラー症候群 | 6 |
| 135 | アイカルディ症候群 | 1 | 185 | コフィン・シリス症候群 | 6 |
| 136 | 片側巨脳症 | 5 | 186 | ロスムンド・トムソン症候群 | 15 |
| 137 | 限局性皮質異形成 | 0 | 187 | 歌舞伎症候群 | 6 |
| 138 | 神経細胞移動異常症 | 0 | 188 | 多脾症候群 | 1 |
| 139 | 先天性大脳白質形成不全症 | 0 | 189 | 無脾症候群 | 1 |
| 140 | ドラベ症候群 | 0 | 190 | 鰓耳腎症候群 | 12 |
| 141 | 海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん | 40 | 191 | ウェルナー症候群 | 3 |
| 142 | ミオクロニー欠神てんかん | 0 | 192 | コケイン症候群 | 23 |
| 143 | ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん | 0 | 193 | プラダー・ウィリ症候群 | 23 |
| 144 | レノックス・ガストー症候群 | 28 | 194 | ソトス症候群 | 5 |
| 145 | ウエスト症候群 | 28 | 195 | ヌーナン症候群 | 23 |
| 146 | 大田原症候群 | 0 | 196 | ヤング・シンプソン症候群 | 6 |
| 147 | 早期ミオクロニー脳症 | 0 | 197 | 1p36欠失症候群 | 13 |
| 148 | 遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん | 0 | 198 | 4p欠失症候群 | 0 |
| 149 | 片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群 | 1 | 199 | 5p欠失症候群 | 2 |
| 150 | 環状20番染色体症候群 | 0 | 200 | 第14番染色体父親性ダイソミー症候群 | 3 |
| 151 | ラスムッセン脳炎 | 0 | 201 | アンジェルマン症候群 | 13 |
| 152 | PCDH19関連症候群 | 0 | 202 | スミス・マギニス症候群 | 2 |
| 153 | 難治頻回部分発作重積型急性脳炎 | 0 | 203 | 22q11.2欠失症候群 | 2 |
| 154 | 徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症 | 0 | 204 | エマヌエル症候群 | 0 |
| 155 | ランドウ・クレフナー症候群 | 0 | 205 | 脆弱X症候群関連疾患 | 0 |
| 156 | レット症候群 | 0 | 206 | 脆弱X症候群 | 0 |
| 157 | スタージ・ウェーバー症候群 | 15 | 207 | 総動脈幹遺残症 | 5 |
| 158 | 結節性硬化症 | 8 | 208 | 修正大血管転位症 | 17 |
| 159 | 色素性乾皮症 | 3 | 209 | 完全大血管転位症 | 30 |
| 160 | 先天性魚鱗癬 | 2 | 210 | 単心室症 | 28 |

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

| | 疾　患　名 | 患者数 | | 疾　患　名 | 患者数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 211 | 左心低形成症候群 | 7 | 259 | レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症 | 0 |
| 212 | 三尖弁閉鎖症 | 8 | 260 | シトステロール血症 | 0 |
| 213 | 心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症 | 44 | 261 | タンジール病 | 1 |
| 214 | 心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症 | 84 | 262 | 原発性高カイロミクロン血症 | 0 |
| 215 | ファロー四徴症 | 84 | 263 | 脳腱黄色腫症 | 1 |
| 216 | 両大血管右室起始症 | 53 | 264 | 無βリポタンパク血症 | 1 |
| 217 | エプスタイン病 | 6 | 265 | 脂肪萎縮症 | 0 |
| 218 | アルポート症候群 | 1 | 266 | 家族性地中海熱 | 3 |
| 219 | ギャロウェイ・モワト症候群 | 0 | 267 | 高IgD症候群 | 6 |
| 220 | 急速進行性糸球体腎炎 | 108 | 268 | 中條・西村症候群 | 6 |
| 221 | 抗糸球体基底膜腎炎 | 13 | 269 | 化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群 | 6 |
| 222 | 一次性ネフローゼ症候群 | 87 | 270 | 慢性再発性多発性骨髄炎 | 6 |
| 223 | 一次性膜性増殖性糸球体腎炎 | 0 | 271 | 強直性脊椎炎 | 13 |
| 224 | 紫斑病性腎炎 | 26 | 272 | 進行性骨化性線維異形成症 | 0 |
| 225 | 先天性腎性尿崩症 | 5 | 273 | 肋骨異常を伴う先天性側弯症 | 12 |
| 226 | 間質性膀胱炎（ハンナ型） | 3 | 274 | 骨形成不全症 | 11 |
| 227 | オスラー病 | 12 | 275 | タナトフォリック骨異形成症 | 0 |
| 228 | 閉塞性細気管支炎 | 9 | 276 | 軟骨無形成症 | 15 |
| 229 | 肺胞蛋白症（自己免疫性又は先天性） | 2 | 277 | リンパ管腫症/ゴーハム病 | 1 |
| 230 | 肺胞低換気症候群 | 0 | 278 | 巨大リンパ管奇形（頚部顔面病変） | 0 |
| 231 | α1－アンチトリプシン欠乏症 | 21 | 279 | 巨大静脈奇形（頚部口腔咽頭びまん性病変） | 0 |
| 232 | カーニー複合 | 0 | 280 | 巨大動静脈奇形（頚部顔面又は四肢病変） | 4 |
| 233 | ウォルフラム症候群 | 1 | 281 | クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群 | 7 |
| 234 | ペルオキシソーム病（副腎白質ジストロフィーを除く。） | 4 | 282 | 先天性赤血球形成異常性貧血 | 0 |
| 235 | 副甲状腺機能低下症 | 11 | 283 | 後天性赤芽球癆 | 1 |
| 236 | 偽性副甲状腺機能低下症 | 6 | 284 | ダイアモンド・ブラックファン貧血 | 6 |
| 237 | 副腎皮質刺激ホルモン不応症 | 69 | 285 | ファンコニ貧血 | 6 |
| 238 | ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症 | 13 | 286 | 遺伝性鉄芽球性貧血 | 0 |
| 239 | ビタミンD依存性くる病/骨軟化症 | 11 | 287 | エプスタイン症候群 | 563 |
| 240 | フェニルケトン尿症 | 1 | 288 | 自己免疫性出血病XIII | 0 |
| 241 | 高チロシン血症1型 | 0 | 289 | クロンカイト・カナダ症候群 | 0 |
| 242 | 高チロシン血症2型 | 0 | 290 | 非特異性多発性小腸潰瘍症 | 1 |
| 243 | 高チロシン血症3型 | 0 | 291 | ヒルシュスプルング病（全結腸型又は小腸型） | 5 |
| 244 | メープルシロップ尿症 | 0 | 292 | 総排泄腔外反症 | 4 |
| 245 | プロピオン酸血症 | 1 | 293 | 総排泄腔遺残 | 3 |
| 246 | メチルマロン酸血症 | 1 | 294 | 先天性横隔膜ヘルニア | 3 |
| 247 | イソ吉草酸血症 | 1 | 295 | 乳幼児肝巨大血管腫 | 0 |
| 248 | グルコーストランスポーター1欠損症 | 0 | 296 | 胆道閉鎖症 | 0 |
| 249 | グルタル酸血症1型 | 0 | 297 | アラジール症候群 | 4 |
| 250 | グルタル酸血症2型 | 4 | 298 | 遺伝性膵炎 | 132 |
| 251 | 尿素サイクル異常症 | 62 | 299 | 嚢胞性線維症 | 0 |
| 252 | リジン尿性蛋白不耐症 | 0 | 300 | IgG4関連疾患 | 229 |
| 253 | 先天性葉酸吸収不全 | 0 | 301 | 黄斑ジストロフィー | 39 |
| 254 | ポルフィリン症 | 1 | 302 | レーベル遺伝性視神経症 | 41 |
| 255 | 複合カルボキシラーゼ欠損症 | 1 | 303 | アッシャー症候群 | 1 |
| 256 | 筋型糖原病 | 7 | 304 | 若年発症型両側性感音難聴 | 0 |
| 257 | 肝型糖原病 | 7 | 305 | 遅発性内リンパ水腫 | 217 |
| 258 | ガラクトース－１－リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症 | 1 | 306 | 好酸球性副鼻腔炎 | 5 |

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

| | 疾　患　名 | 患者数 | | 疾　患　名 | 患者数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 307 | カナバン病 | 0 | 319 | セピアプテリン還元酵素（SR）欠損症 | 0 |
| 308 | 進行性白質脳症 | 1 | 320 | 先天性グリコシルホスファチジルイノシトール（GPI）欠損症 | 0 |
| 309 | 進行性ミオクローヌスてんかん | 15 | 321 | 非ケトーシス型高グリシン血症 | 0 |
| 310 | 先天異常症候群 | 0 | 322 | β―ケトチオラーゼ欠損症 | 0 |
| 311 | 先天性三尖弁狭窄症 | 8 | 323 | 芳香族L－アミノ酸脱炭酸酵素欠損症 | 0 |
| 312 | 先天性僧帽弁狭窄症 | 0 | 324 | メチルグルタコン酸尿症 | 0 |
| 313 | 先天性肺静脈狭窄症 | 1 | 325 | 遺伝性自己炎症疾患 | 0 |
| 314 | 左肺動脈右肺動脈起始症 | 7 | 326 | 大理石骨病 | 1 |
| 315 | ネイルパテラ症候群（爪膝蓋骨症候群）／LMX1B関連腎症 | 0 | 327 | 特発性血栓症（遺伝性血栓性素因によるものに限る。） | 0 |
| 316 | カルニチン回路異常症 | 0 | 328 | 前眼部形成異常 | 0 |
| 317 | 三頭酵素欠損症 | 0 | 329 | 無虹彩症 | 0 |
| 318 | シトリン欠損症 | 62 | 330 | 先天性気管狭窄症 | 3 |

（注）「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第2）

## 高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（基本診療科）

| 施設基準の種類 | 施設基準の種類 |
|---|---|
| ・地域歯科診療支援病院歯科初診料 | ・病棟薬剤業務実施加算2 |
| ・歯科診療特別対応連携加算 | ・データ提出加算2 |
| ・歯科外来診療環境体制加算 | ・入退院支援加算 |
| ・特定機能病院入院基本料（一般7:1、精神10:1） | ・精神疾患診療体制加算 |
| ・超急性期脳卒中加算 | ・精神科急性期医師配置加算 |
| ・診療録管理体制加算2 | ・救命救急入院料1 |
| ・医師事務作業補助体制加算1 | ・特定集中治療室管理料3 |
| ・急性期看護補助体制加算 | ・総合周産期特定集中治療室管理料 |
| ・看護職員夜間配置加算 | ・新生児治療回復室入院医療管理料 |
| ・療養環境加算 | ・小児入院医療管理料2 |
| ・重症者等療養環境特別加算 | |
| ・無菌治療室管理加算1 | |
| ・無菌治療室管理加算2 | |
| ・緩和ケア診療加算 | |
| ・精神科身体合併症管理加算 | |
| ・精神科リエゾンチーム加算 | |
| ・摂食障害入院医療管理加算 | |
| ・栄養サポートチーム加算 | |
| ・医療安全対策加算1 | |
| ・感染防止対策加算1 | |
| ・患者サポート体制充実加算 | |
| ・褥瘡ハイリスク患者ケア加算 | |
| ・ハイリスク妊娠管理加算 | |
| ・ハイリスク分娩管理加算 | |
| ・後発医薬品使用体制加算1 | |
| ・病棟薬剤業務実施加算1 | |

（様式第2）

# 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（特掲診療科）

| 施設基準の種類 | 施設基準の種類 |
|---|---|
| ・有床義歯咀嚼機能検査1のロ及び咀嚼能力検査 | ・遺伝学的検査 |
| ・歯科口腔ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ料2 | ・骨髄微小残存病変量測定 |
| ・CAD/CAM冠 | ・HPV核酸検出及びHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定） |
| ・歯科技工加算1及び2 | ・検体検査管理加算（Ⅰ） |
| ・広範囲顎骨支持型装置埋入手術 | ・検体検査管理加算（Ⅳ） |
| ・クラウン・ブリッジ維持管理料 | ・国際標準検査管理加算 |
| ・がん性疼痛緩和指導管理料 | ・遺伝カウンセリング加算 |
| ・がん患者指導管理料イ | ・心臓ｶﾃｰﾃﾙ法による諸検査の血管内視鏡検査加算 |
| ・がん患者指導管理料ロ | ・胎児心エコー法 |
| ・がん患者指導管理料ハ | ・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト |
| ・外来緩和ケア管理料 | ・ヘッドアップティルト試験 |
| ・移植後患者指導管理料（造血幹細胞移植後） | ・長期継続頭蓋内脳波検査 |
| ・糖尿病透析予防指導管理料 | ・神経学的検査 |
| ・院内トリアージ実施料 | ・補聴器適合検査 |
| ・外来放射線照射診療料 | ・ロービジョン検査判断料 |
| ・ニコチン依存症管理料 | ・コンタクトレンズ検査料1 |
| ・がん治療連携計画策定料 | ・内服・点滴誘発試験 |
| ・肝炎インターフェロン治療計画料 | ・CT透視下気管支鏡検査加算 |
| ・薬剤管理指導料 | ・画像診断管理加算3 |
| ・医療機器安全管理料1 | ・CT撮影及びMRI撮影 |
| ・医療機器安全管理料2 | ・冠動脈CT撮影加算 |
| ・在宅酸素療法指導管理料の注2に掲げる遠隔モニタリング加算 | ・心臓MRI撮影加算 |
| ・在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に掲げる遠隔モニタリング加算 | ・抗悪性腫瘍剤処方管理加算 |
| ・在宅植込型補助人工心臓（非拍動流型）指導管理料 | ・外来化学療法加算1 |
| ・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料 | ・無菌製剤処理料 |
| ・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定 | ・心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ） |

| 施設基準の種類 | 施設基準の種類 |
|---|---|
| ・脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ） | ・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術 |
| ・運動器リハビリテーション料（Ⅰ） | ・内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ｖ型 |
| ・呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ） | ・喉頭形成手術（甲状軟骨固定用器具を用いたもの） |
| ・がん患者リハビリテーション料 | ・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検（併用） |
| ・児童思春期精神科専門管理加算 | ・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検（単独） |
| ・認知療法・認知行動療法2 | ・乳腺悪性腫瘍手術（乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴わないもの）及び乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴うもの） |
| ・抗精神病特定薬剤治療指導管理料（治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る） | ・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後） |
| ・医療保護入院等診療料 | ・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術及び胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合） |
| ・エタノールの局所注入（甲状腺） | ・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合） |
| ・エタノールの局所注入（副甲状腺） | ・肺悪性腫瘍手術（壁側・臓側胸膜全切除（横隔膜、心膜合併切除を伴うもの）に限る。） |
| ・人工腎臓 | ・食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、小腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、結腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、腎（腎盂）腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、尿管腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、膀胱腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、腟腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの） |
| ・導入期加算2及び腎代替療法実績加算 | ・経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの） |
| ・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算 | ・胸腔鏡下弁形成術 |
| ・センチネルリンパ節加算 | ・胸腔鏡下弁置換術 |
| ・組織拡張器による再建手術（乳房（再建手術）の場合に限る） | ・経カテーテル大動脈弁置換術 |
| ・骨移植術（軟骨移植術を含む。）（同種骨移植（非生体）（同種骨移植（特殊なものに限る。））） | ・経皮的中隔心筋焼灼術 |
| ・骨移植術（軟骨移植術を含む）（自家培養軟骨移植術に限る） | ・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術 |
| ・後縦靱帯骨化症手術（前方進入によるもの） | ・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（リードレスペースメーカー） |
| ・腫瘍脊椎骨全摘術 | ・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術 |
| ・脳腫瘍覚醒下マッピング加算 | ・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術 |
| ・脳刺激装置植込術（頭蓋内電極植込術を含む）及び脳刺激装置交換術 | ・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術 |
| ・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術 | ・大動脈バルーンパンピング法（IABP法） |
| ・緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの）） | ・腹腔鏡下胃切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合） |
| ・網膜付着組織を含む硝子体切除術（眼内内視鏡を用いるもの） | ・腹腔鏡下噴門側胃切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合） |
| ・網膜再建術 | ・腹腔鏡下胃縮小術（スリーブ状切除によるもの） |
| ・人工中耳植込術 | ・腹腔鏡下胃全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合） |

| 施 設 基 準 の 種 類 | 施 設 基 準 の 種 類 |
|---|---|
| ・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術 | ・麻酔管理料（Ⅱ） |
| ・胆管悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うものに限る。） | ・放射線治療専任加算 |
| ・体外衝撃波胆石破砕術 | ・外来放射線治療加算 |
| ・腹腔鏡下肝切除術 | ・高エネルギー放射線治療 |
| ・体外衝撃波膵石破砕術 | ・1回線量増加加算 |
| ・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術 | ・強度変調放射線治療（IMRT） |
| ・腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術 | ・画像誘導放射線治療（IGRT） |
| ・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術 | ・体外照射呼吸性移動対策加算 |
| ・腹腔鏡下直腸切除・切断術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合） | ・定位放射線治療 |
| ・体外衝撃波腎・尿管結石破砕術 | ・定位放射線治療呼吸性移動対策加算 |
| ・腎腫瘍凝固・焼灼術（冷凍凝固によるもの） | ・保険医療機関間の連携による病理診断 |
| ・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの） | ・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製 |
| ・膀胱水圧拡張術 | ・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診 |
| ・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術（内視鏡手術支援機器を用いる場合） | ・病理診断管理加算2 |
| ・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術 | ・悪性腫瘍病理組織標本加算 |
| ・人工尿道括約筋植込・置換術 | ・ |
| ・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術 | ・ |
| ・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの） | ・ |
| ・腹腔鏡下膣式子宮全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合） | ・ |
| ・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る） | ・ |
| ・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術 | ・ |
| ・輸血管理料Ⅰ | ・ |
| ・血適正使用加算 | ・ |
| ・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算 | ・ |
| ・胃瘻造設時嚥下機能評価加算 | ・ |
| ・麻酔管理料（Ⅰ） | ・ |

（様式第2）

# 高度の医療の提供の実績

## 7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

| 施設基準等の種類 | 施設基準等の種類 |
|---|---|
| ・マルチプレックス遺伝子パネル検査　進行再発固形がん（切除が困難で進行性のもの又は治療後に再発したものであって、原発部位が不明なもの又は治療法が存在しないもの、従来の治療法が終了しているもの若しくは従来の治療法が終了予定のものに限る。）（令和元年度6月保険収載） | ・ |
| ・急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変（MRD）量の測定（平成30年度診療報酬改定） | ・ |
| ・硬膜外自家血注入療法<br>（平成28年度診療報酬改定） | ・ |
| ・内視鏡下手術用ロボットを用いた腹腔鏡下腎部分切除術<br>（平成28年度診療報酬改定） | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |

（注）1　特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
（注）2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療（当該病院において提供していたものに限る。）から採り入れられた医療技術について記入すること。

## 8 病理・臨床検査部門の概要

| | |
|---|---|
| 臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況 | 1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。<br>2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。 |
| 臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度 | 週1回程度 |
| 剖　検　の　状　況 | 剖検症例数　18　例　／　剖検率　3.4　% |

（注）「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

（様式第3）

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

### 1 研究費補助等の実績

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 医工連携による次世代先端光医療用腫瘍選択性生命系色素ハイブリッド貴金属錯体の開発 | 片岡洋望 | 消化器内科 | ¥200,000 | 補 | 文部科学省 |
| 腫瘍溶解性ウイルスによる抗がん免疫応答の解析と新規消化管がん治療開発への応用 | 片岡洋望 | 消化器内科 | ¥200,000 | 補 | 文部科学省 |
| 血管新生制御因子CUL3によるmicroRNA制御を標的にした大腸癌治療法の開発 | 片岡洋望 | 消化器内科 | ¥100,000 | 補 | 文部科学省 |
| 癌細胞超選択的光線力学診断法・治療法の開発 | 片岡洋望 | 消化器内科 | ¥8,000,000 | 補 | 文部科学省 |
| 腫瘍溶解性ウイルスによる抗がん免疫応答の解析と新規消化管がん治療開発への応用 | 久保田英嗣 | 消化器内科 | ¥200,000 | 補 | 文部科学省 |
| 腫瘍特異的siRNAデリバリーによるKRAS変異型大腸癌に対する新規治療法開発 | 志村貴也 | 消化器内科 | ¥1,100,000 | 補 | 文部科学省 |
| 血清エクソソームによる消化器癌診断バイオマーカーの開発 | 志村貴也 | 消化器内科 | ¥1,000,000 | 補 | 鈴木謙三記念医科学応用研究財団 |
| 血管新生制御因子CUL3によるmicroRNA制御を標的にした大腸癌治療法の開発 | 田中守 | 消化器内科 | ¥100,000 | 補 | 文部科学省 |
| 第三世代光感受性物質を用いた腸高度新規光線力学的診断法の開発 | 田中守 | 消化器内科 | ¥1,000,000 | 補 | 日東学術振興財団 |
| 新規糖連結光感受性薬によるがん細胞超選択的光線力学診断法・治療法の開発 | 田中守 | 消化器内科 | ¥1,000,000 | 補 | 小林がん学術振興会 |
| 新規光感受性薬による細胞選択的光線力学診断・治療法の開発 | 田中守 | 消化器内科 | ¥2,000,000 | 補 | 武田科学振興財団 |
| 尿中miRNAによる無侵襲大腸癌診断バイオマーカーの開発 | 北川美香 | 消化器内科 | ¥1,100,000 | 補 | 文部科学省 |
| 肝線維化および肝発がんにおけるTLL1-TGFβ相互活性化機構の解明　代表：堤進（名古屋市立大学ウイルス学） | 松浦健太郎 | 肝・膵臓内科 | ¥100,000 | 補 | 文部科学省 |
| 食物中脂質組成とホルモンの相互作用によるエネルギー代謝調節の新規メカニズムの解明 | 青谷大介 | 内分泌・糖尿病内科 | ¥1,000,000 | 補 | 文部科学省 |
| 喫煙、肥満、レプチン抵抗性における報酬系異常の病態生理学的意義の解明 | 青谷大介 | 内分泌・糖尿病内科 | ¥2,000,000 | 補 | 喫煙科学研究財団 |
| 喫煙がサルコペニアにおける骨格筋に及ぼす影響について検討 | 小山博之 | 内分泌・糖尿病内科 | ¥500,000 | 補 | 喫煙科学研究財団 |

小計16件

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| ｸﾞﾚﾘﾝ分泌細胞におけるGPCR発現解析および新規調節因子の探索 | 小山博之 | 内分泌・糖尿病内科 | ¥550,000 | 補<br>委 | 日本応用酵素協会 |
| 小細胞肺癌における抗癌剤耐性の克服を目指したネスチンを基軸とする診療戦略の開発 | 前野 健 | 呼吸器・アレルギー内科 | ¥4,160,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 「Treg抵抗性T細胞」を標的とした免疫学的寛解治療開発の基盤研究 | 前田 伸治 | リウマチ・膠原病内科 | ¥4,160,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 左室駆出率40-60%の心不全に対するβ遮断薬、RAS阻害薬の有用性の検討 | 大手 信之 | 循環器内科 | ¥1,170,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 動脈硬化性大動脈瘤の網羅的糖鎖解析による新たな疾患関連指標の探索 | 杉浦 知範 | 循環器内科 | ¥1,690,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| PETを用いた変時性不全における心臓交感神経pre-synapse機能の研究 | 後藤 利彦 | 循環器内科 | ¥1,170,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 左室収縮が保たれた心不全発症におけるバゾプレッシン分泌の臨床的意義の解明 | 北田 修一 | 循環器内科 | ¥650,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 左室駆出率の保たれた心不全における、心臓交感神経活性のPETによる画像解析 | 菊池 祥平 | 循環器内科 | ¥910,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 拡張型心筋症における心筋内への各炎症細胞浸潤の臨床的、病理学的意義の解明 | 中山 貴文 | 循環器内科 | ¥3,250,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 多発性骨髄腫における分子標的薬の効果を予測する血液中バイオマーカーの同定 | 飯田真介 | 血液・腫瘍内科 | ¥910,000 | 補<br>委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 高齢者多発性骨髄腫患者に対する至適な分子標的療法の確立と治療効果および有害事象を予測するバイオマーカーの探索的研究 | 飯田真介 | 血液・腫瘍内科 | ¥1,500,000 | 補<br>委 | 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 |
| 多発性骨髄腫に対する至適分子標的療法の確立とバイオマーカーの探索研究(26-A-4) | 飯田真介 | 血液・腫瘍内科 | ¥1,500,000 | 補<br>委 | 国立研究開発法人国立がん研究セン |
| がん領域における臨床ゲノム情報データストレージの整備に関する研究 | 飯田真介 | 血液・腫瘍内科 | ¥6,160,000 | 補<br>委 | 国立研究開発法人日本医療研究開発 |
| Interim PETに基づく初発進行期ホジキンリンパ腫に対するABVD療法およびABVD/増量BEACOPP療法の非ランダム化検証的試験:JCOG1305試験 | 楠本 茂 | 血液・腫瘍内科 | ¥1,300,000 | 補<br>委 | 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 |
| B型肝炎再活性化の発生機序の解明と費用対効果に優れた予防法の開発 | 楠本 茂 | 血液・腫瘍内科 | ¥13,000,000 | 補<br>委 | 国立研究開発法人日本医療研究開発 |
| モガムリズマブ治療後のB型肝炎ウイルス再活性化メカニズムの解明 | 楠本 茂 | 血液・腫瘍内科 | ¥1,560,000 | 補<br>委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |

小計16件

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 「NY-ESO-1抗原特異的TCR遺伝子導入Tリンパ球輸注による同種移植後再発難治性成人T細胞白血病リンパ腫を対象とした多施設共同臨床第Ⅰ相医師主導治験」 | 楠本　茂 | 血液・腫瘍内科 | ¥1,200,000 | 補<br>委 | 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 |
| 多発性骨髄腫に対する至適分子標的療法の確立とバイオマーカーの探索研究(26-A-4) | 李　政樹 | 輸血部 | ¥2,500,000 | 補<br>委 | 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 |
| プロテアソーム阻害剤獲得耐性機序の解明と耐性を克服する新規分子標的の探索研究 | 李　政樹 | 輸血部 | ¥1,820,000 | 補<br>委 | 独立行政法人 日本学術振興会 |
| 臨床応用を目指した、膵癌血管新生におけるIGF1シグナルの解明 | 松尾　洋一 | 消化器・一般外科 | ¥1,200,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 癌関連線維芽細胞中のシグナル阻害による抗腫瘍効果 | 原　賢康 | 消化器・一般外科 | ¥1,300,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| ポリフェノールによるBc1-xLに対する作用機序の解明と新たながん治療法の開発 | 高橋　広城 | 消化器・一般外科 | ¥1,100,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 臨床応用を目指した膵癌の局所進展・神経浸潤に与えるGirdinの作用機序の解明 | 佐藤　崇文 | 消化器・一般外科 | ¥600,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 臨床応用を目指した膵癌におけるキサントフモールの抗腫瘍作用機序の解明 | 社本　智也 | 消化器・一般外科 | ¥1,300,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 食道癌microRNAにおける癌関連microRNAの同定と機能解析 | 佐本　洋介 | 消化器・一般外科 | ¥900,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 大腸癌における癌周囲微小環境に着目した薬剤耐性機構の解明と治療への応用 | 志賀　一慶 | 消化器・一般外科 | ¥800,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 臨床応用を目的とした放射線耐性膵癌における癌幹細胞マーカーCXCR4の検討 | 今藤　裕之 | 消化器・一般外科 | ¥1,200,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 臨床応用を目的とした膵癌におけるオメガ3不飽和脂肪酸の抗血管新生効果の検討 | 林　祐一 | 消化器・一般外科 | ¥1,200,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| スーパーアバタイトナノ粒子法を用いたmiRNAによる胃癌腹膜播種治療法の開発 | 坂本　宣弘 | 消化器・一般外科 | ¥1,600,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 胃癌腹膜播種に対する5-アミノレブリン酸を用いた光線力学診断の有用性に関する研究(医師主導治験) | 田中　達也 | 消化器・一般外科 | ¥2,132,008 | 補<br>委 | 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 |
| 食道癌とNOTCH1シグナル伝達系の解析、γセクレターゼ阻害薬の臨床応用 | 大久保　友貴 | 消化器・一般外科 | ¥200,000 | 補<br>委 | 愛知県がん研究振興会 |
| 胸部内視鏡手術における広範囲視認型トロッカーの開発 | 中西　良一 | 呼吸器外科 | ¥400,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 脊柱退行変性により誘導される慢性炎症主体の新たな腰部脊柱管狭窄症動物モデルの確立 | 加藤　賢治 | 整形外科 | ¥2,990,000 | 補<br>委 | 日本学術振興会 |

小計17件

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 脊椎アライメントの概念を導入した新たな腸腰筋の機能解剖 | 近藤　章 | 整形外科 | ¥520,000 | 補<br>委 | 日本学術振興会 |
| 意志動力学(ウィルダイナミクス)の創成と推進 | 植木　美乃 | リハビリテーション科 | ¥5,500,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| パーキンソン病関連疾患に対する非侵襲的ネットワーク修飾に基づいた歩行再建法の確立 | 植木　美乃 | リハビリテーション科 | ¥4,290,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 新規非侵襲的脳刺激が拓くネオ・リハビリテーションとそのシステム脳科学的解明 | 植木　美乃 | リハビリテーション科 | ¥1,030,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 虚血性骨壊死におけるToll-like receptor 4の役割の検討 | 黒柳　元 | リハビリテーション科 | ¥4,160,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 骨壊死におけるインターロイキン6の役割の検討とそれに基づく<br>治療法の開発 | 黒柳　元 | リハビリテーション科 | ¥2,600,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 不育症における非侵襲的着床期子宮内膜機能臨床検査方法と新規関連バイオマーカーの開発 | 尾崎　康彦 | 産科婦人科 | ¥1,000,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 胚盤胞腔液内のDNAを用いた無侵襲性着床前診断技術の確立と臨床への応用 | 佐藤　剛 | 産科婦人科 | ¥1,200,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 抗リン脂質抗体症候群関連遺伝子に関する国際共同研究 | 片野　衣江 | 産科婦人科 | ¥1,000,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 次世代シークエンサーを用いた菌叢解析による感染型不育症の病態解明と治療法の確立 | 北折　珠央 | 産科婦人科 | ¥1,500,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 子宮内膜の脱落膜化不全病態に関わるプロテアーゼの同定及び非侵襲的臨床診断法の開発 | 後藤　志信 | 産科婦人科 | ¥700,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 漿液性卵巣がんの早期再発バイオマーカーとなるDNAメチル化遺伝子の同定 | 間瀬　聖子 | 産科婦人科 | ¥1,500,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 遺伝性腫瘍における医療格差の打開に必要なものとは！？ | 大瀬戸　久美子 | 産科婦人科 | ¥1,100,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 先天異常症候群領域の指定難病等のQOLの向上を目指す包括的研究 | 齋藤　伸治 | 小児科 | ¥800,000 | 補<br>委 | 厚生労働省 |
| 未診断疾患に対する診断プログラムの開発に関する研究 | 齋藤　伸治 | 小児科 | ¥4,000,000 | 補<br>委 | 国立研究開発法人日本医療研究開発 |
| ミトコンドリア病に合併する高乳酸血症に対するピルビン酸ナトリウム治療法の開発研究-試薬からの希 | 齋藤　伸治 | 小児科 | ¥600,000 | 補<br>委 | 国立研究開発法人日本医療研究開発 |
| 希少・難治性疾患領域における臨床ゲノムデータストレージの整備に関する研究 | 齋藤　伸治 | 小児科 | ¥3,600,000 | 補<br>委 | 国立研究開発法人日本医療研究開発 |

小計17件

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 小児神経領域におけるレガシーデータの集積と確認 | 齋藤　伸治 | 小児科 | ¥1,000,000 | 補<br>(委) | 国立研究開発法人日本医療研究開発 |
| がん遺伝子のMYCNの神経発生での役割とその変異により起る新規症候群の病態の解明 | 齋藤　伸治 | 小児科 | ¥1,900,000 | (補)<br>委 | 文部科学省 |
| Schaaf-Yang症候群の発症メカニズム解明と治療法開発 | 根岸　豊 | 小児科 | ¥1,500,000 | (補)<br>委 | 文部科学省 |
| 新規ヨードトランスポーターによる先天性甲状腺機能低下症の疾患概念の確立 | 青山　幸平 | 小児科 | ¥2,200,000 | (補)<br>委 | 文部科学省 |
| 視床下部-下垂体-副腎系の成熟特性から探る発育遅延児の疾病と認知障害の同時予防策 | 岩田　幸子 | 小児科 | ¥2,000,000 | (補)<br>委 | 文部科学省 |
| 遺伝性抱合型ビリルビン血症に対して次世代シークエンサーを用いた病態探索と臨床応用 | 戸川　貴夫 | 小児科 | ¥800,293 | (補)<br>委 | 文部科学省 |
| Late preterm児の周生期ストレスに対する脳循環制御の解明 | 津田　兼之介 | 小児科 | ¥2,000,000 | (補)<br>委 | 文部科学省 |
| 包括的遺伝子解析法による新生児・乳児胆汁うっ滞疾患の原因遺伝子同定 | 遠藤　剛 | 小児科 | ¥1,100,000 | (補)<br>委 | 文部科学省 |
| 新たな根治的粒子線治療を実現する吸収性スペーサーの適応拡大と実用化研究 | 亀井　美智 | 小児科 | ¥769,231 | 補<br>(委) | 国立研究開発法人日本医療研究開発 |
| 網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する調査研究 | 小椋　祐一郎 | 眼科 | ¥400,000 | (補)<br>委 | 国立保健医療科学院 |
| 今後の糖尿病対策と医療提供体制の整備のための研究 | 小椋　祐一郎 | 眼科 | ¥800,000 | (補)<br>委 | 厚生労働省 |
| 次世代眼科医療を目指す、ICT/人工知能を活用した画像等データベースの基盤構築 | 小椋　祐一郎 | 眼科 | ¥300,000 | 補<br>(委) | 国立研究開発法人日本医療研究開発 |
| 糖尿病網膜症における線維血管増殖膜の形成機構の解明 | 小椋　祐一郎 | 眼科 | ¥9,230,000 | (補)<br>委 | 独立行政法人　日本学術振興会 |
| ペリサイト消失による血液網膜関門の不可逆的波状 | 植村　明嘉 | 眼科 | ¥4,290,000 | (補)<br>委 | 独立行政法人　日本学術振興会 |
| 加齢黄斑変性の病態におけるブルッフ膜への加齢性沈着脂質の役割の解明 | 安川　力 | 眼科 | ¥910,000 | (補)<br>委 | 独立行政法人　日本学術振興会 |
| ケモカイン受容体を標的にした眼内血管新生制御機構の解明と新規治療法の開発 | 野崎　実穂 | 眼科 | ¥1,430,000 | (補)<br>委 | 独立行政法人　日本学術振興会 |
| 加齢黄斑変性における脈絡膜新生血管発生と網膜細胞障害の機序解明と臨床への応用 | 平野　佳男 | 眼科 | ¥1,560,000 | (補)<br>委 | 独立行政法人　日本学術振興会 |

小計17件

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 糖尿病黄斑浮腫に対する短時間照射閾値下レーザーの奏功機序と適正サブタイプの解明 | 長谷川　典生 | 眼科 | ¥1,040,000 | 補<br>委 | 独立行政法人　日本学術振興会 |
| 加齢黄斑変性における自然免疫の関与解明と臨床への応用 | 富安　胤太 | 眼科 | ¥2,720,000 | 補<br>委 | 独立行政法人　日本学術振興会 |
| 網膜静脈閉塞症に伴う黄斑浮腫に置けるアンジオポエチンの関与解明と臨床への応用 | 平野　佳男 | 眼科 | ¥1,000,000 | 補<br>委 | 公益財団法人 高齢者眼疾患研究財団 |
| 生体内滞留性ガスを用いた薬物徐放システムの開発 | 小椋　祐一郎 | 眼科 | ¥3,282,000 | 補<br>委 | 国立研究開発法人日本医療研究開発 |
| 糖尿病性網膜症・下肢壊疽等の統合的な重症度評価の作成と合併症管理手法に関する研究 | 安川　力 | 眼科 | ¥2,457,000 | 補<br>委 | 国立研究開発法人日本医療研究開発 |
| 脳磁図を用いた片側良聴耳患者における周波数特異性の検討 | 関谷 健一 | 耳鼻咽喉科 | ¥3,200,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 薬剤耐性頭頸部扁平上皮癌における放射線耐性の検討と新規治療法の開発 | 波多野 芳美 | 耳鼻咽喉科 | ¥3,100,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| siRNAによる制御性B細胞誘導と難治性鼻副鼻腔炎に対する新規治療法に関する研究 | 鈴木 元彦 | 耳鼻咽喉科 | ¥3,300,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 遺伝環境交互作用を考慮した新規頭頸部がん予後予測モデルの構築 | 川北 大介 | 耳鼻咽喉科 | ¥2,900,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 制御性T細胞に着目した頭頸部癌における抗腫瘍免疫の解析と免疫治療への応用 | 的場 拓磨 | 耳鼻咽喉科 | ¥3,100,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 腫瘍溶解ウイルス HF10を用いた唾液腺癌への新たな治療法の開発 | 江崎 伸一 | 耳鼻咽喉科 | ¥3,500,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 唾液腺がんにおける幹細胞の高悪性化と薬剤耐性化メカニズムの解明 | 伊地知 圭 | 耳鼻咽喉科 | ¥3,600,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 鼻粘膜由来組織幹細胞による顔面神経再生の研究 | 濱島 有喜 | 耳鼻咽喉科 | ¥3,600,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 慢性めまいの病態・発症予測因子の解明:前向きコホート研究 | 蒲谷 嘉代子 | 耳鼻咽喉科 | ¥1,700,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 痙攣性発声障害疾患レジストリ開発と運用に関する研究 | 讃岐　徹治 | 耳鼻咽喉科 | ¥1,308,000 | 補<br>委 | 厚生労働省 |
| 免疫制御を可能とする紫外線波長特性の解析－あらたな深紫外光LED光線治療の開発 | 森田明理 | 皮膚科 | ¥2,000,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 乾癬患者の紫外線によるTH17細胞及びｱﾃﾞｨﾎﾟｻｲﾄｶｲﾝへの効果 | 齋藤稚代 | 皮膚科 | ¥1,400,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 光線治療における乾癬患者末梢血のILC2とILC3のバランスの検討 | 西田　絵美 | 皮膚科 | ¥1,100,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |

小計18件

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 芳香族炭化水素受容体によるFICZ代謝を介したUVA防御と皮膚癌発生のメカニズム | 中村　元樹 | 皮膚科 | ¥1,900,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 在宅皮膚科光線療法実用化に向けた性能試験・実証試験 | 森田明理 | 皮膚科 | ¥13,500,000 | 補<br>委 | 国立研究開発法人日本医療研究開発 |
| がん細胞および免疫応答解析に基づくがん免疫療法効果予測診断法の確立 | 森田明理 | 皮膚科 | ¥769,231 | 補<br>委 | 東京慈恵会医科大学<br>AMED |
| 精巣形成不全症候群における精子幹細胞の機能異常の同定と分化機構の解明 | 神沢　英幸 | 泌尿器科 | ¥1,400,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 切断型オステオポンチンを用いた新規腎結石診断バイオマーカーの確立 | 濵本　周造 | 泌尿器科 | ¥2,300,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| Transgenic spermを用いた卵活性化因子PLCζの機能解析 | 窪田　裕樹 | 泌尿器科 | ¥2,000,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 選択的オートファジーを介した新規尿路結石治療薬の開発 | 坂倉　毅 | 泌尿器科 | ¥2,200,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| ベージュ細胞の抗メタボリックシンドローム効果に着目した尿路結石の新規予防薬の開発 | 遠藤　純夫 | 泌尿器科 | ¥2,000,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 前立腺肥大の発生におけるTSP-1が関わる上皮間葉転換メカニズムの解明と臨床応用 | 濱川　隆 | 泌尿器科 | ¥1,200,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 流れストレスと伸展刺激による機能的尿路組織の作製と臨床応用への試み | 丸山　哲史 | 泌尿器科 | ¥1,300,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| ミトコンドリアcyclophilin Dをターゲットとした尿路結石予防法の開発 | 伊藤　靖彦 | 泌尿器科 | ¥1,500,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 尿路結石の新規関連遺伝子Nntによる抑制機構の解明と予防治療への応用 | 宇佐美　雅之 | 泌尿器科 | ¥1,400,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 造精機能障害に対するエピゲノム創薬を目指したヒストン修飾酵素Kdm5aの機能解析 | 西尾　英紀 | 小児泌尿器科 | ¥2,100,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| リアルタイム画像イメージングによる前立腺癌局在診断を応用した臓器温存標的療法 | 永井　隆 | 泌尿器科 | ¥2,100,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 日本の食文化に根差したフラボノイドによる膀胱発がん抑制 | 飯田　啓太郎 | 泌尿器科 | ¥1,100,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 男性不妊症における体細胞異常の解明と次世代に伝播しない新たな遺伝子治療への応用 | 野崎　哲史 | 泌尿器科 | ¥1,600,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 宇宙環境における尿路結石破砕治療の開発にむけた基礎的研究 | 阪野　里佳 | 泌尿器科 | ¥1,300,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 日本の食文化に根差した天然フラボノイドによる膀胱癌抑制メカニズムの解明と臨床応用 | 飯田　啓太郎 | 泌尿器科 | ¥1,000,000 | 補<br>委 | (公財)戸部眞紀財団 |

小計18件

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 腎結石の構造解析による形成機序解明と予防法の開発 | 田中　勇太朗 | 泌尿器科 | ¥250,000 | 補<br>(委) | (公財)愛知腎臓財団 |
| 腎細胞間ネットワークにおける結晶貪食機構の解明と尿路結石の溶解治療の開発 | 田口　和己 | 泌尿器科 | ¥2,000,000 | 補<br>(委) | (公財)武田科学振興財団 |
| リアルタイム画像イメージングとナノ粒子注入療法を応用した前立腺癌に対する臓器温存癌標的療法 | 内木　拓 | 泌尿器科 | ¥500,000 | 補<br>(委) | (公財)愛知県がん研究振興会 |
| 隕石学的手法による尿路結石の形成機序解明とその予防 | 安井　孝周 | 泌尿器科 | ¥5,000,000 | 補<br>(委) | (公財)上原記念生命科学財団 |
| 【科学研究費補助金　基盤C】セルトリ細胞の分化・成熟メカニズムの包括的解明と生殖医療への新展 | 林 祐太郎 | 小児泌尿器科 | ¥1,100,000 | (補)<br>委 | 文部科学省 |
| 【公益財団法人大幸財団第33回海外学術交流特別助成】 第29回ヨーロッパ小児泌尿器科学会総会・学術集会 | 林 祐太郎 | 小児泌尿器科 | ¥120,000 | (補)<br>委 | 公益財団法人大幸財団 |
| 細胞外マトリックス制御による脳梗塞後の内在性神経再生能の促進 | 藤岡　哲平 | 脳神経内科 | ¥500,000 | (補)<br>委 | 文部科学省 |
| HCNPから見たCognitive reserve分子メカニズムの解明 | 松川　則之 | 脳神経内科 | ¥1,100,000 | (補)<br>委 | 文部科学省 |
| 認知症の早期診断・早期治療のための医療機器開発プロジェクト | 松川　則之 | 脳神経内科 | ¥19,298,650 | (補)<br>委 | 国立研究開発法人日本医療研究開発 |
| 選択的脳灌流体外循環下における水素ガスの脳保護効果の検討 | 中井洋佑 | 心臓血管外科 | ¥2,470,000 | (補)<br>委 | 科研費 |
| 心臓血管外科手術に対する水素ガスの手術侵襲軽減効果のメカニズムの基礎実験的解明 | 山田敏之 | 心臓血管外科 | ¥4,160,000 | (補)<br>委 | 科研費 |
| 放射線顎骨壊死の病態と発症リスク因子の解明に関する多施設共同研究 | 渋谷　恭之 | 口腔外科学 | ¥70,000 | (補)<br>委 | 文部科学省 |
| 放射線性多発う蝕の発生機序の解明と予防法に関する多施設共同ランダム化 | 渋谷　恭之 | 口腔外科学 | ¥50,000 | (補)<br>委 | 文部科学省 |
| 放射線性口腔粘膜炎の発症機序の解明と新たな検査法および治療法の樹立 | 宮本　大模 | 口腔外科学 | ¥1,100,000 | (補)<br>委 | 文部科学省 |
| 術後有害事象レジストリによる麻酔後ケアユニットの有用性検証 | 仙頭佳起 | 麻酔科 | ¥500,000 | (補)<br>委 | 文部科学省 |
| 糖尿病患者における術後痛増強への酸感受性イオンチャネルの関与の解析 | 草間宣好 | 麻酔科 | ¥900,000 | (補)<br>委 | 文部科学省 |
| ミクログリアを介したエリスロポエチンの脳保護作用機序の解明と治療薬開発の基盤研究 | 田村哲也 | 麻酔科 | ¥1,000,000 | (補)<br>委 | 文部科学省 |

小計17件

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 糖尿病患者における術後認知機能障害の発症機序の解明と予防法の確立 | 森島徹朗 | 麻酔科 | ¥500,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| アストロサイトのカリウム制御メカニズムに注目した新規脳浮腫治療法の探索 | 加古英介 | 麻酔科 | ¥1,100,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| がん患者における術後認知機能障害の発症機序の解明と予防法の確立 | 佐野文昭 | 麻酔科 | ¥1,200,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 薬物性肝障害におけるホエイペプチドの肝障害保護効果の基礎的研究と臨床応用 | 平手博之 | 麻酔科 | ¥1,600,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 海馬における神経細胞の新生低下に注目した慢性疼痛の発症機序解明 | 祖父江和哉 | 麻酔科 | ¥1,300,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 前頭前皮質機能に着眼した慢性疼痛発症メカニズムの解明と治療への応用 | 徐民恵 | 麻酔科 | ¥1,000,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 蘇生後脳症に対する脳再生治療法の応用を目指した基礎的研究 | 藤掛数馬 | 麻酔科 | ¥1,200,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 陽子線における生物的現象の徹底解明　X線生物学との比較 | 芝本雄太 | 放射線科 | ¥700,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 直線閾値なし(linear-no-threshold)仮説の放射線生物学的検証 | 芝本雄太 | 放射線科 | ¥800,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 孤立性肝細胞癌に対する体幹部定放射線治療の有効性を検証する多施設共同試験 | 石倉聡 | 放射線科 | ¥850,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 切除可能肝細胞癌に対する陽子線治療と外科的切除の非ランダム課比較同時対象試験 | 石倉聡 | 放射線科 | ¥350,000 | 補<br>委 | 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 |
| 早期非小細胞肺がんに対する体幹部定位放射線治療線量増加ランダム化比較試験 | 石倉聡 | 放射線科 | ¥750,000 | 補<br>委 | 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 |
| テクスチャ解析を用いた縦隔腫瘍の新たな画像診断法の確立 | 小澤良之 | 放射線科 | ¥960,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 術前画像のマルチパラメトリック解析による尿管癌手術リスク診断法の樹立と低侵襲治療 | 小澤良之 | 放射線科 | ¥100,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 肺動静脈奇形に対する根治治療:ハイドロコイルによる再開通しない寒栓術の確立 | 下平政史 | 放射線科 | ¥500,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 術前画像のマルチパラメトリック解析による尿管癌手術リスク診断法の樹立と低侵襲治療 | 下平政史 | 放射線科 | ¥96,200 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| テクスチャ解析を用いた縦隔腫瘍の新たな画像診断法の確立 | 下平政史 | 放射線科 | ¥50,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 術前画像のマルチパラメトリック解析による尿管癌手術リスク診断法の樹立と低侵襲治療 | 中川基生 | 放射線科 | ¥900,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |

小計18件

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| テクスチャ解析を用いた縦隔腫瘍の新たな画像診断法の確立 | 中川基生 | 放射線科 | ¥50,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 超音波エラストグラフィによる乳房硬化の評価と患者ケアおよび効果判定モデルの構築 | 浦野みすぎ | 放射線科 | ¥500,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 新しいMRIを用いた腫瘍内低酸素イメージングの開発 | 村井太郎 | 放射線科 | ¥600,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 放射線腸炎に対する半夏瀉心湯の効果 | 村井太郎 | 放射線科 | ¥600,000 | 補<br>委 | 公益財団法人東洋医学研究財団 |
| 表面微細形状を有する脳血管内治療用カテーテルの開発 | 西川祐介 | 脳神経外科 | ¥700,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 心周期における拡散係数の変化量からみた脳および脳腫瘍の硬さの研究 | 山田紘史 | 脳神経外科 | ¥1,000,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 石灰化スコア分類に基づく頚動脈粥腫安定化機構解明のためのオミックス解析の展開 | 片野広之 | 脳神経外科 | ¥1,100,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| リポカリン型プロスタグランジンD合成酵素からみた髄液リンパ系ドレナージの検討 | 間瀬光人 | 脳神経外科 | ¥1,800,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 水分子のターンオーバーからみた特発性正常圧水頭症の病態解明 | 間瀬光人 | 脳神経外科 | ¥800,000 | 補<br>委 | 平成30年度 名古屋市総合リハビリテーション事業団 |
| ホルモン療法抵抗性乳癌における骨髄転移メカニズムの解明と新規分子標的治療薬の開発 | 近藤直人 | 乳腺外科 | ¥1,640,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 乳癌に対する新規治療薬の開発を目的としたマイクロRNA-569ノックダウン療法 | 西本　真弓 | 乳腺外科 | ¥1,090,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 乳癌におけるタキサン耐性機序の解明と新規分子標的治療薬の開発 | 遠藤友美 | 乳腺外科 | ¥1,260,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 糖代謝を標的とした治療抵抗性乳癌に対する新規分子標的治療薬の開発 | 遠山竜也 | 乳腺外科 | ¥2,240,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| オートファジーを誘導する分子RNF5を標的とした乳癌に対する化学療法抵抗性の克服 | 波戸ゆかり | 乳腺外科 | ¥2,240,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| がん医療における自殺ならびに専門的・精神的心理ケアの実態把握 | 明智　龍男 | 精神科 | ¥450,000 | 補<br>委 | 自殺総合対策推進センター |
| 患者特性に応じた薬物療法・精神療法の個別化医療とその臨床試験プロトコルの開発研究 | 明智　龍男 | 精神科 | ¥200,000 | 補<br>委 | 国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED) |
| 乳がん患者の再発不安・恐怖に対するスマートフォン問題解決療法および行動活性化療法の有効性：無作為割付比較試験 | 明智　龍男 | 精神科 | ¥15,078,847 | 補<br>委 | 国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED) |
| 進行がん患者における病状悪化に備えた事前意思決定に関する多施設研究 | 奥山　徹 | 精神科 | ¥900,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |

小計18件

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 摂食障害地域家族会の治療的要素の解明:コホート研究デザインによる症状改善率の評価 | 山田　敦朗 | 精神科 | ¥160,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 自閉スペクトラム症の親に対するスマートフォンによる問題解決療法と効果検証 | 山田　敦朗 | 精神科 | ¥1,500,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 慢性疼痛に対する認知行動療法の治療効果予測因子 | 小川　成 | 精神科 | ¥1,000,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 身体心理学的アプローチを取り入れた看護師のストレスケアプログラムの開発と効果検証 | 中口　智博 | 精神科 | ¥1,100,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 拒絶過敏性を愛着の問題として介入する否定型うつ病の対人関係療法の開発と効果検証 | 今井理紗 | 精神科 | ¥700,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| うつ病の心理教育資料の開発とインターネットを活用した普及事業 | 今井理紗 | 精神科 | ¥300,000 | 補<br>委 | 日本健康アカデミー |
| がん羅漢に伴う心理的成長を促すスマートフォンによる問題解決の開発と効果検証 | 今井　文信 | 精神科 | ¥700,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 慢性めまいの心理学的要因の神経基盤の解明:心理療法前後のfMRI画像研究 | 桑原　絢也 | 精神科 | ¥900,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 慢性疼痛患者の適応過程の分析とACTプログラムの開発 | 酒井　美枝 | 精神科 | ¥800,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 慢性めまいの病態・発症予測因子の解明:前向きコホート研究 | 近藤　真前 | 精神科 | ¥100,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 慢性めまいに対する前庭リハビリの新たなる評価法の開発と治療法の開拓 | 近藤　真前 | 精神科 | ¥100,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |
| 多種能画像による認知症の精神症状とQOLに関する神経ネットワーク障害の解明 | 仲秋　秀太郎 | 精神科 | ¥800,000 | 補<br>委 | 文部科学省 |

小計12件

計184件

（注）1　国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申 請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2　「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3　「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

（様式第3）

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

### 2 論文発表等の実績

### (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の特定機能病院における所属 | 題名 | 雑誌名・出版年月等 | 論文種別 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | Shimura T, Iwasaki H, Kitagawa M, 他 | 消化器内科 | Urinary cysteine-rich protein 61 and trefoil factor 3 as diagnostic biomarkers for colorectal cancer | Transl Oncol.2019 Mar;12 | Original Article |
| 2 | Okuda Y, Shimura T, Yamada T,他 | 消化器内科 | Colorectal obstruction is a potential prognostic factor for stage II colorectal cancer. | .Int J Clin Oncol. 2018 Dec;23 | Original Article |
| 3 | Tanaka M, Kataoka H, Yagi T | 消化器内科 | Proton-pump inhibitor-induced fundic gland polyps with hematemesis. | Clin J Gastroenterol. 2018 Sep 24 | Case report |
| 4 | Okuda Y, Yamada T, Hirata 他 | 消化器内科 | Long-term Outcomes of One Stage Surgery Using Transanal Colorectal Tube for Acute Colorectal Obstruction of Stage II/III Distal Colon Cancer | Cancer Research and Treatment, 2018 Jun 6 | Original Article |
| 5 | Nishie H, Kataoka H, Kato H他 | 消化器内科 | Refractory gastric antral ulcers without Helicobacter pylori infection and non-steroidal anti-inflammatory drugs | Clin J Gastroenterol. 2018 Jun;11 | Case report |
| 6 | Tanida S, Ozeki K, Mizoshita T 他 | 消化器内科 | Trisomy 8-associated intestinal Behçet's disease that achieved complete remission with mesalazine. | J Med Cases.J Med Cases. Aug: 9 2018 | Case report |

小計6件

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 7 | Tanida S, Mizoshita T, Ozeki K他 | 消化器内科 | Combination Therapy With Intensive Granulocyte and Monocyte Adsorptive Apheresis Plus Ustekinumab in Patients With Refractory Crohn's Disease | Ther Apher Dial. 22(3): 295-300, 2018. | Case report |
| 8 | Hori Y, Naitoh I, Hayashi K, 他 | 肝膵内科 | The utility and efficacy of self-expandable metal stents for treating malignant gastric outlet obstructions in patients under best supportive care | Support Care Cancer. 2018 Oct; 26: 3587-3592. | Original Article |
| 9 | Hori Y, Naitoh I, Miyabe K他 | 肝膵内科 | Simultaneous side-by-side bilateral metal stent placement using a colonoscope in a patient with Billroth II reconstruction | Endoscopy. 2018 Aug; 50: E218-E219. | Original Article |
| 10 | Naitoh I, Hori Y. | 肝膵内科 | Post-ERCP Complications in Dialysis Patients: Cutting One's Losses or Expanding Possibilities? | Dig Dis Sci. 2018 Nov; 63: 2826-2828. | Original Article |
| 11 | Kato A, Naitoh I, Miyabe K他 | 肝膵内科 | An Increased Chromosome 7 Copy Number in Endoscopic Bile Duct Biopsy Specimens Is Predictive of a Poor Prognosis in Cholangiocarcinoma. | Dig Dis Sci. 2018 Dec; 63: 3376-3381. | Original Article |
| 12 | Yoshida M, Morimoto M, Kato A,他 | 肝膵内科 | Recanalization of postoperative biliary disconnection with intraductal cholangioscopy-assisted forceps retrieval of rendezvous guidewire | Endoscopy. 2018Dec ;50:E338-E339. | Original Article |
| 13 | Kato A, Naiki-Ito A, Naitoh I, | 肝膵内科 | The absence of class III β-tubulin is predictive of a favorable response to nab-paclitaxel and gemcitabine in patients with unresectable pancreatic ductal adenocarcinoma. | Human Pathology. 2018; 74: 92-98. | Original Article |

小計7件

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 14 | Yoshida M, Marumo Y, Naitoh I, 他 | 肝膵内科 | Autoimmune Hemolytic Anemia obscured by the obstructive jaundice associated with IgG4-related Sclerosing Cholangitis in a patient with Type 1 Autoimmune Pancreatitis: A case report and review of the literature | Intern Med. 2018; 57: 1725-1732. | Case report |
| 15 | Matsuura K, Aizawa N, Enomoto H, 他 | 肝膵内科 | Circulating let-7 levels in serum correlate with the severity of hepatic fibrosis in chronic hepatitis C | Open Forum Infct Dis. 2018 Oct 22;5(11) | Original Article |
| 16 | Nojiri S, Fujiwara K, Matsuura K, 他 | 肝膵内科 | L-carnitine reduces ammonia levels and alleviates covert encephalopathy: A randomized trial | Journal of Translational Science doi: 10.15761/JTS.1000220 2018 Volume 4(3): 1-6 | Original Article |
| 17 | Fujiwara K, Matsuura K, Matsunami K 他 | 肝膵内科 | Characterization of hepatitis B virus with complex structural variations | BMC Microbiol., 18(1):202, 2018 Dec | Original Article |
| 18 | Iio E, Matsuura K, Shimada N, | 肝膵内科 | TLL1 variant associated with development of hepatocellular carcinoma after eradication of hepatitis C virus by interferon-free therapy | J Gastroenterol. 2018 Oct 31. doi: 10.1007/s00535-018-1526-3 | Original Article |
| 19 | Takeuchi A, Kanemitsu Y, Takakuwa O, Ito K,他 | 呼吸器・アレルギー内科 | A suspected case of inflammatory bronchial polyp induced by bronchial thermoplasty but resolved spontaneously. | J Thorac Dis. 10(9), 2018 Sep. | Original Article |
| 20 | Takeuchi A, Oguri T, Yamashita Y, Sone K, 他 | 呼吸器・アレルギー内科 | TTF-1 Expression Predicts the Merit of Additional Antiangiogenic Treatment in Non-squamous Non-small Cell Lung Cancer. | Anticancer Res. 38(9):5489-5495,2018 Sep. | Original Article |

小計7件

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 21 | Takakuwa O, Oguri T, Asano T, Fukuda S,他 | 呼吸器・アレルギー内科 | Prevention of hypoxemia during endobronchial ultrasound-guided transbronchial needle aspiration: Usefulness of high-flow nasal cannula. | Respir Investig. 56(5):418-423, 2018 Sep | Original Article |
| 22 | Okayama M, Kanemitsu Y, Oguri T, Asano T, 他 | 呼吸器・アレルギー内科 | A Rare Case of Isolated Chronic Cough Caused by Pulmonary Lymphangitic Carcinomatosis as a Primary Manifestation of Rectum Carcinoma. | Intern Med. 57(18):2709-2712,2018 Sep | Case report |
| 23 | Kanemitsu Y, Takakuwa O, Fukumitsu K, 他 | 呼吸器・アレルギー内科 | Bronchial Thermoplasty for Severe Asthmatic Cough. | Ann Intern Med. 169(1):61-62, 2018 | Case report |
| 24 | Fukumitsu K, Kanemitsu Y, Asano T,他 | 呼吸器・アレルギー内科 | Tiotropium Attenuates Refractory Cough and Capsaicin Cough Reflex Sensitivity in Patients with Asthma. | J Allergy Clin Immunol Pract. 6(5):1613-1620.e2, 2018. | Original Article |
| 25 | Ohkubo H, Taniguchi H, Kondoh Y, Yagi M, 他 | 呼吸器・アレルギー内科 | A Volumetric Computed Tomography Analysis of the Normal Lung in Idiopathic Pulmonary Fibrosis: The Relationship with the Survival. | Intern Med. 57(7):929-937, 2018. | Original Article |
| 26 | Mori Kento, Goto Toshihiko, Ohte Nobuyuki他 | 循環器内科 | Compensatory Increase in Heart Rate Is Responsible for Exercise Tolerance among Male Patients with Permanent Atrial Fibrillation. | Tohoku J Exp Med.2018 Dec;246(4):265-274. | Original Article |
| 27 | Kato Yukiko, Nakayama Takafumi, Ohte Nobuyuki他 | 循環器内科 | A successful case of percutaneous fistula closure in a patient with high output heart failure and extracardiac arteriovenous fistula. | J Cardiol Cases. 2018 Dec 29;19(4):125-128. | Case report |

小計7件

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 28 | Fukuta H, Ohte Nobuyuki | 臨床研究開発支援センター | The effect of influenza vaccination on mortality and hospitalization in patients with heart failure: a systematic review and meta-analysis. | Heart Fail Rev. 2019 Jan;24(1):109-114. | Review |
| 29 | Nakayama Takafumi, Ohte Nobuyuki他 | 循環器内科 | Dilated Cardiomyopathy with Eosinophilic Granulomatosis with Polyangiitis in Which Active Myocardial Inflammation Was Only Detected by Endomyocardial Biopsy. | Intern Med. 2018 Sep 15;57(18):2675-2679. | Original Article |
| 30 | Kusumoto S, 他 | 血液・腫瘍内科 | Risk of HBV reactivation in patients with B-cell lymphomas receiving obinutuzumab or rituximab immunochemotherapy. | Blood. 2019 Jan 10;133(2):137-146. | Original Article |
| 31 | Ri M, Suzuki K, Iida S,他 | 輸血部 | A Phase I/II Study for Dose-finding, and to Investigate the Safety, Pharmacokinetics and Preliminary Efficacy of NK012, an SN-38-Incorporating Macromolecular Polymeric Micelle, in Patients with Multiple Myeloma. | Intern Med. 2018 Apr 1;57(7):939-946 | Original Article |
| 32 | Iida S, Ichinohe T, Shinagawa A, 他 | 血液・腫瘍内科 | Safety and efficacy of daratumumab in combination with bortezomib and dexamethasone in Japanese patients with relapsed or refractory multiple myeloma. | Int J Hematol. 2018 Apr;107(4):460-467. | Original Article |
| 33 | Iida S, Wakabayashi M, Tsukasaki K, 他 | 血液・腫瘍内科 | Bortezomib plus dexamethasone vs thalidomide plus dexamethasone for relapsed or refractory multiple myeloma. | Cancer Sci. 2018 May;109(5):1552-1561. | Original Article |

小計6件

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 34 | Kanamori T, Kusumoto S, Okita K, 他 | 血液・腫瘍内科 | [Sporadic late-onset nemaline myopathy with monoclonal gammopathy of undetermined significance mimicking POEMS syndrome]. | Rinsho Ketsueki. 2018;59(2):161-166. | Case report |
| 35 | Yoshida T, Ri M, Kinoshita S, 他 | 血液・腫瘍内科 | Low expression of neural cell adhesion molecule, CD56, is associated with low efficacy of bortezomib plus dexamethasone therapy in multiple myeloma. | PLoS One. 2018 May 8;13(5):e0196780. | Original Article |
| 36 | Kinoshita S, Ri M, Kanamori T, 他 | 血液・腫瘍内科 | Potent antitumor effect of combination therapy with sub-optimal doses of Akt inhibitors and pomalidomide plus dexamethasone in multiple myeloma. | Oncol Lett. 2018 Jun;15(6):9450-9456. | Original Article |
| 37 | Kinoshita S, Ishida T, Ito A, 他 | 血液・腫瘍内科 | Cyclin-dependent kinase 9 as a potential specific molecular target in NK-cell leukemia/lymphoma. | Haematologica. 2018 Dec;103(12):2059-2068. | Original Article |
| 38 | Iida S, Izumi T, Aotsuka N, 他 | 血液・腫瘍内科 | [Safety and management of adverse events of ixazomib/lenalidomide/dexamethasone therapy in Japanese patients with relapsed/refractory multiple myeloma]. | Rinsho Ketsueki. 2018;59(11):2399-2407. | Original Article |
| 39 | Kusumoto S. | 血液・腫瘍内科 | [Treatment strategy for newly diagnosed Hodgkin lymphoma: current evidence]. | Rinsho Ketsueki. 2018;59(10):2117-2126. | Review |
| 40 | Ri M. | 輸血部 | [Role of novel proteasome inhibitors in the treatment of relapsed/refractory multiple myeloma]. | Rinsho Ketsueki. 2018;59(10):2162-2168. | Original Article |

小計7件

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 41 | Fujihata Shiro, Kitagami Hidehiko, Yamamoto Minoru 他 | 消化器・一般外科 | A post operative complication of foramen of Winslow hernia with left to right herniation of the small intestine: An extremely rare case report | Internal Journal of Surgery Case Reports. 2018;49:219-222 | Case report |
| 42 | Maeda Yuzo, Takahashi Hiroki, Nakai Nozomu 他 | 消化器・一般外科 | Apigenin induces apoptosis by suppressing Bcl-xl and Mcl-1 simultaneously via signal transducer and activator of transcription 3 signaling in colon cancer. | internal Journal of Oncology. 2018 May;52:1661-1673 | Original Article |
| 43 | Watanabe T, Okuda K, Murase T 他 | 呼吸器外科 | Four immunohistochemical assays to measure the PD-L1 expression in malignant pleural mesothelioma | Oncotarget0, 2018 Apr 9(29):20769-2078 | Original Article |
| 44 | Okuda K, Tatematsu T, Yano M 他 | 呼吸器外科 | The relationship between the expression of thymidylate synthase dihydropyrimidine dehydrogenase, orotate phosphoribosyltransferase excision repair cross-complementation group 1 and class Ⅲ β-tubulin, and the therapeutic effect of S-1 or carboplatin plus paclitaxel in non-small-cell lung cancer | Mol clin oncol9, 2018 Ju 9(1):21-2l | Original Article |
| 45 | Okuda K, Haneda H, Yokota K 他 | 呼吸器外科 | Thymothymectomy with pulmonary partial resection using the subxiphoid approach: how to do it ? | Surg today, 2018 Dec; 48(12):1096-1099 | Original Article |
| 46 | Sakane T, Okuda K, Hattori H 他 | 呼吸器外科 | Blastomatoid pulmonary carcinosarcoma: A rare case report and review of the literature | Thorac Cancer, 2018 Oct 9(10):1323-1326 | Case report |

小計6件

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 47 | Moriyama S, Yano M, Haneda H 他 | 呼吸器外科 | Pure red cell aplasia associated with thymoma: a report of a single-center experience | J Thorasic Dis, 2018;Aug 10(8):5066-5072 | Original Article |
| 48 | Nakanishi R, Fujino Y, Kato M 他 | 呼吸器外科 | arly chest tube removal after thoracoscopic lobectomy with the aid of an additional thin tube: a prospective multi-institutional study | Gen Thorac Cardiovasc Surg, 2018;Dec 66(12):723-73 | Original Article |
| 49 | Oda R, Okuda K, Murase T 他 | 呼吸器外科 | Thymic inflammatory pseudotumor with multilocular thymic cyst caused by immunoglobulin G4-related disease | Thorac Cancer, 2019;Jan 10(1):116-9 | Case report |
| 50 | Okuda K, Haneda H, Yokota K 他 | 呼吸器外科 | The effect of smoking and TP53 mutations on molecular-targeted therapy in lung adenocarcinoma patients | J Thorasic Dis, 2018;Nov 10(Suppl 33):S4013-6 | Others |
| 51 | Okuda K, Haneda H, Yokota K 他 | 呼吸器外科 | Video-assisted thoracoscopic lobectomy for the right side using a single-direction approach | J Thorac Dis, 2019;Jan 11(1):65-7 | Others |
| 52 | Watanabe T, Fukai I, Okuda K 他 | 呼吸器外科 | Talc pleurodesis for secondary pneumo thorax in elderly patients with persistent air leak | J Thorac Dis, 2019;Jan 11(1):171-6 | Original Article |
| 53 | Mizutani J, Verma K, Endo K, Ishii K, Abumi K, Yagi M, Hosogane N, Yang J, Tay B, Deviren V, Ames C. | 整形外科 | Global Spinal Alignment in Cervical Kyphotic Deformity: The Importance of Head Position and Thoracolumbar Alignment in the Compensatory Mechanism. | Neurosurgery. 2018 May 1;82(5):686-694 | Original Article |

小計7件

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 54 | Mizutani J, Inada A, Kato K, Kondo A, Kainuma S, Fujita K, Yagi K, Shimamura Y, Fukuoka M, Shibamoto Y, Wada I, Otsuka T | 整形外科 | Advantages of an on-the-screwhead crosslink connector for atlantoaxial fixation using the Goel/Harms technique. | J Clin Neurosci. 2018 Apr;50:183-189 | Original Article |
| 55 | Horiba M, Ueki Y他 | リハビリテーション科 | Impaired motor skill acquisition using mirror visual feedback improved by transcranial direct current stimulation (tDCS) in patients with Parkinson's Disease. | Frontiers in Neuroscience, in press 2019 Jun 19;13:602 | Original Article |
| 56 | Koide Y: Ueki Y他 | リハビリテーション科 | Differences in postural stability and dynamic visual acuity among healthy young adults in relation to sports activity: a cross sectional study. | J Phys Ther Sci,2019 Jan; 31(1): 53-56. | Original Article |
| 57 | Morimoto H, Asai Y, Ueki Y 他 | リハビリテーション科 | Objective measures of physical activity in patients with chronic unilateral vestibular hypofunction, and its relationship to handicap, anxiety and postural stability. | Auris Nasus Larynx. 2019 Feb; 46(1): 70-77 | Original Article |
| 58 | Ueki Y, Sakuma E, Wada I. | リハビリテーション科 | Pathology and management of flexible flat foot in children. | J Orthop Sci. 2019 Jan; 24(1): 9-13 | Original Article |
| 59 | Watanabe T, Saito K, Ueki Y他 | リハビリテーション科 | Effect of auditory stimulus on executive function and execution time during cognitively demanding stepping task in patients with Parkinson's disease. | Neurosci Lett 674: 101-105, 2018 May | Original Article |
| 60 | Kuroyanagi G, 他 | リハビリテーション科 | Interleukin-6 deletion stimulates revascularization and new bone formation following ischemic osteonecrosis in a murine model. | Bone. 2018 Nov;116:221-231. | Original Article |

小計7件

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 61 | Kuroyanagi G, 他 | リハビリテーション科 | Treatment of Lateral Tibial Condylar Fractures Using Bioactive, Bioresorbable Forged Composites of Raw Particulate Unsintered Hydroxyapatite/Poly-L-Lactide Screws. | Orthopedics. 2018 May 1;41(3):e365-e368. | Original Article |
| 62 | Togawa T, Mizuochi T, Sugiura T, Kusano H, Tanikawa K, Sasaki T, Ichinose F, Kagimoto S, Tainaka T, Uchida H, Saitoh S | 小児科 | Clinical, Pathologic, and Genetic Features of Neonatal Dubin-Johnson Syndrome: A Multicenter Study in Japan | J Pediatr 196:161-167; 2018 | Original Article |
| 63 | Araki S, Kato S(Co-first), Namba F, Ota E. | 小児科 | Vitamin A to prevent bronchopulmonary dysplasia in extremely low birth weight infants: a systematic review and meta-analysis. | PLoS One 13(11): e0207730;2018 Nov (オンライン) | Original Article |
| 64 | Ohshita H, Kawase K, Takagi D, Kondo S, Saitoh S. | 小児科 | Regional Differences in Clinical Features of Kaposiform Hemangioendothelioma of the Intestinal Tract. | J Pediatr Hematol Oncol 40(6):491-493;2018Aug | Case report |
| 65 | Hori I, Miya F, Negishi Y, Hattori A, Ando N, Boroevich KA, Okamoto N, Kato M, Tsunoda T, Yamasaki M, Kanemura Y, Kosaki K, Saitoh S. | 小児科 | A novel homozygous missense mutation in the SH3-binding motif of STAMBP causing microcephaly-capillary malformation syndrome. | J Hum Genet. 63:957-963;2018 Sep | Original Article |
| 66 | Kimura M, Yasukawa T, Ogura Y | 眼科 | A simple lens-sparing technique to treat hypotonic maculopathy secondary to large cyclodialysis. | Am J Ophthalmol Case Rep. 2018 Apr 20;10:300-303. | Original Article |
| 67 | Yasuda Y, Hirano Y, Esaki Y 他 | 眼科 | Peripheral microvascular abnormalities detected by wide-field fluorescein angiography in eyes with branch retinal vein occlusion. | Ophthalmic Res. 2019;61: 107-114. Epub 2018 May 22. | Original Article |

小計7件

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 68 | Higaki M, Nozaki M, Yoshida M, Ogura Y | 眼科 | Less expansion of short-pulse laser scars in panretinal photocoagulation for diabetic retinopathy. | J Ophthalmol. 2018 Apr 19;2018:9371895. doi: 10.1155/2018/9371895. eCollection 2018. | Original Article |
| 69 | Kato F, Nozaki M, Kato A 他 | 眼科 | Evaluation of vavigated laser photocoagulation (Navilas 577+) for the treatment of refractory diabetic macular edema. | J Ophthalmol. 2018 May 2;2018:3978514. doi: 10.1155/2018/3978514. eCollection 2018. | Original Article |
| 70 | Kimura M, Yasukawa T, Shibata Y 他 | 眼科 | Flattening of retinal pigment epithelial detachments after pneumatic displacement of submacular hemorrhages secondary to age-related macular degeneration. | Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2018 Oct;256, 1823-1829. Epub 2018 Jul 1. | Original Article |
| 71 | Usui H, Nishiwaki A, Landiev L 他 | 眼科 | In vitro drusen model: three-dimensional spheroid culture of retinal pigment epithelial cells. | J Cell Sci. 2018 Aug 28;132, jcs215798. | Original Article |
| 72 | Kawamura M, Hirano Y, Yoshida M 他 | 眼科 | Six-month results of intravitreal ranibizumab for macular edema after branch retinal vein occlusion in a single-center prospective study: visual outcomes and microaneurysm formation. | Clin Ophthalmol. 2018 Aug 20;12,1487-1494. eCollectuon 2018. | Original Article |
| 73 | Ogura Y, Shimura M, Iida T 他 | 眼科 | Phase II/III clinical trial of sub-tenon injection of triamcinolone acetonide (WP-0508ST) for diabetic macular edema. | Ophthalmologica. 2019;241:161-169. Epub 2018 Sep 3. | Original Article |
| 74 | 4. Tomiyasu T, Hirano Y, Suzuki N 他 | 眼科 | Structural and functional analyses of retinal ischemia in eyes with retinal vein occlusion: relationship with macular edema or microaneurysm formation. | Ophthalmic Res. 2019;61: 218-225. Epub 2018 Oct 25. | Original Article |

小計7件

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 75 | Suetsugu T, Yasukawa T, Uemura A 他 | 眼科 | Sympathetic ophthalmia in fellow eye after vitrectomy for massive subretinal hemorrhage secondary to polypoidal choroidal vasculopathy. | Int Med Case Rep J. 2018 Oct 30;11:293-296. eCollection 2018. | Original Article |
| 76 | Suzuki N, Hirano Y, Tomiyasu T 他 | 眼科 | Collateral vessels on optical clherence tomography angiography in eyes with branch retinal vein occlusion. | Br J Ophthalmol. 2018 Nov 22. pii: bjophthalmol-2018-313322. doi: 10.1136/bjophthalmol-2018-313322. [Epub ahead of print] | Original Article |
| 77 | Esaki Y, Hirano Y, Yasuda Y 他 | 眼科 | Multimodal imaging in a case of idiopathic neuroretinitis. | Case Rep Ophthalmol. 2018 Dec 4;9,487-492. eCollection 2018 Sep-Dec. | Original Article |
| 78 | Nozaki M, Kato A, Yasukawa T 他 | 眼科 | Indocyanine green angiography-guided focal navigated laser photocoagulation for diabetic macular edema. | Jpn J Ophthalmol. 2019 May;63:243-254. Epub 2019 Feb 24. | Original Article |
| 79 | Yasukawa T, Mori R, Sawa M, Shinojima A 他 | 眼科 | Fundus autofluorescence and retinal sensitivity in fellow eyes of age-related macular degeneration in Japan. | PLoS One. 2019 Feb 28;14:e0213161. eCollection 2019. | Original Article |
| 80 | Motegi M, Inagaki A, Minakata T, Sekiya S, Takahashi M, Sekiya Y, Murakami S. | 耳鼻咽喉科 | Developmental delays assessed using the Enjoji Scale in children with cochlear implants who have intellectual disability with or without autism spectrum disorder. | Auris Nasus Larynx. 2019 Aug;46(4):498-506 Epub 2018 Dec 19. | Original Article |
| 81 | Morimoto H, Asai Y, Johnson EG, Koide Y, Niki J, Sakai S, Nakayama M, 他 | リハビリテーション科 | Objective measures of physical activity in patients with chronic unilateral vestibular hypofunction, and its relationship to handicap, anxiety and postural stability. | Auris Nasus Larynx. 2019 Feb;46(1):70-77. | Original Article |

小計7件

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 82 | Kato H, Watanabe S, Kariya K, 他 | 皮膚科 | Efficacy of low-dose 5-fluorouracil/cisplatin therapy for invasive extramammary Paget's disease | J Dermatol. 2018 May;45(5):560-563. | Original Article |
| 83 | Nakamura M, Haarmann-Stemmann T, Krutmann J, Morita A. | 皮膚科 | Alternative test models for skin ageing research. | Exp Dermatol. 2018 May;27(5):495-500. | Review |
| 84 | Usami Masayuki, Okada Atsushi, Hamamoto Shuzo 他 | 泌尿器科 | Genetic differences in C57BL/6 mouse substrains affect kidney crystal deposition | Urolithiasis. 2018 Nov; 46(6):515-522 | Original Article |
| 85 | Kato Taiki, Moritoki Yoshinobu, Mizuno Kentaro 他 | 泌尿器科 | Association of syringomyelia with lower urinary tract dysfunction in anterior sacral meningocele with a tethered spinal cord: A case report and literature summary | International Journal of Urology. 2018 May; 25(5):515-516 | Case report |
| 86 | Kubota Yasue, Hamakawa Takashi, Osaga Satoshi 他 | 泌尿器科 | A kit ligand, stem cell factor as a possible mediator inducing overactive bladder | Neurourology and Urodynamics. 2018 Apr; 37(4):1258-1265 | Original Article |
| 87 | Hasebe Kenichi, Naiki Taku, Oda Risa 他 | 泌尿器科 | Long-term survival of a patient with pulmonary metastatic urothelial carcinoma following metastasectomy | Urology Case Reports. 2018 Nov; 21:52-55 | Case report |
| 88 | Taguchi Kazumi, Usawachintachit Manint, Tzou T David 他 | 泌尿器科 | Micro-costing analysis demonstrates comparable costs for LithoVue™ compared to reusable flexible fiberoptic ureteroscopes | Journal of Endourology. 2018 Apr; 32(4):267-273 | Original Article |

小計7件

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 89 | Naiki Taku, Iida Keitaro, Etani Toshiki 他 | 泌尿器科 | Gemcitabine and docetaxel as second-line chemotherapy in elderly patients with metastatic urothelial carcinoma: a retrospective analysis | Cancer Management and Research. 2018 Sep; 10:3669-3677 | Original Article |
| 90 | Kato Taiki, Mizuno Kentaro, Nishio Hidenori 他 | 泌尿器科 | Can lichen sclerosus be diagnosed by preputial appearance or symptoms | Research and Reports in Urology. 2018 Sep; 10:89-94 | Original Article |
| 91 | Nagai Takashi, Okamura Takehiko, Katayama Komei 他 | 泌尿器科 | Primary diffuse large B-cell lymphoma of the ileal conduit created after radical cystectomy | IJU Case Reports. 2018 Oct; 1(1):22-24 | Case report |
| 92 | Tanaka Yutaro, Okamura Takehiko, Chaya Ryosuke 他 | 泌尿器科 | Outcomes and complications of simultaneous laparoscopic cystectomy and laparoscopic nephroureterectomy with umbilical reduced port surgery | Asian Pacific Journal of Cancer Prevention. 2018 Des; 19(12):3495-3500 | Original Article |
| 93 | Chaya Ryosuke, Okamura Takehiko, Nagai Takashi 他 | 泌尿器科 | Case of a giant gauzeoma diagnosed 21 years after an inguinal hernia surgery | Journal of Rural Medicine. 2018 Nov; 13(2):177-180 | Case report |
| 94 | Taguchi Kazumi, Harper D Jonathan, Stoller L Marshall 他 | 泌尿器科 | Identifying factors associated with need for flexible ureteroscope repair: a Western Endourology STone (WEST) research consortium prospective cohort study | Urolithiasis. 2018 Nov; 46(6):559-566 | Original Article |
| 95 | Ota Yuya, Naiki Taku, Nakagawa Motoo 他 | 泌尿器科 | Laparoscopic radical surgery produces a good prognosis in an elderly patient with small Wilms' tumor | IJU Case Reports. 2019 Jan; オンライン | Case report |

小計7件

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 96 | Sugino Teruaki, Hamamoto Shuzo, Unno Rei 他 | 泌尿器科 | Effectiveness of ureteroscope-assisted renal puncture for endoscopic combined intrarenal surgery | International Journal of Urology. 2019 Mar; 26(3):424-425 | Original Article |
| 97 | Kato Taiki, Moritoki Yoshinobu, Mizuno Kentaro et al. | 泌尿器科 | Association of syringomyelia with lower urinary tract dysfunction in anterior sacral meningocele with a tethered spinal cord: A case report and literature summary | International Journal of Urology. 2018 May; 25: 515-6 | Case report |
| 98 | Kato Taiki, Mizuno Kentaro, Nishio Hidenori et al. | 泌尿器科 | Can lichen sclerosus be diagnosed by preputial appearance or symptoms | Research and Reports in Urology. 2018 Sep; 10: 89-94 | Original Article |
| 99 | Nishio Hidenori, Iwatsuki Shoichiro, Takada Hideki et al. | 小児泌尿器科 | Scrotal abscess mimicking as intrascrotal liposarcoma. | Urology Case Reports. 2018 Dec; 23: 62-4 | Case report |
| 100 | Oomura M, Uchida Y, Sakurai K, 他 | 脳神経内科 | Miller Fisher Syndrome Mimicking Tolosa-Hunt Syndrome. | Intern Med. 2018 Sep 15;57(18):2735-2738 | Case report |
| 101 | Kawashima S, Ueki Y, Kato T,他 | 脳神経内科 | Reduced striatal dopamine release during motor skill acquisition in Parkinson's disease. | PLoS One. 2018 May 30;13(5)(オンライン) | Original Article |
| 102 | Ikeda T, Yamada K, Ogawa R, 他 | 脳神経内科 | The pathological features of MOG antibody-positive cerebral cortical encephalitis as a new spectrum associated with MOG antibodies: A case report. | J Neurol Sci. 2018 Sep 15;392:113-115 | Case report |

小計7件

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 103 | Aoki Naofumi, Maeda Michnori, Kurata Masashi, Hirose Marina, Ojima Yasutaka | 歯科口腔外科 | Sinus floor elevation with platelet-rich fibrin alone: A Clinical retrospective study of 1-7 years | Journal of Clinical and Experimental Dentistry 2018 Oct 1;10(10):e984-e991 | Original Article |
| 104 | Fukuda M1, Isobe-Sasaki Y1, Sato R,et.al | 腎臓内科 | The angiotensin II type 1 receptor blocker azilsartan can overwhelm the sympathetic nerve activation stimulated by coadministration of calcium channel blockers. | J Renin Angiotensin Aldosterone Syst. 2019 Jan-Mar;20(1) | Original Article |
| 105 | Tamura T, Otulakowski G, Kavanagh B | 麻酔科 | Could nanotechnology make vitamin E therapeutically effective? | Am J Physiol Lung Cell Mol Physiol. 2019 Jan 1;316(1):L1-L5 | Original Article |
| 106 | Asai A, Kako E, Hasegawa T他 | 麻酔科 | Peripheral Nerve Block Provides Effective Analgesia for a Patient with Peripheral Nerve Hyperexcitability Syndrome: Isaacs Syndrome Case Report. | A&A Practice 2018 Nov 15;11(10):268-269 | Case report |
| 107 | Fujikake K, Sawada M, Hikita T他 | 麻酔科 | Detachment of chain-forming neuroblasts by Fyn-mediated control of cell-cell adhesion in the postnatal brain. | The Journal of Neuroscience 2018 May 9;38(19):4598-4609. | Original Article |
| 108 | Hashimoto S, Sugie C, Iwata H, Ogino H, Omachi C, Yasui K, Mizoe JE, Shibamoto Y. | 放射線科 | Recovery from sublethal damage and potentially lethal damage : Proton beam irradiation vs. X-ray irradiation. | Strahlenther Onkol. 2018 Apr;194(4):343-351. | Original Article |
| 109 | Nakajima K, Iwata H, Ogino H, Hattori Y, Hashimoto S, Nakanishi M, Toshito T, Umemoto Y, Iwatsuki S, Shibamoto Y, Mizoe JE. | 放射線科 | Acute toxicity of image-guided hypofractionated proton therapy for localized prostate cancer. | Int J Clin Oncol. 2018 Apr;23(2):353-360. | Original Article |

小計7件

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 110 | Shimohira M, Kawai T, Hashizume T, Muto M, Kitase M, Shibamoto Y. | 放射線科 | Comparison of multileaf collimator and conventional circular collimator systems in Cyberknife stereotactic radiotherapy. Usefulness of Hydrogel-Coated Coils in Embolization of Pulmonary Arteriovenous Malformations. | Cardiovasc Intervent Radiol. 2018 Jun;41(6):848-855. | Original Article |
| 111 | Mizutani J, Inada A, Kato K, Kondo A, Kainuma S, Fujita K, Yagi K, Shimamura Y, Fukuoka M, Shibamoto Y, Wada I, Otsuka T. | 放射線科 | Usefulness of 3D balanced turbo-field-echo MR sequence evaluating the branching pattern of the intrahepatic bile ducts: comparison with drip infusion CT cholangiography. Advantages of an on-the-screwhead crosslink connector for atlantoaxial fixation using the Goel/Harms technique. | J Clin Neurosci. 2018 Apr;50:183-189. | Original Article |
| 112 | Ohno N, Miyati T, Niwa Y, Kan H, Ishida S, Kasai H, Shibamoto Y, Gabata T. | 放射線科 | Novel practical SNR determination method for MRI using double echo with longest second echo time (DELSET). | Br J Radiol. 2018 Jun;91(1086):20170652. | Original Article |
| 113 | Ogawa M, Omata S, Kan H, Arai N, Asai M, Urano M, Shibamoto Y. | 放射線科 | Utility of the variable flip angle 3D fast-spin echo (isoFSE) sequence on 3T MR for diagnosing vertebrobasilar artery dissection. | Radiol Phys Technol. 2018 Jun;11(2):228-234. | Original Article |
| 114 | Ogawa M, Kan H, Arai N, Murai T, Manabe Y, Sawada Y, Shibamoto Y. | 放射線科 | Differentiation between malignant and benign musculoskeletal tumors using diffusion kurtosis imaging. | Skeletal Radiol. 2019 Feb;48(2):285-292. | Original Article |

小計5件

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 115 | Omata S, Ozawa Y, Nakagawa M, Hara M, Shibamoto Y. | 放射線科 | Useful computed tomography features for differentiating between focal atelectasis and pleural dissemination on preoperative evaluations of thymic epithelial tumors. | Eur J Radiol. 2018 Jun;103:38-43. | Original Article |
| 116 | Kan H, Arai N, Takizawa M, Omori K, Kasai H, Kunitomo H, Hirose Y, Shibamoto Y. | 放射線科 | Background field removal technique based on non-regularized variable kernels sophisticated harmonic artifact reduction for phase data for quantitative susceptibility mapping. | Magn Reson Imaging. 2018 Oct;52:94-101. | Original Article |
| 117 | Kawai T, Shimohira M, Suzuki K, Ohta K, Kurosaka K, Hashizume T, Nishikawa H, Muto M, Arai N, Kan H, Shibamoto Y. | 放射線科 | Time-resolved magnetic resonance angiography as a follow-up method for visceral artery aneurysm treated with coil-embolisation. | Pol J Radiol. 2018 Apr 10;83:e137-e142. | Original Article |
| 118 | Ogawa Y, Shibamoto Y, Hashizume C, Kondo T, Iwata H, Tomita N, Ogino H. | 放射線科 | Repeat stereotactic body radiotherapy (SBRT) for local recurrence of non-small cell lung cancer and lung metastasis after first SBRT. | Radiat Oncol. 2018 Jul 28;13(1):136. | Original Article |
| 119 | Miyakawa A, Shibamoto Y, Takemoto S, Hirai T, Serizawa T. | 放射線科 | Low-dose Gamma Knife radiosurgery plus whole-brain radiation therapy for patients with 5 or more brain metastases with or without meningeal dissemination. | Int J Clin Oncol. 2019 Feb;24(2):161-167. | Original Article |
| 120 | Shibamoto Y, Nakamura H. | 放射線科 | Overview of Biological, Epidemiological, and Clinical Evidence of Radiation Hormesis. | Int J Mol Sci. 2018 Aug 13;19(8). pii: E2387. | Original Article |

小計6件

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 121 | Mori Y, Hashizume C, Tsugawa T, Kato S, Shibamoto Y. | 放射線科 | Stereotactic Radiotherapy for Intramedullary Spinal Arteriovenous Malformations. | Cureus. 2018 Jul 2;10(7):e2908. | Original Article |
| 122 | Urano M, Denewar FA, Murai T, Mizutani M, Kitase M, Ohashi K, Shiraki N, Shibamoto Y. | 放射線科 | Internal mammary lymph node metastases in breast cancer: what should radiologists know? | Jpn J Radiol. 2018 Nov;36(11):629-640. | Original Article |
| 123 | Manabe Y, Shibamoto Y, Baba F, Yanagi T, Iwata H, Miyakawa A, Murai T, Okuda K. | 放射線科 | Definitive radiotherapy for hilar and/or mediastinal lymph node metastases after stereotactic body radiotherapy or surgery for stage I non-small cell lung cancer: 5-year results. | Jpn J Radiol. 2018 Dec;36(12):719-725. | Original Article |
| 124 | Hashimoto S, Katsurada M, Muramatsu R, Asai K, Tanaka K, Hayashi K, Kibe Y, Nakajima K, Hattori Y, Iwata H, Mizoe JE, Ogino H. | 放射線科 | Effect of a Device-Free Compressed Shell Fixation Method on Hepatic Respiratory Movement: Analysis for Respiratory Amplitude of the Liver and Internal Motions of a Fiducial Marker. | Pract Radiat Oncol. 2019 Mar;9(2):e149-e155. | Original Article |
| 125 | Hiroshima M, Nakagawa M, Ito Y, Shiba A, Ozawa Y, Shibamoto Y. | 放射線科 | Ultrasonographic findings of Diphyllobothrium nihonkaiense: A case report. | Radiol Case Rep. 2018 Oct 17;14(1):63-65. | Case report |
| 126 | Nakashima M, Sugie C, Wang Z, Kondo T, Manabe Y, Murai T, Shibamoto Y. | 放射線科 | Biological Effects of Continuous Low-Dose-Rate Irradiation in Silkworms and Mice: Growth Promotion and Tumor Transplantability. | Dose Response. 2018 Nov 19;16(4):1559325818811753. | Original Article |

小計6件

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 127 | Takemoto S, Shibamoto Y, Sugie C, Manabe Y, Yanagi T, Iwata H, Murai T, Ishikura S. | 放射線科 | Long-term results of intensity-modulated radiotherapy with three dose-fractionation regimens for localized prostate cancer. | J Radiat Res. 2019 Mar 1;60(2):221-227. | Original Article |
| 128 | Maki H, Maki Y, Shimamura Y, Fukaya N, Ozawa Y, Shibamoto Y. | 放射線科 | Differentiation of Kawasaki Disease From Other Causes of Fever and Cervical Lymphadenopathy: A Diagnostic Scoring System Using Contrast-Enhanced CT. | AJR Am J Roentgenol. 2019 Mar;212(3):665-671. | Original Article |
| 129 | Kan H, Eguchi Y, Tsuchiya T, Kondo T, Kitagawa Y, Mekata Y, Fukuma H, Yoshida R, Kasai H, Kunitomo H, Hirose Y, Shibamoto Y. | 放射線科 | Improvement of Signal Inhomogeneity Induced by Radio-frequency Transmit-related Phase Error for Single-step Quantitative Susceptibility Mapping Reconstruction. | Magn Reson Med Sci. 2019 Feb 25. | Original Article |
| 130 | Urano M, Denewar FA, Okabe R, Komatsu H, Wanifuchi-Endo Y, Toyama T, Shibamoto Y. | 放射線科 | Relapsed multiple myeloma manifesting as extramedullary plasmacytoma of the breast: Imaging findings. | Radiol Case Rep. 2019 Mar 5;14(5):584-587. | Case report |
| 131 | Uchida M, Sugie C, Yoshimura M, Suzuki E, Shibamoto Y, Hiraoka M, Akechi T. | 放射線科 | Factors associated with a preference for disclosure of life expectancy information from physicians: a cross-sectional survey of cancer patients undergoing radiation therapy. | Support Care Cancer. 2019 Mar 25. | Original Article |
| 132 | Nishikawa Y, Tanaka K, Kitamura T, Shibata T, Yamada H, Oomura M, Katano H, Osaga S, Mase M | 脳神経外科 | Selection of appropriate inner catheter for placement of guiding catheter. | Journal of Neuroendvascular Therapy Advanced published date: December 03, 2018 | Original Article |

小計6件

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 133 | Toyama T 他 | 乳腺外科 | A randomized phase II study evaluating pyridoxine for the prevention of hand-foot syndrome associated with capecitabine therapy for advanced or metastatic breast cancer. | Breast Cancer 25(6):729-735, 2018Nov. | Original Article | |
| 134 | Akechi T, Yamaguchi T, Uchida M, 他 | 精神科 | Smartphone problem-solving and behavioural activation therapy to reduce fear of recurrence among patients with breast cancer (SMartphone Intervention to LEssen fear of cancer recurrence: SMILE project): protocol for a randomised controlled trial. | BMJ Open 、2018 Nov (オンライン) | Original Article | |
| 135 | Akechi T1, Kato T, Watanabe N、他 | 精神科 | Predictors of hypomanic and/or manic switch among patients initially diagnosed with unipolar major depression during acute-phase antidepressants treatment. | Psychiatry Clin Neurosci.2019. Feb 73(2):90-91 | Original Article | |
| 136 | Nishioka M, Okuyama T, Uchida M、他 | 精神科 | What is the appropriate communication style for family members confronting difficult surrogate decision-making in palliative care?: A randomized video vignette study in medical staff with working experiences of clinical oncology. | Jpn J Clin Oncol. 2019 Jan 1;49(1):48-56 | Original Article | 小計4件 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 137 | Akechi T, Okuyama T, Onishi J、他 | 精神科 | WITHDRAWN: Psychotherapy for depression among incurable cancer patients. | Cochrane Database Syst Rev. 2018 Nov 22 | Original Article | |
| 138 | Kubota Y, Akechi T, Okuyama T. | 精神科 | Effectiveness of a brief psycho-oncology training program for general nurses: a preliminary study. | Jpn J Clin Oncol. 2018 Jun ;48(6):594-597. | Original Article | |
| 139 | Imai R, Hori H, Itoh M, 他 | 精神科 | Inflammatory markers and their possible effects on cognitive function in women with posttraumatic stress disorder. | J Psychiatr Res. 2018 Jul;102:192-200 | Original Article | |
| 140 | Shiraishi N, Reilly J | 精神科 | Positive and negative impacts of schizophrenia on family caregivers: a systematic review and qualitative meta-summary. | Soc Psychiatry Psychiatr Epidemiol. 2019 Mar;54(3):277-290. | Original Article | |
| 141 | Hasegawa T, Toguri T, Osawa T,他 | 緩和ケアセンター | Opioid Dose and Survival of Patients with Incurable Nonsmall Cell Lung Cancer: A Prospective Cohort Study. | J Palliat Med. 2018 Oct;21(10):1436-1441. | Original Article | 小計5件<br>計141件 |

（注）1　当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2　報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること（筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。）

3　「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4　「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5　「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月（原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない）; 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
（出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月（オンライン掲載月）の後に（オンライン）と明記すること）。
記載例：　Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9　/　Lancet. 2015 Dec（オンライン）

6　「論文種別」欄には、Original Article、Case report, Review, Letter, Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文（任意）

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の特定機能病院における所属 | 題名 | 雑誌名・出版年月等 | 論文種別 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | | Original Article | |
| 2 | | | | | Case report | |
| 3 | | | | | | |
| ～ | | | | | | 計　件 |

（注）1　当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2　記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

（様式第 3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3　高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1)倫理審査委員会の開催状況

| | |
|---|---|
| ①　倫理審査委員会の設置状況 | 有・無 |
| ②　倫理審査委員会の手順書の整備状況 | 有・無 |
| ・　手順書の主な内容<br>名古屋市立大学大学院医学研究科及び医学部附属病院における医学系研究に係わる実施要綱（平成30年3月9日）<br>名古屋市立大学大学院医学研究科及び医学部附属病院における医学系研究倫理審査委員会規程（平成29年7月25日）<br>名古屋市立大学大学院医学研究科及び医学部附属病院における医学系研究倫理審査委員会（IRB）標準業務手順書（平成29年9月19日）<br>目的と適用範囲、責務、構成、委員長の選任方法、開催、成立要件、資料、調査・審議・報告事項、病院長に答申する事項、会議の運営・記録に関する事項、事務局、記録の保存 | |
| ③　倫理審査委員会の開催状況 | 年12回 |

（注）　1　倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に〇印を付けること。
　　2　前年度の実績を記載すること。

(2)利益相反を管理するための措置

| | |
|---|---|
| ①　利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況 | 有・無 |
| ②　利益相反の管理に関する規定の整備状況 | 有・無 |
| ・　規定の主な内容<br>大学として利益相反の指針を示す「利益相反マネジメントポリシー」のもと、「利益相反マネジメント規程」及び「大学院医学研究科医学研究等利益相反委員会規程」を制定し、毎年利益相反に関する自己申告書を提出し、必要に応じ適宜ヒアリングを行っている。利益相反に関する専門 | |

| | |
|---|---|
| 的事項について調査・審議するため、全学的な組織として外部専門家を含めた利益相反委員会を設置している。<br>　なお、医学研究等にかかる利益相反に関しては、医学研究科内に大学院医学研究科医学研究等利益相反委員会を設置し、臨床研究実施前の事前申告、毎年1回の定期申告に基づいて適切な管理を行っている。 | |
| ③　利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況 | 年12回 |

**（注）前年度の実績を記載すること。**

(3)臨床研究の倫理に関する講習等の実施

| | |
|---|---|
| ①　臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況 | 年5回 |
| ・研修の主な内容<br>「臨床研究実施セミナー（12回／年）」のうち、上記に合致する内容の開催状況は以下の5回<br>「臨床研究法の運用について」開催2018/5/16、参加：92名<br>「臨床研究法について」開催2018/8/20、参加：71名<br>「臨床研究法」開催2018/11/19、参加：65名<br>「臨床研究法について」開催2019/1/17、参加：60名<br>「臨床研究法について」開催2019/3/18、参加：54名 | |

**（注）前年度の実績を記載すること。**

（様式第 4）

## 高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

### 1　研修の内容

| |
|---|
| 診療科ごとに各領域の専門医取得を目指す専門的な研修を実施している。また、診療科部長又は部長代理を研修統括者とした指導体制を整備し、目標、指導体制、診療実績、連携施設等を含めた研修プログラムをホームページで明示している。 |

（注）上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

### 2　研修の実績

| | |
|---|---|
| 上記研修を受けた医師数 | 62.8人 |

（注）前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

### 3　研修統括者

| 研修統括者氏名 | 診　療　科 | 役　職　等 | 臨床経験年数 | 特　記　事　項 |
|---|---|---|---|---|
| 兼松　孝好 | 総合内科・総合診療科 | 部長代理 | 26 | |
| 片岡　洋望 | 消化器内科 | 部長 | 30 | |
| 林　香月 | 肝・膵臓内科 | 部長 | 23 | |
| 新実　彰男 | 呼吸器･アレルギー内科 | 部長 | 34 | |
| 難波　大夫 | リウマチ・膠原病内科 | 部長 | 25 | |
| 大手　信之 | 循環器内科 | 部長 | 38 | |
| 田中　智洋 | 内分泌・糖尿病内科 | 部長 | 22 | |
| 飯田　真介 | 血液・腫瘍内科 | 部長 | 32 | |
| 松川　則之 | 脳神経内科 | 部長 | 31 | |
| 濱野　高行 | 腎臓内科 | 部長 | 21 | |
| 瀧口　修司 | 消化器・一般外科 | 部長 | 29 | |
| 中西　良一 | 呼吸器外科 | 部長 | 34 | |
| 三島　晃 | 心臓血管外科 | 部長 | 38 | |
| 近藤　知史 | 小児外科 | 部長 | 39 | |
| 遠山　竜也 | 乳腺外科 | 部長 | 30 | |
| 村上　英樹 | 整形外科 | 部長 | 26 | |
| 杉浦　真弓 | 産科婦人科 | 部長 | 34 | |
| 齋藤　伸治 | 小児科 | 部長 | 34 | |
| 小椋　祐一郎 | 眼科 | 部長 | 39 | |
| 稲垣　彰 | 耳鼻いんこう科 | 部長代理 | 20 | |
| 鳥山　和宏 | 形成外科 | 部長 | 30 | |
| 森田　明理 | 皮膚科 | 部長 | 30 | |
| 安井　孝周 | 泌尿器科 | 部長 | 25 | |
| 林　祐太郎 | 小児泌尿器科 | 部長 | 35 | |
| 明智　龍男 | 精神科 | 部長 | 28 | |
| 芝本　雄太 | 放射線科 | 部長 | 39 | |
| 祖父江　和哉 | 麻酔科 | 部長 | 26 | |
| 間瀬　光人 | 脳神経外科 | 部長 | 34 | |
| 渋谷　恭之 | 歯科口腔外科 | 部長 | 30 | |
| 植木　美乃 | リハビリテーション科 | 部長代理 | 22 | |
| 高橋　智 | 病理診断部 | 部長 | 29 | |
| 笹野　寛 | 救急科 | 部長 | 32 | |

（注）1　医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
（注）2　内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。
（注）3　外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（様式第 4）

## 高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

### 4　医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

| |
|---|
| ①　医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意） |
| 別紙1,2参照 |
| ②　業務の管理に関する研修の実施状況（任意） |
| ・研修の主な内容<br>①災害対策講演会<br>②接遇講演会<br>③コンプライアンス・ハラスメント講演会<br>④災害講演会「平成28年熊本地震における基幹災害拠点病院の対応」<br>⑤個人情報保護研修会<br>⑥保険診療に関する講演会<br>・研修の期間・実施回数<br>①5月29日　②9月6日　③10月30日　④12月18日　⑤⑥1月29日<br>・研修の参加人数<br>①　418人　②130人　③109人　④　181人　⑤⑥164人 |
| ③　他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況 |
| 別紙3参照 |

（注）1　高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。
（注）2　「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

（様式第 5）

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

| | |
|---|---|
| 計画・現状の別 | 1．計画　2．現状 |
| 管理責任者氏名 | 病院長　小椋　祐一郎 |
| 管理担当者氏名 | 事務課長　青山　賢二 |

| | | | 保管場所 | 管理方法 |
|---|---|---|---|---|
| 診療に関する諸記録 | 規則第二十二条の三第二項に掲げる事項 | 病院日誌 | 事務課 | 処方箋、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、入院診療計画書等は電子カルテ内で一元管理している。平成16年以前の電子カルテ導入前の記録については、処方箋を除き病歴センターで保管している。<br>診療録等を持ち出す際は、データの暗号化や外部記録媒体の管理の徹底を行うようしている。（「名古屋市立大学病院個人情報保護管理要領」等） |
| | | 各科診療日誌 | 電子カルテサーバー、過去分は病歴センター | |
| | | 処方せん | 電子カルテサーバー、過去分は病歴センター | |
| | | 手術記録 | 電子カルテサーバー、過去分は病歴センター | |
| | | 看護記録 | 電子カルテサーバー、過去分は病歴センター | |
| | | 検査所見記録 | 電子カルテサーバー、過去分は病歴センター | |
| | | エックス線写真 | 電子カルテサーバー、過去分は病歴センター | |
| | | 紹介状 | 電子カルテサーバー、過去分は病歴センター | |
| | | 退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書 | 電子カルテサーバー、過去分は病歴センター | |
| 病院の管理及び運営に関する諸記録 | 規則第二十二条の三第三項に掲げる事項 | 従業者数を明らかにする帳簿 | 事務課 | |
| | | 高度の医療の提供の実績 | 事務課、医事課 | |
| | | 高度の医療技術の開発及び評価の実績 | 事務課、教育研究課 | |
| | | 高度の医療の研修の実績 | 事務課、教育研究課 | |
| | | 閲覧実績 | 事務課 | |
| | | 紹介患者に対する医療提供の実績 | 医事課 | |
| | | 入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿 | 医事課、薬剤部 | |
| | 規則第一条の十一第一項に掲げる事項 | 医療に係る安全管理のための指針の整備状況 | 医療安全管理室 | |
| | | 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況 | 医療安全管理室 | |
| | | 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況 | 医療安全管理室 | |
| | | 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況 | 医療安全管理室 | |

| | | | 保管場所 | 管理方法 |
|---|---|---|---|---|
| 病院の管理及び運営に関する諸記録 | 規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項 | 院内感染対策のための指針の策定状況 | 感染制御室 | |
| | | 院内感染対策のための委員会の開催状況 | 感染制御室 | |
| | | 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況 | 感染制御室 | |
| | | 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況 | 感染制御室 | |
| | | 医薬品安全管理責任者の配置状況 | 薬剤部、医療安全管理室 | |
| | | 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況 | 薬剤部 | |
| | | 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況 | 薬剤部 | |
| | | 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | 薬剤部、医療安全管理室 | |
| | | 医療機器安全管理責任者の配置状況 | 臨床工学室、医療安全管理室 | |
| | | 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況 | 臨床工学室 | |
| | | 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況 | 臨床工学室 | |
| | | 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | 臨床工学室、医療安全管理室 | |

| | | | 保管場所 | 管理方法 |
|---|---|---|---|---|
| 病院の管理及び運営に関する諸記録 | 規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項 | 医療安全管理責任者の配置状況 | 医療安全管理室 | |
| | | 専任の院内感染対策を行う者の配置状況 | 感染制御室 | |
| | | 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 | 薬剤部 | |
| | | 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況 | 医療安全管理室 | |
| | | 診療録等の管理に関する責任者の選任状況 | 事務課、医事課 | |
| | | 医療安全管理部門の設置状況 | 医療安全管理室 | |
| | | 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況 | 医療安全管理室 | |
| | | 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況 | 医療安全管理室 | |
| | | 監査委員会の設置状況 | 医療安全管理室 | |
| | | 入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況 | 医療安全管理室 | |
| | | 他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況 | 医療安全管理室 | |
| | | 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況 | 医事課<br>医療安全管理室 | |
| | | 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況 | 監査室、医療安全管理室 | |
| | | 職員研修の実施状況 | 総務課<br>事務課<br>教育研究課<br>中央臨床検査部<br>中央放射線部<br>薬剤部<br>臨床工学室<br>医療安全管理室<br>感染制御室<br>臨床研究開発支援センター<br>看護部<br>医事課 | |
| | | 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況 | 薬剤部<br>臨床工学室<br>医療安全管理室 | |
| | | 管理者が有する権限に関する状況 | 総務課、財務課、事務課 | |
| | | 管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況 | 監査室、事務課 | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況 | 総務課、事務課 | |

（注）「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

（様式第 6）

## 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

| | | |
|---|---|---|
| 計画・現状の別 | １．計画　[2]．現状 | |
| 閲覧責任者氏名 | 事務課長　青山　賢二 | |
| 閲覧担当者氏名 | 事務係長　西村　宏久 | |
| 閲覧の求めに応じる場所 | 事務課事務係 | |
| 閲覧の手続の概要<br>記録の閲覧に関する責任者、担当者及び閲覧の求めに応じる場所を定め、閲覧の求めに応じる場所の入り口に掲示をしている。閲覧の求めがあった際は、閲覧責任者の許可のもと、閲覧担当者にて諸記録の公開を行う。 | | |

（注）既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

| | | |
|---|---|---|
| 前年度の総閲覧件数 | | 延　0　件 |
| 閲覧者別 | 医師 | 延　0　件 |
| | 歯科医師 | 延　0　件 |
| | 国 | 延　0　件 |
| | 地方公共団体 | 延　0　件 |

（注）特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

## 規則第１条の11第１項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

| ① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況 | 有・無 |
|---|---|
| ・ 指針の主な内容：<br>1. 医療機関における安全管理に関する基本的考え方<br>2. 安全管理委員会・その他の組織に関する基本的事項<br>3. 医療に係る安全管理のための職員研修に関する基本方針<br>4. 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針<br>5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針<br>6. 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針<br>7. 患者からの相談への対応に関する基本方針<br>8. その他医療安全の推進のために必要な基本方針 | |
| ② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況 | |
| ・ 設置の有無（ 有・無 ）<br>・ 開催状況：年 12回<br>・ 活動の主な内容：<br>(1) 医療事故の調査、分析及び再発防止策に関すること<br>なお、特定機能病院である本院管理者が定める水準以上の事象（「医療事故発生時の対応」に定める＜報告すべき「医療事故」の定義＞に定める事象をいう。）が発生した場合の報告が適切に実施されているかを確認し、結果を本院管理者に報告する。報告が不十分な場合は報告が適切になされるよう研修・指導等を行う。<br>(2) 医療に係る安全管理のための職員研修及び広報に関すること<br>(3) 医療事故等の公表に関すること<br>(4) その他医療に係る安全管理に関すること | |
| ③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況 | 年12回 |
| ・ 研修の内容（すべて）：（別紙4を参照）<br>新規採用者を対象に新規採用者研修会<br>中途採用者を対象に中途採用者研修会を年3回実施<br>医薬品管理研修会として麻薬講習会を年1回実施<br>全職員を対象とした外部講師による講演の医療事故防止講演会を年2回、重大事故事例の周知徹底を図る危機管理研修会を年2回実施<br>その他安全な医療技術の取得等に関する研修会としてPICC研修会等を開催 | |
| ④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況 | |
| ・ 医療機関内における事故報告等の整備 （ 有・無 ）<br>・ その他の改善のための方策の主な内容：<br>・リスクマネージメントマニュアルの定期的な見直し（追録・修正）<br>・安全管理に関する自己点検評価報告書の策定・まとめ<br>・事故収集による分析（定量および定性分析）・対策・実施<br>・リスクマネージメントニュースの発行<br>・eラーニングの実施<br>・院内医療安全巡視<br>・医療安全全国共同行動参加にてワーキング活動<br>・暴力対策の実施 | |

（注）前年度の実績を記入すること。

## 規則第１条の 11 第２項第１号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

| ① 院内感染対策のための指針の策定状況 | 有・無 |
|---|---|

・ 指針の主な内容：

1 院内感染対策に関する基本的考え方
患者とその家族、職員、委託職員、学生等院内すべての人々を院内感染から守るための効果的予防及び管理を実践する。手指衛生をはじめとする標準予防策、あるいは必要に応じて感染経路別予防策を追加しての実践や、抗菌薬の適正使用を推進できるよう、医療従事者全員に指導・教育を徹底する。また、最新情報に基づき現行の感染対策を常に評価し改善していく。
2 院内感染対策のための組織に関する基本事項
3 院内感染のための従事者に対する研修に関する基本方針
4 感染症の発生状況の報告に関する基本方針
5 院内感染発生時の対応に関する基本方針
6 患者等に対する該当指針の閲覧に関する基本方針
7 本指針の周知ならびに見直し及び改訂

| ② 院内感染対策のための委員会の開催状況 | 年 12 回 |
|---|---|

・ 活動の主な内容：

感染対策委員会は、院内における感染症の感染予防対策に関する次の事項について審議し、方針を決定する。
(1) 感染防止対策マニュアルの策定及び変更
(2) 全職員を対象とした感染防止教育と啓発
(3) 各職種、各部門の予防対策に関し、必要と思われる事項
(4) 職業感染予防の策定
(5) 院内感染発生時の改善策について病院職員への周知
(6) その他管内感染に関する重要事項

| ③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況 | 年 30 回 |
|---|---|

・ 研修の内容（すべて）：
1 院内感染対策講演会
① 平成30年6月11日・15日 当院における感染対策の現状と課題
「この機会に確認しよう！消毒・滅菌の基本」
「知っておこう！新型インフルエンザ対策」
「抗菌薬適正使用チーム（AST）活動スタート！」

② 平成30年12月13日 （DVD講習）12月17日、19日
「肺結核の早期診断と感染対策の実際～我が身と病院を守る為に知っておくべきこと～」

2 抗菌薬適正使用支援講演会
平成31年1月17日 「看護師はAS活動のみはりばん！」「血液培養はASの命！」
「本当に必要？カルバペネム」「尿路感染における抗菌薬適正使用」
「３世代セフェム、キノロン経口薬の使用量～ランキング発表～」

3 新規採用者研修
平成30年4月3日 院内感染対策についての講義、手洗い・個人防護具着脱演習

4 中途採用者研修
平成30年5月～平成31年3月の1回/月 計11回
「感染予防対策」「血流感染対策と標準予防策」講義、手洗い演習

5 その他
医師事務補助者研修 平成30年5月18日、11月2日
滅菌委託業務者研修 平成30年6月13日
清掃業務職員研修 平成30年10月26日、30日
委託業者研修 平成30年12月27日

6　NCU Infection Seminar
①　平成30年5月9日　「AMRの時代だからこそ抗菌薬適正使用のために知っておきたいこと」
②　平成30年7月11日　「院内感染と分子疫学」
③　平成30年9月12日　「CDI感染症診療を考える」
④　平成30年11月14日　「インフルエンザUp-To-Date」
⑤　平成31年1月9日　「CERアウトブレイクを経験して学んだこと～そして今～」
⑥　平成31年3月13日　「真菌感染症の院内感染制御～抗真菌薬適正使用活動（AFS）を含めて～」

④　感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

・　病院における発生状況の報告等の整備　（　有・無　）
・　その他の改善のための方策の主な内容：

・感染制御室を中心とした感染対策チーム（ICT）に、微生物検出状況、現場での感染症状を呈する患者の状況が報告される。ICTは横断的活動の権限をもって、状況確認、情報収集、対策の検討をし、現場の実施に対して指導・助言をする。
・院内の分離菌発生と薬剤感受性の把握をし、微生物ラウンドにより耐性菌等に対する診療支援や感染対策の分析・検討をしている。平成30年度の微生物ラウンドは133回行った。
・ICTにより現場の環境ラウンドを実施（部署別ラウンド42部署、目的別ラウンド312部署）し、感染対策上の問題の早期改善に努めている。
・抗菌薬適正使用支援チーム（AST）により、抗菌薬の使用動向を監視し、適正使用に向けた診療支援を行う。平成30年度の抗菌薬ラウンドは、早期モニタリング1594件、長期モニタリング389件行った。
・職業感染防止策を積極的に導入・実践していくことで、職員が感染源となる感染予防対策を強化する。
・感染対策に関するコンサルテーションや感染症診療・抗菌薬使用に関して、医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師が3198件に対応し、診療支援や部署の感染対策の課題につなげている。

（注）前年度の実績を記入すること。

## 規則第１条の11第２項第２号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

| | |
|---|---|
| ①　医薬品安全管理責任者の配置状況 | 有・無 |
| ②　従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況 | 年3回 |

・研修の主な内容：

新人看護師向け薬剤研修会（2回）　参加者　126名

① 平成30年4月8日（月）　9時00分～ 9時50分（病院大ホール）　参加者　126名

② 平成30年4月10日（水）9時00分～ 9時50分（病院大ホール）　参加者　126名

内容：管理が必要な医薬品・与薬時の注意点・薬剤師による情報提供など（調剤担当薬剤師）

医薬品安全管理講習会（1回）　参加者 312名

平成30年7月12日（木）17時30分～18時30分（病院大ホール）

内容：麻薬の取扱いについて（麻薬業務担当薬剤師）

がん性疼痛における薬物療法　－麻薬編－（緩和ケア担当薬剤師）

③　医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況

・　手順書の作成　　（ 有・無 ）

・　手順書の内訳に基づく業務の主な内容：

〔１〕医薬品の安全管理の業務内容

１．医薬品安全管理責任者（薬剤部長）

医薬品安全管理責任者は、医薬品の安全使用のための研修の実施、医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び手順書に基づく業務の実施、医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集を行い医薬品に関わる安全確保に努める。

２．医薬品安全管理実施担当者（医薬品情報係長）

医薬品安全管理実施担当者は、医薬品の安全使用のための業務に資する医薬品に関する情報の整理、周知及び当該周知の状況の確認、未承認等の医薬品の使用に対し、当該未承認等の医薬品の使用の状況の把握のための体系的な仕組みの構築並びに当該仕組みにより把握した未承認等の医薬品の使用の必要性等の検討の状況の確認、必要な指導及びこれらの結果共有を行う。

３．医薬品担当者（各部門の医師、看護師、薬剤師）

医薬品担当者は、医薬品安全管理のための業務手順書に基づいて業務が確実に実施されてい

ることを把握し、適切に行われていない場合には改善、指導を行う。

〔２〕医薬品の安全管理の項目

１．　薬剤部の業務

２．　医薬品の採用

３．　医薬品の管理

４．　病棟・各部門への医薬品の供給

５．　外来患者への医薬品の供給

６．　入院患者への医薬品の供給

７．　入院患者への医薬品の情報提供

８．　医薬品情報の収集・管理・提供

９．　他の医療機関・調剤薬局との連携

１０．抗がん剤の管理・調製

１１．感染対策

１２．中心静脈栄養（TPN）調製

１３．入院時の持参薬

１４．危険薬

１５．処方せんの記載方法

④　医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

・　医薬品に係る情報の収集の整備　　（　有・無　）

1.　未承認薬

医薬品情報管理係による情報収集および管理を実施している（医師からの院内製剤等の相談については、薬務製剤係が窓口となる）。周知が必要な情報については、情報誌や病院ニュース等による情報提供を行っている。また、特に重要な情報については病棟担当薬剤師（医薬品担当者）による個別情報提供を行う。

2.　適応外使用薬

医薬品情報管理係による情報収集および管理を実施している。周知が必要な情報については、情報誌や病院ニュース等による情報提供を行っている。また、特に重要な情報については病棟担当薬剤師（医薬品担当者）による個別情報提供を行う。

3.　禁忌薬

医薬品情報管理係による情報収集および管理を実施している。周知が必要な情報については、

情報誌や病院ニュース等による情報提供を行っている。また、特に重要な情報については病棟担当薬剤師（医薬品担当者）による個別情報提供を行う。

4. その他の情報（添付文書の情報、関係機関等からの情報）の収集

製薬メーカー担当者から添付文書改訂情報を入手する。新薬等の場合は詳細情報収集のため当該製薬メーカーからヒアリングを実施する。医薬品医療機器総合機構HPの添付文書情報を定期的にダウンロードして電子カルテシステム上で提供している。

・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：

滅菌墨汁 5mL：内視鏡検査時の胃・腸粘膜への点墨（術前マーキング）

・ その他の改善のための方策の主な内容：

1. 静注用カリウム製剤のシリンジポンプ注入法の確立

ICUCCUなどの部門での水分制限がある患者に対するカリウム補正を行う場合の安全な手順（適応、調製含む投与方法など）を確立した。

2. 医薬品適正使用のための注意喚起

薬事委員会において、本院で発生した有害事象についての報告および再発防止対策の周知を適宜実施している。平成30年度は3薬品につき3件の報告があり、うち1件がPMDAに報告された。

3. 医療安全全国共同行動への取り組み

医療安全全国共同行動の「医薬品の誤投与防止」への取り組みに沿った改善活動として、医師・薬剤師・看護師等の多職種による検討を行い、以下の点について実施した。

重症管理病棟以外における鎮静薬の取り扱い

一般病棟での鎮静剤使用に関して、推奨される基準（モニタリング項目、モニタリング間隔、ドクターコール基準、急変への備えなど）を定めた。

対象薬：催眠鎮静薬（ミダゾラム注）、全身麻酔・鎮静用薬（プレセデックス静注、ディプリバン注、プロポフォール注）

4. 免疫チェックポイント阻害薬の副作用マネジメント

免疫チェックポイント阻害薬による免疫関連有害事象（irAE）の早期発見を目的として、化学療法部を中心に投与時の必須モニタリング項目を定め、確認の徹底を図っている。

5. 内服抗がん剤使用患者に対する薬剤師外来

平成27年9月より、内服抗がん剤使用開始患者を対象とした薬剤師外来を開始した。対象は「外来にて開始する内服抗がん剤処方（院内、院外処方ともに）」とし、医師からの依頼を受け薬剤師が面談を行う形式とした。平成30年度の実施件数は759件（注射抗がん剤指導が289件、内服抗がん剤件数が470件）であった。

6. 患者サポートセンターでの持参薬確認

これから入院される方への案内と入院当日の受付、入院時の持参薬確認を集約して一か所で行う「患者サポートセンター」を設置し、持参薬管理を目的とした薬剤師による面談を全入院予定患者で実施している。薬剤師による面談は入院時だけでなく、入院決定日にお薬手帳などの情報をもとに術前中止薬を把握することを目的とする「入院前の服用薬確認」も実施されており、これらの運用により持参薬の服用状況および術前休止薬の確認が実施されるため、院内全体での持参薬に関する情報の共有・安全管理が可能となった。

平成30年度の服用薬確認件数：入院時 9176件、入院前 6578件

7. 薬薬連携の取り組み

薬薬連携のための地域の薬剤師会の薬剤師との検討会を定期的に実施して、疑義照会事例・新規採用薬情報・地域連携ｸﾘﾆｶﾙﾊﾟｽ（がん地域連携ﾊﾟｽ）などについて意見交換を行っている。

また、呼吸器内科と協働して、地域の保険薬局の薬剤師を対象とした吸入指導講習会（吸入指導ネットワーク）を実施している。

薬薬連携協議会：2018.6、2018.9、2018.12、2019.3の計4回開催

吸入指導ネットワーク講習会：2018.9および2019.3の2回実施（各50名ほどの参加）

8. 部門ごとの医薬品管理者の選定

部門ごとに医師・看護師・薬剤師の３者の医薬品管理者を選定し、医薬品適正管理（定数医薬品の見直しを含む）を実施している。さらに薬剤師の医薬品管理者からは、毎月発行の「医薬品情報誌」を用いた医師、看護師への情報提供も行っている。平成23年度からは部門における医薬品管理の問題点の収集と情報共有を目的として、医薬品管理者（医師・看護師・薬剤師）による３者ミーティングも実施している。３者ミーティングの記録内容については定期的に医薬品安全管理責任者が内容を把握している。

（注）前年度の実績を記入すること。

## 規則第１条の11第２項第３号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

| | |
|---|---|
| ①　医療機器安全管理責任者の配置状況 | 有・無 |
| ②　従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況 | 年243回 |
| ・　研修の主な内容：（別紙5参照）<br>Ⅰ．新しい医療機器導入時の在職職員に対する取扱研修。<br>Ⅱ．人工心肺装置、人工呼吸器、保育器、診療用高エネルギー放射線発生装置等の特に安全使用に際して技術の習熟が必要と考えられる医療機器に関する在職職員に対する取扱研修。<br>Ⅲ．新規採用職員や中途採用職員に対する医療機器安全使用のための研修、新規採用職員へのシリンジポンプ、輸液ポンプ等の医療機器の取扱研修及び在職職員に対する随時研修。 | |
| ③　医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況 | |
| ・　医療機器に係る計画の策定　（　有・無　）<br>・　機器ごとの保守点検の主な内容：<br>Ⅰ．人工呼吸器、除細動器、保育器等のMEセンター管理機器については、使用後MEセンターに返却の都度もしくは一定の点検期間毎に、保守点検を実施している。<br>Ⅱ．診療用高エネルギー放射線発生装置などその他の医療機器については、業者による定期点検を実施している。 | |
| ④　医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | |
| ・　医療機器に係る情報の収集の整備　（　有・無　）<br>・　未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：<br><br>小児腫瘍に対する放射線治療のためのスペーサーの留置<br>腕頭動脈瘤に対するステントグラフト内挿術及びバイパス術<br><br>・　その他の改善のための方策の主な内容：<br>Ⅰ．（ⅰ）医療機器に係る院内のインシデント・アクシデント情報、（ⅱ）メーカーから直接寄せられるリコール情報、（ⅲ）医薬品医療機器総合機構から発信される情報等については、医療安全管理室へ一元的に集約され、同室及び臨床工学室が中心となり各部署への情報発信及び対策を実施している。<br>Ⅱ．機器の安全使用の観点から、中央管理する機器については、標準化を図っている。<br>Ⅲ．医療機器の使用に係る医療事故の発生を防ぐことを目的として作成した医療機器使用マニュアルの適宜見直しを行った。 | |

（注）前年度の実績を記入すること。

## 規則第９条の２０の２第１項第１号から第１３号に掲げる事項の実施状況

| ① 医療安全管理責任者の配置状況 | 有・無 |
|---|---|

・責任者の資格（医師・歯科医師）
・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況

医療安全管理責任者は、医療安全管理委員会委員長として委員会を運営し、病院全体の安全管理体制の確保の徹底を図るとともに、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の業務を統括し、安全管理に関する病院全体の責務を担う。

| ② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況 | 有（ 8名）・無 |
|---|---|

③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況

・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況

1. 院内の医薬品使用状況の確認

- 医療安全管理室にて院内での医薬品使用状況についての疑問点を把握した場合、医療安全管理室の薬剤師（主査）から医薬品安全管理実施担当者（医薬品情報係長）に報告される。
- 医薬品の発注・購入を担当している薬務係長は医薬品の購入状況を精査し、通常と異なる使用状況等の有無について月１回程度確認し、疑問点がある場合は医薬品安全管理実施担当者に連絡する。
- 調剤を担当する薬剤師が調剤時に通常とは異なる使用状況等の疑問を持った場合、医薬品安全管理実施担当者に情報を伝える。
- 医薬品担当者（各部門の医師、看護師、薬剤師）は、各部門での医薬品の使用状況に係る情報収集を行い、適宜医薬品安全管理実施担当者へ伝達を行う。

2. 各種情報の整理

- 1.で収集された情報に対して、医薬品安全管理実施担当者は報告者および医薬品担当者と協力して使用状況の詳細な把握を行う。
- また、医薬品安全管理実施担当者は、緊急安全性情報・安全性速報などの安全性情報の内容を確認し、必要に応じて院内の医薬品の使用状況を把握する。

3. 医薬品安全管理責任者への報告

- 医薬品安全管理実施担当者は必要に応じて、把握した医薬品の使用状況情報について医薬品安全管理責任者（薬剤部長）に報告を行う。
- 医薬品安全管理責任者はその報告をもとに、院内への情報周知・運用上の提案・オーダ時の制

御などの対策を検討し実施する。

・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況

1. 処方した医薬品が未承認等に該当するか否かの把握

- 医薬品担当者は、各部門での未承認等の医薬品の使用に係る情報収集を行い、適宜医薬品安全管理実施担当者へ伝達を行う。
- 調剤を担当する薬剤師が、調剤時に適応外使用等の疑問を持った場合、該当部門の医薬品担当者や医薬品安全管理実施担当者に情報を伝える。
- 診療報酬審査委員会での査定情報については、病棟主査および医薬品担当者が把握し、必要に応じて医薬品安全管理実施担当者に情報を伝える。

2. リスク検討の有無、処方の妥当性等の確認

- 医薬品安全管理実施担当者は必要に応じて、1.で収集された医薬品の使用状況情報について医薬品安全管理責任者（薬剤部長）に報告を行う。その際、国内承認の有無、投与経路、診療ガイドラインへの記載の有無、文献報告のエビデンスレベルなどをもとに妥当性が検討される。

3. 処方した医師等に対し処方変更等の提案、医薬品安全管理者への報告

- 医薬品安全管理責任者は検討の内容をもとに、医師に対する確認（代替治療の有無・臨床倫理委員会への申請等）を行う。また、院内への情報周知・運用上の提案・オーダ時の制御などの対策を実施する。

・担当者の指名の有無（有・無）

・担当者の所属・職種：（所属：薬剤部医薬品情報係長　，職種　薬剤師）

| ④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況 | 有・無 |
|---|---|

・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無　（ 有・無 ）

・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：セーフティーマネージャーで構成された医療安全全国行動ワーキンググループにおいて、診療録の確認を行う。またインシデントが発生した際、同意書及び診療録にて遵守状況を確認し、該当部門へ個別に指導している。

| ⑤　診療録等の管理に関する責任者の選任状況 | 有・無 |
|---|---|

・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：

実務内容は情報処理室の職員、診療情報管理士からの相談対応、システム運用保守委託会社との定期的な打合せ、診療記録の監査業務や各種業務提案を病院情報システム委員会、及び診療情報管理委員会で行っている。様々な活動を通じ、適切な病院情報システムと診療情報管理業務の運用管理の推進に努めている。

| ⑥　医療安全管理部門の設置状況 | 有・無 |
|---|---|

・所属職員：専従（　8）名、専任（　）名、兼任（　3）名

うち医師：専従（　1）名、専任（　）名、兼任（　3）名

うち薬剤師：専従（　1）名、専任（　）名、兼任（　）名

うち看護師：専従（　2）名、専任（　）名、兼任（　）名

（注）報告書を提出する年度の 10 月１日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

（１）医療安全管理委員会、セーフティーマネージャー会議等で用いられる資料及び議事録の作成、保存、その他安全管理委員会の庶務に関すること。

（２）事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。

（３）患者や家族への説明など事故発生時の対応状況について確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。

（４）事故等の原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに、必要な指導を行うこと。

（５）医療安全に係る連絡調整に関すること。

（６）その他医療安全対策の推進に関すること。

※　平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
※　医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦　高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（　9 件）、及び許可件数（　9 件）

・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（　有・無　）

・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（　有・無　）

・活動の主な内容：

・診療科の長から申請が行われた場合において、当該申請の内容を確認するとともに、申請案件の適否等について審査をおこなう。

・審査により高難度新規医療技術の提供の適否について決定し、申請を行った診療科の長に対しその結果を通知し、病院長へ報告する。

・高難度新規医療技術が適正な手続きに基づいて提供されていたかどうかに関し、定期的に、及び術後に患者が死亡した場合その他必要な場合には、診療録等の記載内容を確認する。

・高難度新規医療技術が適正な手続きに基づいて提供されていたかどうか、従業者の遵守状況の確認を行う。

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有・無 ）

・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ 有・無 ）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（ 53 件）、及び許可件数（ 52 件）

・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有・無 ）

・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有・無 ）

・活動の主な内容：

・診療科の長から申請が行われた場合において、当該申請の内容を確認するとともに、申請案件の適否等について審査を行う。

・審査により未承認新規医薬品等の提供の適否について決定し、申請を行った診療科の長に対しその結果を通知し、病院長へ報告する。

・未承認新規医薬品等が適正な手続きに基づいて使用されていたかどうかに関し、定期的に、及び術後に患者が死亡した場合その他必要な場合には、診療録等の記載内容を確認すること。

・未承認新規医薬品等が適正な手続きに基づいて使用されていたかどうか、従業者の遵守状況の確認を行う。

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有・無 ）

・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 （ 有・無 ）

| ⑨　入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況 |
| --- |
| ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 555 件<br>・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 112 件<br>・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容<br>(1) 医療事故の調査、分析及び再発防止策に関すること<br>なお、特定機能病院である本院管理者が定める水準以上の事象（「医療事故発生時の対応」に定める＜報告すべき「医療事故」の定義＞に定める事象をいう。）が発生した場合の報告が適切に実施されているかを確認し、結果を本院管理者に報告する。報告が不十分な場合は報告が適切になされるよう研修・指導等を行う。<br>(2) 医療に係る安全管理のための職員研修及び広報に関すること<br>(3) 医療事故等の公表に関すること |
| ⑩　他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況 |
| ・他の特定機能病院等への立入り（　有（病院名：東京医科歯科大学医学部附属病院）・無）<br>・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（　有（病院名：北海道大学病院）・無）<br>・技術的助言の実施状況<br>医薬品・医療機器適応外使用等及び高難度新規医療技術について、運営する管理部門と評価する部門が同一委員、同一組織であることについて指摘を受け、部門と評価委員会の構成メンバーを変更した。 |
| ⑪　当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況 |
| ・体制の確保状況<br>病院内に、医療安全管理室を室長として「患者相談室」を設置し、医療内容についての心配や不安等の相談を相談員（看護師や社会福祉士）が受けている。 |

| ⑫　職員研修の実施状況 |
| --- |
| ・研修の実施状況（別紙 4 参照）<br>新規採用者を対象に新規採用者研修会、中途採用者を対象に中途採用者研修会を年3回実施<br>医薬品管理研修会として麻薬講習会を年1回実施<br>全職員を対象とした外部講師による講演の医療事故防止講演会を年2回、<br>重大事故事例の周知徹底を図る危機管理研修会を年2回実施<br>その他安全な医療技術の取得等に関する研修会としてPICC研修会等を開催 |

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

| ⑬　管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況 |
| --- |
| ・研修の実施状況<br>管理者<br>・平成 31 年 2 月 6 日　平成 30 年度特定機能病院管理者研修<br>（主催：公益財団法人日本医療機能評価機構）<br>医療安全管理責任者<br>・平成 31 年 1 月 21 日～22 日　平成 30 年度特定機能病院管理者研修<br>（主催：公益財団法人日本医療機能評価機構）<br>医薬品安全管理責任者<br>・平成 30 年 11 月 21 日～22 日　平成 30 年度特定機能病院管理者研修<br>（主催：公益財団法人日本医療機能評価機構）<br>医療機器安全管理責任者<br>・平成 30 年 8 月 10 日　平成 30 年度医療機器安全基礎講習会<br>（主催：公益財団法人　医療機器センター） |

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

## 規則第７条の２第１項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

| 管理者に必要な資質及び能力に関する基準 |
| --- |
| ・ 基準の主な内容<br>１．人格が高潔で、学識が優れ、かつ、公立大学法人名古屋市立大学中期目標及び当該中期目標を達成するための計画である公立大学法人名古屋市立大学中期計画に掲げる事項について、継続的かつ確実に推進する姿勢及び指導力を有する者<br>２．医療の安全の確保のために必要な資質及び能力を有する者であって、以下の基準を全て満たす者<br><br>（１）次のいずれかの業務に従事した経験がある者<br>イ　医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者又は医療機器安全管理責任者の業務<br>ロ　医療安全管理に関する委員会の構成員としての業務<br>ハ　医療安全管理に関する部門における業務<br>ニ　その他上記に準ずる業務<br>（２）医療安全管理業務経験を踏まえ、医療安全を第一に考える姿勢及び指導力等を有する者<br>３．組織管理能力等の病院を管理運営するうえで必要な資質及び能力を有している者であって、当院又は当院に準ずる規模の他の病院において、病院長、副病院長、病院長補佐、診療科部長又は中央部門長（これらに準ずる職を含む。）の経験がある者<br><br>・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ 有・無 ）<br>・ 公表の方法<br>ホームページにて公表<br>https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/about/outline/byouinkinou/special-function/ |

## 規則第７条の３第１項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

| 前年度における管理者の選考の実施の有無 | 有・無 |
|---|---|

・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ 有・無 ）
・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有・無 ）
・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ 有・無 ）
・ 公表の方法
ホームページにて公表
https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/about/outline/byouinkinou/special-function/

管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由

| 氏名 | 所属 | 委員長（〇を付す） | 選定理由 | 特別の関係 |
|---|---|---|---|---|
| 吉田 和生 | 名古屋市立大学 | 〇 | 理事のうち理事長が指名した者 | 有・無 |
| 飯田 真介 | 名古屋市立大学 | | 医学研究科教授会において構成員のうちから選出された者 | 有・無 |
| 小黒 智恵子 | 名古屋市立大学 | | 病院部長会において構成員のうちから選出された者 | 有・無 |
| 木村 和哲 | 名古屋市立大学 | | 病院部長会において構成員のうちから選出された者 | 有・無 |
| 服部 達哉 | 名古屋市医師会 | | 理事長が委嘱する学外の有識者 | 有・無 |
| 小島 一彦 | 名古屋学芸大学 | | 理事長が委嘱する学外の有識者 | 有・無 |

## 規則第９条の２３第１項及び第２項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

| 合議体の設置の有無 | 有・無 |
|---|---|

・合議体の主要な審議内容
（1）診療に関すること
（2）病院の規程の制定改廃に関すること
（3）その他病院の運営に関する重要事項（運営方針、中期計画、予算及び決算等）

・審議の概要の従業者への周知状況
会議資料の回覧及び電子カルテ共有ファイルサーバーへの掲載を行っている。
必要があれば、個別案件ごとに関係委員会での報告や院内広報誌への掲載等も行い、周知徹底を図っている。

・合議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・無 ）
・公表の方法：病院ホームページにて公表
https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/about/outline/byouinkinou/special-function/

・外部有識者からの意見聴取の有無（ 有・無 ）

合議体の委員名簿

| 氏名 | 委員長（○を付す） | 職種 | 役職 |
|---|---|---|---|
| 小椋　祐一郎 | ○ | 医師 | 病院長 |
| 大手　信之 | | 医師 | 院長代行・副病院長 |
| 森田　明理 | | 医師 | 副病院長 |
| 明智　龍男 | | 医師 | 副病院長 |
| 松川　則之 | | 医師 | 副病院長 |
| 飯田　真介 | | 医師 | 副病院長 |
| 間瀬　光人 | | 医師 | 副病院長 |
| 小黒　智恵子 | | 看護師 | 副病院長 |
| 木村　和哲 | | 薬剤師 | 病院長補佐 |
| 祖父江　和哉 | | 医師 | 病院長補佐 |
| 新実　彰男 | | 医師 | 病院長補佐 |
| 林　祐太郎 | | 医師 | 病院長補佐 |
| 兼松　孝好 | | 医師 | 診療科部長代理 |
| 片岡　洋望 | | 医師 | 診療科部長 |
| 林　香月 | | 医師 | 診療科部長 |
| 難波　大夫 | | 医師 | 診療科部長 |
| 田中　智洋 | | 医師 | 診療科部長 |
| 濱野　高行 | | 医師 | 診療科部長 |
| 瀧口　修司 | | 医師 | 診療科部長 |
| 中西　良一 | | 医師 | 診療科部長 |
| 三島　晃 | | 医師 | 診療科部長 |
| 近藤　知史 | | 医師 | 診療科部長 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 遠山　竜也 | | 医師 | 診療科部長 |
| 村上　英樹 | | 医師 | 診療科部長 |
| 杉浦　真弓 | | 医師 | 診療科部長 |
| 齋藤　伸治 | | 医師 | 診療科部長 |
| 稲垣　彰 | | 医師 | 診療科部長代理 |
| 鳥山　和宏 | | 医師 | 診療科部長 |
| 安井　孝周 | | 医師 | 診療科部長 |
| 芝本　雄太 | | 医師 | 診療科部長 |
| 渋谷　恭之 | | 歯科医師 | 診療科部長 |
| 笹野　寛 | | 医師 | 診療科部長 |
| 服部　友紀 | | 医師 | 診療科部長 |
| 松嶋　麻子 | | 医師 | 診療科部長 |
| 植木　美乃 | | 医師 | 診療科部長代理 |
| 田中　靖人 | | 医師 | 中央部門部長 |
| 久保田　英嗣 | | 医師 | 中央部門部長 |
| 高橋　智 | | 医師 | 中央部門部長 |
| 小松　弘和 | | 医師 | 中央部門部長 |
| 中山　明峰 | | 医師 | 中央部門部長 |
| 戸澤　啓一 | | 医師 | 中央部門部長 |
| 中村　敦 | | 医師 | 中央部門部長 |
| 神谷　武 | | 医師 | 中央部門部長 |
| 杉浦　健之 | | 医師 | 中央部門部長 |
| 赤津　裕康 | | 医師 | 中央部門部長 |
| 山岸　庸太 | | 医師 | 中央部門部長 |
| 須田　久雄 | | 医師 | 中央部門部長 |
| 田中　基 | | 医師 | 中央部門部長 |
| 廣瀬　保次郎 | | 診療放射線技師 | 中央部門部長 |
| 佐藤　誠司 | | 事務 | 医学・病院管理部長 |

## 規則第１５条の４第１項第１号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

・　管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（　有・無　）

・　公表の方法：病院ホームページにて公表
https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/about/outline/byouinkinou/special-function/

・　規程の主な内容

(1) 病院長の人事権について
病院幹部の選任について院長代行、副病院長等、看護部長、診療科部長等の選考規程を制定し、各規程に基づいて選任している。開設者が公立大学法人である当院におきましては、人事における任命権については、法人の長たる理事長が有しているが、病院長は選考の過程で関与する仕組みとなっており、病院長の意思が反映されている。

(2) 病院長の予算執行に係る権限について
規定により、病院の予算責任者である病院長が予算に基づき執行することとされている。

・　管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

(1) 院長代行、副病院長及び病院長補佐
大手　信之院長代行
副病院長　（戦略企画・経営管理担当）
森田　明理副病院長　（診療・医療体制強化担当）
明智　龍男副病院長　（医療の質・安全管理担当）
松川　則之副病院長　（教育担当）
飯田　真介副病院長　（研究担当）
間瀬　光人副病院長　（救急・災害医療担当）
小黒智恵子副病院長　（経営・業務管理担当）
木村　和哲病院長補佐（保険診療（薬剤）担当）
祖父江和哉病院長補佐（周術期管理体制強化担当）
新実　彰男病院長補佐（診療情報管理担当）
林　祐太郎病院長補佐（卒前・卒後教育担当）

(2) 各副病院長及び病院長補佐を補佐する企画スタッフ等
戦略企画室（収益向上策、費用削減策の企画立案等）

(3) 外部有識者からの意見聴収の機会
経営協議会（病院経営に見識のある外部有識者を含めた
診療収入の確保及び経費の節減策など病院の経営改善会議）

・　病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

| 研修開催日 | 研修名称 | 参加者 | 備考（主催） |
|---|---|---|---|
| 2018/6/9-10 | 平成30年度　第１回　院長・副院長のためのトップマネジメント研修 | 副病院長・事務課長 | 一般社団法人日本病院会 |
| 2018/9/21 | 病院管理　中間管理者研修 | 事務係事務職員１名 | 公益社団法人　医療・病院管理研究協会 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 2018/5/16-17 | LEMS（リーディング・エッジ・マネジメント・セミナー） | 看護部長<br>副看護部長<br>事務課長 | 株式会社ビジネスコンサルタント |
| 2018/8/23-24 | 第8回国立大学附属病院契約実務担当者ワークショップ | 契約実務担当事務職員２名 | 国立大学附属病院長会議 |
| 2018/10/18-19 | 平成３０年度国立大学病院医事関連スタッフセミナー | 医事系事務職員１名 | 〃 |
| 2018/11/6-11/7 | 第12回国立大学附属病院若手職員勉強会 | 若手事務職員２名 | 〃 |
| 2018/11/21-22 | 第９回 国立大学附属病院係長クラス勉強会 | 係長クラス事務職員２名 | 〃 |
| 2018/11/18-21 | 平成３０年度国立大学病院医事系事務職員初期研修会 | 医事系事務職員１名 | 〃 |
| 2018/12/5-7 | 平成３０年度大学病院等患者相談担当者研修会 | 医事係主査１名 | 〃 |
| 2019/1/24-25 | 平成３０年度国立大学病院事務専門研修 | 事務係主査１名 | 〃 |

## 規則第１５条の４第１項第２号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

| 監査委員会の設置状況 | 有・無 |
|---|---|

・監査委員会の開催状況：年　　２回

・活動の主な内容：

1　医療安全に係る会議の運営状況

2　インシデント・アクシデントレポートの報告及び対応状況

3　医薬品安全管理・医療機器安全管理の実施状況

4　医療安全に係る研修の実施状況

5　医療監視等における監督官庁からの医療安全に係る指摘事項への対応状況

6　他の特定機能病院による立入検査の実施及び対応状況

7　その他、医療安全に関すること

・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（　有・無　）

・委員名簿の公表の有無（　有・無　）

・委員の選定理由の公表の有無（　有・無　）

・監査委員会に係る内部規程の公表の有無（　有・無　）

・公表の方法：

病院ホームページにて公表している

https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/section/central/anzen-kanri/externalauditor/

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

| 氏名 | 所属 | 委員長（○を付す） | 選定理由 | 利害関係 | 委員の要件該当状況 |
|---|---|---|---|---|---|
| 中村　勝己 | 後藤・太田・立岡法律事務所所属弁護士 | ○ | 法律に関する識見を有する者 | 有・無 | 1 |
| 宮本　忠壽 | 知多厚生病院名誉院長 | | 医療安全に関する業務に従事した経験を持つ医師 | 有・無 | 1 |
| 小島　一彦 | 元中日新聞編集委員 | | 医療を受ける者の立場から意見を述べることができる者 | 有・無 | 2 |
| 岩崎　良平 | 日本ガイシ株式会社取締役専務執行役員 | | 医療を受ける者の立場から意見を述べることができる者 | 有・無 | 2 |

（注）　「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

## 規則第１５条の４第１項第３号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

| 管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況 |
| --- |
| ・体制の整備状況及び活動内容<br><br>法人に監査室を設置し、毎年、本学の業務運営及び会計処理の適法性等について、公正かつ客観的に調査及び検証し、その監査結果に基づき助言、提言を行うことにより、本学の健全な運営に資することを目的とした「内部監査」及び法人の業務運営及び会計処理の適正を図ることを目的とした「監事監査」を実施している。監査は、年次計画に基づいて実施され、監査の結果、改善のための対策、措置等を講じる必要があると認めるときは、速やかに当該対策、必要な措置等を講じることとされている。<br><br>・ 専門部署の設置の有無（ 有・無 ）<br><br>・ 内部規程の整備の有無（ 有・無 ）<br><br>・ 内部規程の公表の有無（ 有・無 ）<br><br>・ 公表の方法：病院のホームページにて公表<br>https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/about/outline/byouinkinou/special-function/ |

## 規則第１５条の４第１項第３号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況

・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況

理事長、副理事長及び理事（内2名外部理事）をもって構成される役員会において、次の事項の審議を行うこととされている。病院長も理事として、役員会に参加し、病院の管理運営状況について随時報告聴取が行われている。

(1) 中期目標についての意見（地方独立行政法人法第78条第3項の規定により市長に対し述べる意見をいう。）及び年度計画に関する事項
(2) 地方独立行政法人法により市長の認可又は承認を受けなければならない事項
(3) 予算の作成及び執行並びに決算に関する事項
(4) 大学、学部、学科その他の重要な組織の設置又は廃止に関する事項
(5) その他役員会が定める重要事項

・ 会議体の実施状況（ 年 12 回 ）

・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ 有・無 ）（ 年 9 回 ）

・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・無 ）

・ 公表の方法：大学ホームページにて公開している。
http://www.nagoya-cu.ac.jp/about/index.html

病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：

会議体の委員名簿

| 氏名 | 所属 | 委員長（○を付す） | 利害関係 |
|---|---|---|---|
| | | | 有・無 |
| | | | 有・無 |
| | | | 有・無 |
| | | | 有・無 |

（注） 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

## 規則第１５条の４第１項第４号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

| 窓口の状況 |
| --- |
| ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ 有・無 ）<br>・通報件数（年　2 件）<br>・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（ 有・無 ）<br>・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ 有・無 ）<br>・周知の方法<br>リスクマネージメントマニュアル、職員の心得及び電子カルテへ掲載し、周知している。 |

（様式第 7）

## 専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

### 1　病院の機能に関する第三者による評価

| | |
|---|---|
| ①　病院の機能に関する第三者による評価の有無 | 有・無 |
| ・評価を行った機関名、評価を受けた時期<br>評価を行った機関名：公益財団法人日本医療機能評価機構<br>評価を受けた時期（認定日）：2018年12月7日<br>備考：種別・審査体制区分等　3rdG:Ver.2.0、一般病院3、認定番号　JC1440-3 | |

**(注)医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。**

### 2　果たしている役割に関する情報発信

| | |
|---|---|
| ①　果たしている役割に関する情報発信の有無 | 有・無 |
| ・情報発信の方法、内容等の概要<br>【病院ウェブサイト等】<br>○　病院ウェブサイトや、外来で放映している映像情報端末メディネットに、当院のご案内、最新のお知らせ、患者・一般向け、医療関係者向けの情報を掲載している。<br>【院外広報誌】<br>○　広報誌「さくらほっとNEWS」を年4回発行し、当院の最新情報やお知らせを患者や地域の住民向けに発信している。広報誌は病院ウェブサイトにも掲載、また、院内の外来に設置したり、院外（近隣病院、地下鉄桜通線桜本町管区駅構内、市内区役所等）に配布したりしている。 | |

### 3　複数の診療科が連携して対応に当たる体制

| | |
|---|---|
| ①　複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無 | 有・無 |
| ・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要<br>○診療にあたる際、必要に応じて複数の診療科による合同のカンファランスを実施している。<br>○全診療科の代表者を含む各種委員会を定期的に開催している。<br>○複数の診療科によって組織する「センター」機能を有し、診療科ごとの特性を融合することに | |

より、特色となる診療を実施したり、診療の支援業務や教育・研究業務などを行っている。

○医療安全、感染、栄養サポート（NST）、褥瘡等に対して複数の診療科、職種を交えてチームを組み、対策を行っている。

○診療連携拠点病院（肝疾患、地域がん）として都道府県における診療ネットワークの中心的な役割を果たす病院である。また、災害拠点病院として地域における災害医療を担っている。

○救命救急センターとして24時間高度な医療が提供できるよう、全診療科及び全部門が連携して救急医療のバックアップ体制を整えている。夜間・休日においても、医師、看護師、薬剤師、診療放射線技師、検査技師が待機しており、常時迅速な引継が可能である。

医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修　　別紙1

| 研修の名称 | 研修の主な内容 | 研修の期間<br>（開催日） | 実施回数<br>（合計） | 参加人数 | 対象職種 | 担当部署 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 平成31年度健診・特定保健指導事務説明会及び協会けんぽ推進事業説明会 | 「肝炎ウイルス検査の受検勧奨をお願いいたします」 | 2019年2月21日 | 1回 | 330人 | 看護師、事務職員 | 中央臨床検査部 |
| 東海免疫ナビゲイターズ・ネットワーク　第10回記念研究会 | 肝炎診療のあゆみと今後の課題 | 2018年9月14日 | 1回 | ― | 臨床検査技師 | 中央臨床検査部 |
| 愛知県精度管理研修会 | C型肝炎ウイルス感染による腸内細菌叢異常（Dysbiosis）と病態進展へのインパクト | 2019年2月6日 | 1回 | ― | 臨床検査技師 | 中央臨床検査部 |
| 東京都臨床検査技師会講演会 | ウイルス肝炎：今後の課題～診断から治療まで | 2019年2月7日 | 1回 | ― | 臨床検査技師 | 中央臨床検査部 |
| 非小細胞肺癌（NSCLC）の治療変遷<br>EGFR遺伝子について | | 2018年6月21日 | 1回 | 22人 | 臨床検査技師 | 診療技術部 臨床検査技術科 |
| 新生児聴力スクリーニング検査 | | 2018年7月26日 | 1回 | 21人 | 臨床検査技師 | 診療技術部 臨床検査技術科 |
| 細菌性食中毒の基礎知識 | | 2018年8月16日 | 1回 | 15人 | 臨床検査技師 | 診療技術部 臨床検査技術科 |
| H30年度国公私立大学病院医療技術関係職員研修報告 | | 2018年11月15日 | 1回 | 22人 | 臨床検査技師 | 診療技術部 臨床検査技術科 |
| ルミパルスプレストHBsAg-HQを用いた高感度HBs抗原測定の基礎的・臨床的検討 | | 2018年11月15日 | 1回 | 22人 | 臨床検査技師 | 診療技術部 臨床検査技術科 |
| バーコードを活用した病理検査の運用構築について | | 2019年3月15日 | 1回 | 15人 | 臨床検査技師 | 診療技術部 臨床検査技術科 |
| 平成30年度 認定輸血検査技師制度指定施設研修 | 輸血認定技師の養成研修 | 2018年5月30日・31日 | 1回 | 2人 | 臨床検査技師 | 輸血部<br>診療技術部 臨床検査技術科 |
| 平成30年度　第10回 輸血講演会 | 輸血の実際、血液製剤の基本、輸血検査、血液製剤取り扱い業務における注意点 | 2018年10月1日 | 1回 | 82人 | 医師、看護師、臨床検査技師、他コメデカル、事務職員 | 輸血部<br>診療技術部 臨床検査技術科 |
| 愛知県臨床検査技師会研究会 | これから始める脳波検査 検査を始める前の予備知識 | 2018年7月21日 | 1回 | 128人 | 臨床検査技師 | 診療技術部 臨床検査技術科 |
| 日本神経生理検査研究会中部支部研修会 | 顔面神経麻痺の電気生理学的検査 | 2018年11月23日 | 1回 | 71人 | 臨床検査技師 | 診療技術部 臨床検査技術科 |
| 関西脳波・筋電図講習会 | 臥位での脳波電極装着法と伸縮包帯を用いた脳波電極の固定法 | 2019年1月26日 | 1回 | 110人 | 医師、臨床検査技師 | 診療技術部 臨床検査技術科 |
| 高度管理医療機器研修会 | 高度管理医療機器である高エネルギーX線発生装置（リニアック・トモセラピー・Radixact）と密封小線源放射線治療装置（RALS）における装置の特徴・安全使用及び故障や緊急時の対応 | 2018年4月26日<br>2018年10月19日 | 2回 | 88人 | 診療放射線技師 | 放射線技術科 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 人工呼吸器セミナー　トリロジー | | 2018年6月20日～2019年3月13日 | 10回 | 457人 | 看護職・理学療法士 | 臨床工学係・看護部 |
| 人工呼吸器セミナー　V 60 | | 2018年7月11日～2019年2月6日 | 3回 | 97人 | 看護職 | 臨床工学係・看護部 |
| 嚥下スクリーニング | 反復唾液嚥下テスト・水飲みテスト | 2018年7月20日 | 1回 | 36人 | 看護職 | 看護部 |
| 褥瘡対策に関する診療計画書の記載 | | 2018年6月26日<br>2019年1月22日<br>2019年1月31日 | 3回 | 47人 | 看護職 | 看護部 |
| 高齢者看護 | 高齢者のADL維持・向上 | 2018年8月20日 | 1回 | 38人 | 看護職 | 看護部 |
| 静脈注射指導者研修 | | 2018年6月7日～23日<br>2018年12月14日～19日 | 11回 | 77人 | 看護職 | 看護部 |
| 災害訓練 | 1次トリアージ・2次トリアージ | 2018年9月28日<br>2019年2月26日 | 2回 | 22人 | 看護職 | 看護部 |
| 災害訓練 | 発災時の院内体制（CSCA）患者受入れ | 2018年10月26日<br>2018年12月10日 | 2回 | 35人 | 看護職 | 看護部 |
| 入退院支援の流れ | | 2018年9月27日 | 1回 | 85人 | 看護職 | 看護部 |
| 退院時共同指導・介護連携指導の進め方 | | 2019年3月12日 | 1回 | 18人 | 看護職 | 看護部 |
| 認知症・せん妄の理解とその対応 | | 2019年1月21日 | 1回 | 7人 | 看護職 | 看護部 |
| 呼吸器装着患者さんのケア | | 2018年10月24日 | 1回 | 4人 | 看護職 | 看護部 |
| 新規採用薬説明会 | | 2018年4月1日<br>2018年7月10日<br>2018年9月27日<br>2019年1月11日 | 4回 | 15名<br>26名<br>15名<br>14名 | 薬剤師 | 薬剤部 |
| 症例検討会 | 薬剤師が病棟業務において関わった症例についての振り返りを行い、問題点や今後の対応のための気づき等を共有する。 | 2018年4月19日<br>2018年5月17日<br>2018年6月21日<br>2018年9月20日<br>2018年10月18日<br>2018年11月15日<br>2018年12月20日<br>2019年1月17日<br>2019年2月21日<br>2019年3月28日 | 10回 | 17名<br>23名<br>14名<br>14名<br>16名<br>16名<br>8名<br>12名<br>12名<br>11名 | 薬剤師 | 薬剤部 |

# 看護師

## 平成30年度　現任教育日程表

看護部キャリア支援

| No. | 月 | チャレンジ中のラダーレベル ★印:必須研修 | 研修名 | 日程 ※網掛け:未定 | | 参加者数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 5月 | Ⅳ ★ | 問題解決Ⅱ－① | 5/24(木)・5/25(金) どちらかの日程で約1時間 | | 24名 |
| 2 | 6月 | Ⅱ ★ | 安全管理Ⅱ | 6/4(月) | | 97名 |
| 3 | | Ⅳ ★ | リーダーⅢ | 6/7(木) | | 12名 |
| 4 | | | 主任 | 6/25(月) | | 73名 |
| 5 | | | 契約・パート職員 | 6/28(木) | | 20名 |
| 6 | 7月 | Ⅰ ★ | 安全管理Ⅰ | 7/5(木) | 7/9(月) | 123名 |
| 7 | | Ⅳ ★ | 問題解決Ⅱ－② | 7/26(木) | 7/27(金) | 39名 |
| 8 | | Ⅱ ★ | マネジメントⅠ | 7/20(金) | | 71名 |
| 9 | | Ⅱ ★ | フィジカルアセスメントⅢ | 7/30(月) | 7/31(火) | 99名 |
| 10 | | Ⅱ ★ | 倫理Ⅱ | 8/2(木) | | 110名 |
| 11 | 8月 | Ⅲ | 臨地実習指導者 | 8/6(月) | | 22名 |
| 12 | | Ⅲ ★ | リーダーⅡ | 8/24(金) | | 31名 |
| 13 | | Ⅳ | 静脈注射指導者 | 8/9(木) | 8/10(金) | 41名 |
| 14 | | | ナースエイド① | 8/20(月) | 8/21(火) | 50名 |
| 15 | | Ⅱ ★ | 人材育成Ⅰ | 8/31(金) | | 77名 |
| 16 | 9月 | Ⅲ ★ | 人材育成Ⅱ | 9/3(月) | | 12名 |
| 17 | | Ⅲ ★ | 安全管理Ⅲ | 9/6(木) | | 36名 |
| 18 | | Ⅳ ★ | 問題解決Ⅱ－③ | 9/11(火) | 9/12(水) | 51名 |
| 19 | | Ⅱ ★ | フィジカルアセスメントⅣ | 9/13(木) | 9/14(金) | 80名 |
| 20 | | Ⅱ ★ | 事例検討(9月グループワーク) | 9/20(木) | | 28名 |
| 21 | | | 主任(中間) | 9/21(金) | | 73名 |
| 22 | 10月 | Ⅱ ★ | 事例検討(10月グループワーク) | 10/18(木) | | 24名 |
| 23 | | Ⅱ ★ | 看護を語る | 10/23(火) | | 36名 |
| 24 | | Ⅰ ★ | リーダーⅠ | 10/30(火) | | 135名 |
| 25 | | | 師長(中間) | 10月師長検討会 | | 26名 |
| 26 | 11月 | Ⅳ ★ | 安全管理Ⅳ | 11/1(木) | | 26名 |
| 27 | | Ⅱ ★ | コーチング | 11/30(金) | | 55名 |
| 28 | | Ⅱ ★ | 意思決定支援Ⅰ | 11/19(月) | | 76名 |
| 29 | | | ナースエイド② | 11/6(火) | 11/8(木) | 50名 |
| 30 | | Ⅱ ★ | 安全管理Ⅱ(発表会) | 11/9(金) | | 95名 |
| 31 | | Ⅲ ★ | 倫理Ⅲ | 11/12(月) | | 30名 |
| 32 | | Ⅱ ★ | 事例検討(11月グループワーク) | 11/15(木) | | 24名 |
| 33 | | Ⅰ ★ | 多重課題 | 11/18(日) | 12/1(土) | 106名 |
| 34 | | Ⅱ ★ | カンファレンスの進め方 | 11/29(木) | | 76名 |
| 35 | 12月 | Ⅱ ★ | コミュニケーション | 12/10(月) | | 100名 |
| 36 | | Ⅲ ★ | 意思決定支援Ⅱ | 12/3(月) | | 28名 |
| 37 | | Ⅳ ★ | 問題解決Ⅱ(報告会) | 12/21(金) | | 36名 |
| 38 | | Ⅲ ★ | フィジカルアセスメントⅤ | 12/13(木) | | 24名 |
| 39 | | Ⅱ ★ | 事例検討(12月グループワーク) | 12/20(木) | | 24名 |
| 40 | 1月 | Ⅲ ★ | ファシリテーション(実践編) | 1/19(土) | | 19名 |
| 41 | | Ⅳ ★ | 交渉術 | 1/17(木) | | 30名 |
| 42 | | Ⅲ ★ | 家族看護 | 1/21(月) | | 46名 |
| 43 | | Ⅲ ★ | 教育担当者 | 1/31(木) | | 33名 |
| 44 | 2月 | Ⅲ ★ | 他部門・他職種(集合研修) | 2/8(金) | | 23名 |
| 45 | | Ⅳ ★ | マネジメントⅡ(看護の質評価) | 2/7(木) | | 9名 |
| 46 | | | 看護研究会 | 2/15(金) | 2/16(土) | 290名 |
| 47 | | Ⅱ | 実地指導者 | 2/21(木) | | 83名 |
| 48 | | | ナースエイド③ | 2/25(月) | 2/26(火) | 50名 |
| 49 | | | 師長(報告会) | 2月師長検討会 | | 26名 |
| 50 | 3月 | Ⅰ ★ | フィジカルアセスメントⅡ | 3/1(金) | 3/4(月) | 114名 |
| 51 | | Ⅱ ★ | ファシリテーション(基礎編) | ①3/2(土) | ②3/3(日) | 72名 |
| 52 | | | 主任(報告会) | 1/25(金) | | 73名 |

他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

別紙3

| 研修の名称 | 研修の主な内容 | 研修の期間<br>（開催日） | 実施回数<br>（合計） | 参加人数 | 対象職種 | 担当部署 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 災害と呼吸管理 | | 2018年9月1日、2日 | 1回 | 100名 | 看護職・理学療法士・臨床工学技士 | 看護部・愛知県臨床工学技士会 |
| がん看護　ベーシックコース | がん看護実践の基礎となる基礎知識 | 2018年9月29日<br>2018年10月8日 | 2回 | 38名 | 看護職 | 看護部 |
| がん看護　アドバンスコース | 緩和ケアにおける症状マネジメント、苦痛のスクリーニング | 2018年11月11日 | 1回 | 21名 | 看護職 | 看護部 |
| 吸入指導ネットワーク講習会 | 地域の薬局薬剤師を対象に吸入指導のスキル向上を目的とした講習会 | 2018年9月2日<br>2019年3月24日 | 2回 | 50名<br>51名 | 薬局薬剤師 | 薬剤部 |
| 名市大連携病院合同化学療法勉強会 | がん専門医療者の育成を目的とした勉強会 | 2018年5月16日<br>2018年6月20日<br>2018年7月18日<br>2018年8月15日<br>2018年9月19日<br>2018年10月24日<br>2018年11月21日<br>2018年12月19日 | 8回 | 161名<br>143名<br>144名<br>90名<br>91名<br>64名<br>95名<br>92名 | 医師、歯科医師、薬剤師、看護師、理学療法士、医療事務など | 名古屋市立大学大学院医学研究科 |

## 平成30年度　安全管理の体制確保のための職員研修の実績

| 年月日 | 研修会名等 | 対象職員 | 参加者数 | 時間 | 内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| H30.4.1 | 新規採用者研修会 | 新規採用者研修 | 283名 | 6時15分 | ・病院長訓示・講話<br>・医療倫理について<br>・医療安全管理について<br>・経営・マネジメントについて<br>・利益相反マネジメントについて<br>・個人情報保護について<br>・保険診療と診療録の記載について<br>・医薬品安全管理について<br>・病院・部署紹介について |
| H30.4.2 | | | | 6時10分 | ・災害対策について<br>・医療機器の取り扱いについて<br>・院内感染対策について<br>・接遇について<br>・BLS講習会 |
| H30.5.15 | 医師事務作業補助者研修 | 医師事務作業補助者就業前の職員 | 5名 | 1時00分 | ・医療事故防止の基本的な考え方<br>・名古屋市立大学病院の医療安全対策と具体的な対応 |
| H30.7.12 | 医薬品安全管理研修会 | 全職員 | 312名 | 1時00分 | ・麻薬の取り扱いについて<br>・オピオイドスイッチングの注意点 |
| H30.7.26 | 中途採用者研修会 | 全職員 | 32名 | 1時00分 | ・安全管理について（戸澤室長）<br>・レポート報告について（水野主幹）<br>・医療機器安全管理について（田島係長）<br>・医薬品安全管理について（杉山主査） |
| H30.8.30<br>(H30.10.7) | 第一回<br>医療事故防止講演会 | 全職員 | 665名<br>(130名) | 1時00分 | ・当院の医療安全をサポートするシステム<br>名古屋第二赤十字病院　医療安全推進室<br>副室長　中沢　貴宏　氏<br>・多職種によるRCA分析の紹介<br>名古屋第二赤十字病院　医療安全推進室<br>医療安全管理者　木下　美穂　氏 |
| H30.10.4 | 第1回PICC院内講習会 | 臨床研修医 | 12名 | 2時00分 | ・PICCの挿入方法について（講義・演習） |
| H30.10.16<br>(H30.10.23)<br>(H30.10.26) | 第一回<br>危機管理研修会 | 全職員 | 618名<br>(121名) | 1時00分 | ・重大事例報告／アナフィラキシーに係る医療事故を防ぐために（医療安全管理責任者　三島　晃）<br>・薬剤誤認について／安全な点滴・注射薬治療のために（医療安全管理室室長　戸澤　啓一） |
| H30.11.5 | 医師事務作業補助者研修 | 医師事務作業補助者就業前の職員 | 4名 | 1時00分 | ・医療事故防止の基本的な考え方<br>・名古屋市立大学病院の医療安全対策と具体的な対応 |
| H30.11.15 | 中途採用者研修会 | 全職員 | 41名 | 1時00分 | ・安全管理について（戸澤室長）<br>・レポート報告について（水野主幹）<br>・医療機器安全管理について（田島係長）<br>・医薬品安全管理について（杉山主査） |
| H31.1.22 | 中途採用者研修会 | 全職員 | 13名 | 1時00分 | ・安全管理について（戸澤室長）<br>・レポート報告について（水野主幹）<br>・医療機器安全管理について（田島係長）<br>・医薬品安全管理について（杉山主査） |
| H31.2.19<br>(H31.2.27)<br>(H31.3.1) | 第二回<br>医療事故防止講演会 | 全職員 | 569名<br>(213名) | 1時00分 | ・事例報告（戸澤室長）<br>・電子カルテの落とし穴―法的側面から―<br>成田・長谷川法律事務所　弁護士　成田　清氏 |
| H31.3.5<br>(H31.3.6)<br>(H31.3.8)<br>(H31.3.12) | 第二回<br>危機管理研修会 | 全職員 | 583名<br>(382名) | 1時00分 | ・外部監査結果報告（戸澤室長）<br>・重大事例報告（三島医療安全管理責任者）<br>・医療安全全国共同行動ワーキング活動報告（ワーキング代表者） |
| 合計 | 12回 | | 3983名 | | |

注）（）は、DVD講習会開催日及び受講人数

1　医療機器の安全使用のための研修の実施状況(平成30年4月～平成31年3月)（特定機能病院）　別紙５

①　新しい医療機器の導入時の研修

| No | 開催年月日 | 研修の内容・対象機器 | 研修方法 | 対象職種 | 参加者数 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2018/4/2 | 全自動血球計数器　セルタックα　MEK6500 | 講義・実技 | 看護師 | 24 | 中央手術部 |
| 2 | 2018/4/3 | 全自動血球計数器　セルタックα　MEK6500 | 講義・実技 | 看護師・臨床工学技士 | 4 | 中央手術部、臨床工学室 |
| 3 | 2018/4/6 | 全自動血球計数器　セルタックα　MEK6500 | 講義・実技 | 看護師 | 10 | 中央手術部 |
| 4 | 2018/4/6 | 生体情報モニタ | 講義・実技 | 看護師 | 10 | 救命救急センター、14階南病棟 |
| 5 | 2018/4/20 | 高周波焼灼電源装置　ESG-100 | 講義・実技 | 看護師・臨床検査技師 | 11 | 内視鏡部 |
| 6 | 2018/4/26 | 冷凍アブレーション装置　Crio　Console | 講義・実技 | 診療放射線技師・臨床工学技士 | 8 | 放射線技術科、臨床工学室 |
| 7 | 2018/4/26 | 冷凍アブレーション装置　Crio　Console | 講義・実技 | 医師 | 4 | 循環器内科 |
| 8 | 2018/5/8 | エア式骨手術器械　マイダスレックス　ハイスピードドリルシステム | 講義・実技 | 看護師 | 19 | 中央手術部 |
| 9 | 2018/5/8 | 血管内圧測定システム　Pressure Wire | 講義・実技 | 臨床工学技士 | 13 | 臨床工学室 |
| 10 | 2018/5/11 | 冷凍アブレーション装置　Crio　Console | 講義・実技 | 臨床工学技士 | 2 | 臨床工学室 |
| 11 | 2018/6/13 | 診察台　EX-URO | 講義・実技 | 看護師 | 15 | 11階南病棟 |
| 12 | 2018/7/6 | 経腸栄養用ポンプ　カンガルーポンプ　Joeyポンプ | 講義・実技 | 看護師 | 14 | 9階病棟 |
| 13 | 2018/8/13 | 経腸栄養輸液ポンプ　アプリックス　スマート | 講義・実技 | 看護師 | 9 | 9階南病棟 |
| 14 | 2018/8/13 | 輸液ポンプ　TE-28型 | 講義・実技 | 看護師 | 5 | 化学療法部 |
| 15 | 2018/8/24 | 自動体外式除細動器　FR3 | 講義・実技 | 看護師 | 8 | 13階南病棟 |
| 16 | 2018/8/24 | 自動体外式除細動器　FR3 | 講義・実技 | 看護師 | 15 | 16階北病棟 |
| 17 | 2018/9/14 | 超音波診断装置　Xario 100P | 講義・実技 | 医師 | 2 | 産科婦人科 |
| 18 | 2018/9/26 | 輸液ポンプ　OT-818G | 講義・実技 | 看護師 | 10 | 9階病棟 |
| 19 | 2018/9/27 | 輸液ポンプ　OT-818G | 講義・実技 | 看護師 | 10 | 9階病棟 |
| 20 | 2018/9/28 | 輸液ポンプ　OT-818G | 講義・実技 | 看護師 | 10 | 9階病棟 |
| 21 | 2018/10/2 | 輸液ポンプ　OT-818G | 講義・実技 | 看護師 | 10 | 9階病棟 |
| 22 | 2018/10/23 | 光線治療器　スーパーライザー　PX　Type2 | 講義・実技 | 医師・看護師 | 7 | 麻酔科 |
| 23 | 2018/11/1 | 経腸栄養用ポンプ　カンガルーポンプ　Joeyポンプ | 講義・実技 | 看護師 | 13 | NICU・GCU |
| 24 | 2018/12/3 | 血行動態モニター　ヘモスフィア | 講義・実技 | 臨床工学技士 | 6 | 臨床工学室 |
| 25 | 2018/12/4 | 遺伝子解析装置　TaqMan48 | 講義・実技 | 臨床検査技師 | 1 | 臨床検査技術科 |
| 26 | 2018/12/7 | 自動血球分析装置　DxH900 | 講義・実技 | 臨床検査技師 | 4 | 臨床検査技術科 |
| 27 | 2018/12/7 | 塗抹標本作製装置　SMS Ⅱ | 講義・実技 | 臨床検査技師 | 4 | 臨床検査技術科 |
| 28 | 2018/12/7 | 血液像自動分析装置　DM-9600 | 講義・実技 | 臨床検査技師 | 4 | 臨床検査技術科 |
| 29 | 2018/12/10 | ガンマカメラ装置　X線CT組合せ型SPECT装置 | 講義・実技 | 臨床放射線技師 | 3 | 放射線技術科 |
| 30 | 2018/12/14 | 赤血球沈降速度測定装置　Quick-8 | 講義・実技 | 臨床検査技師 | 5 | 臨床検査技術科 |
| 31 | 2018/12/17 | 血液ガス分析装置　ABL90 FLEX PLUS | 講義・実技 | 臨床検査技師 | 8 | 臨床検査技術科 |
| 32 | 2018/12/17 | 自動分析装置　LABOSPECT008α | 講義・実技 | 臨床検査技師 | 7 | 臨床検査技術科 |
| 33 | 2018/12/17 | 全自動化学発行酵素免疫測定システム　ルミパルスL2400 | 講義・実技 | 臨床検査技師 | 7 | 臨床検査技術科 |
| 34 | 2018/12/17 | 汎用分光光度分析装置　ESアナライザー | 講義・実技 | 臨床検査技師 | 7 | 臨床検査技術科 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 35 | 2018/12/18 | グリコヘモグロビン分析装置　アダムス　A1c HA-8182 | 講義・実技 | 臨床検査技師 | 7 | 臨床検査技術科 |
| 36 | 2019/1/8 | ガンマカメラ装置　X線CT組合せ型SPECT装置 | 講義・実技 | 臨床放射線技師 | 3 | 放射線技術科 |
| 37 | 2019/1/10 | 呼気ガス分析装置　FIT-2100 | 講義・実技 | 栄養管理士 | 3 | 栄養管理係 |
| 38 | 2019/1/22 | １２誘導心電計　ＥＣＧ－２４５０ | 講義・実技 | 看護師 | 12 | ９階南病棟 |
| 39 | 2019/1/23 | 自動血球分析装置　DxH900 | 講義・実技 | 臨床検査技師 | 3 | 臨床検査技術科 |
| 40 | 2019/1/24 | 自動血球分析装置　DxH900 | 講義・実技 | 臨床検査技師 | 4 | 臨床検査技術科 |
| 41 | 2019/1/25 | １２誘導心電計　ＥＣＧ－２４５０ | 講義・実技 | 看護師 | 14 | ９階南病棟 |
| 42 | 2018/1/28 | 全自動血液凝固測定装置　CN-6000 | 講義・実技 | 臨床検査技師 | 7 | 臨床検査技術科 |
| 43 | 2019/1/29 | 自動血球分析装置　DxH900 | 講義・実技 | 臨床検査技師 | 5 | 臨床検査技術科 |
| 44 | 2019/1/30 | 自動血球分析装置　DxH900 | 講義・実技 | 臨床検査技師 | 3 | 臨床検査技術科 |
| 45 | 2019/1/31 | 自動血球分析装置　DxH900 | 講義・実技 | 臨床検査技師 | 4 | 臨床検査技術科 |
| 46 | 2019/1/31 | 自動血球分析装置　DxH900 | 講義・実技 | 臨床検査技師 | 2 | 臨床検査技術科 |
| 47 | 2019/2/4 | 電気メス　オートコンⅲ４００ | 講義・実技 | 看護師・臨床工学技士 | 16 | 中央手術部 |
| 48 | 2019/2/4 | バイポーラ　レゼクトスコープ | 講義・実技 | 看護師・臨床工学技士 | 16 | 中央手術部 |
| 49 | 2019/2/4 | ウロマット　Ｆ．Ａ．Ｓ．Ｉ | 講義・実技 | 看護師・臨床工学技士 | 16 | 中央手術部 |
| 50 | 2019/2/4 | 経皮血液ガスモニタ　ＴＣＭ５ | 講義・実技 | 臨床工学技士 | 6 | 臨床工学室 |
| 51 | 2019/2/5 | 自動分析装置　LABOSPECT008α | 講義・実技 | 臨床検査技師 | 7 | 臨床検査技術科 |
| 52 | 2019/2/5 | ポータブル　ＳｐＯ２モニタ　ＰＭＩＯＮ | 講義・実技 | 医師・看護師 | 10 | NICU・GCU |
| 53 | 2019/2/5 | 経皮血液ガスモニタ　ＴＣＭ５ | 講義・実技 | 看護師 | 10 | NICU・GCU |
| 54 | 2019/2/5 | 経皮血液ガスモニタ　ＴＣＭ５ | 講義・実技 | 臨床工学技士 | 6 | 臨床工学室 |
| 55 | 2019/2/5 | 自動血球分析装置　DxH900 | 講義・実技 | 臨床検査技師 | 2 | 臨床検査技術科 |
| 56 | 2019/2/6 | 自動血球分析装置　DxH900 | 講義・実技 | 臨床検査技師 | 3 | 臨床検査技術科 |
| 57 | 2019/2/7 | 自動血球分析装置　DxH900 | 講義・実技 | 臨床検査技師 | 1 | 臨床検査技術科 |
| 58 | 2019/2/7 | 自動血球分析装置　DxH900 | 講義・実技 | 臨床検査技師 | 3 | 臨床検査技術科 |
| 59 | 2019/2/14 | ストルツ　UNIDRIVE S Ⅲ | 講義 | 看護師 | 15 | 中央手術部 |
| 60 | 2019/2/14 | ストルツ　UROMAT E.A.S.I. | 講義 | 看護師 | 15 | 中央手術部 |
| 61 | 2019/2/15 | 経皮血液ガスモニタ　TCM5 | 講義・実技 | 看護師 | 8 | NICU |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 62 | 2019/2/18 | 上部消化管ビデオスコープ　ＧＩＦシリーズ | 講義 | 看護師・臨床工学技士 | 16 | 中央手術部・臨床工学室 |
| 63 | 2019/2/20 | 体成分分析装置　In Body770 | 講義・実技 | 栄養管理士 | 1 | 栄養管理係 |
| 64 | 2019/2/22 | 内視鏡システム　LUCERA ELITE | 講義・実技 | 看護師 | 10 | 中央手術部 |
| 65 | 2019/2/27 | 超音波診断装置　アリエッタ850 | 講義・実技 | 看護師 | 22 | 中央手術部 |
| 66 | 2019/3/5 | カード用全自動輸血検査装置　IH-500 | 講義・実技 | 臨床検査技師 | 4 | 臨床検査技術科 |
| 67 | 2019/3/5 | Micro Typing System IH-Com/Banjo | 講義・実技 | 臨床検査技師 | 4 | 臨床検査技術科 |
| 68 | 2019/3/5 | 手術用顕微鏡　OPMI PENTERO 800 | 講義・実技 | 講師・臨床研修医・シニアレジデント | 17 | 耳鼻咽喉科 |
| 69 | 2019/3/6 | カード用全自動輸血検査装置　IH-500 | 講義・実技 | 臨床検査技師 | 33 | 臨床検査技術科 |
| 70 | 2019/3/6 | Micro Typing System IH-Com/Banjo | 講義・実技 | 臨床検査技師 | 33 | 臨床検査技術科 |
| 71 | 2019/3/6 | 手術用顕微鏡　OPMI PENTERO 800 | 講義・実技 | 看護師 | 18 | 中央手術部 |
| 72 | 2019/3/12 | 虚血診断法　iFR | 講義 | 臨床工学技士 | 10 | 臨床工学室 |
| 73 | 2019/3/18 | ナースコールマット　コードレス式 | 講義・実技 | 看護師・委託業者 | 4 | 関係部署 |
| 74 | 2019/3/18 | ナースコールマット　コードレス式 | 講義・実技 | 看護師・委託業者 | 4 | 関係部署 |
| 75 | 2019/3/18 | ナースコールマット　コードレス式 | 講義・実技 | 看護師・委託業者 | 1 | 関係部署 |
| 76 | 2019/3/19 | ナースコールマット　コードレス式 | 講義・実技 | 看護師・委託業者 | 6 | 関係部署 |
| 77 | 2019/3/19 | ナースコールマット　コードレス式 | 講義・実技 | 看護師・委託業者 | 3 | 関係部署 |
| 78 | 2019/3/19 | ナースコールマット　コードレス式 | 講義・実技 | 看護師・委託業者 | 9 | 関係部署 |
| 79 | 2019/3/20 | ナースコールマット　コードレス式 | 講義・実技 | 看護師 | 2 | 関係部署 |
| 80 | 2019/3/20 | ナースコールマット　コードレス式 | 講義・実技 | 看護師 | 4 | 関係部署 |
| 81 | 2019/3/20 | ナースコールマット　コードレス式 | 講義・実技 | 看護師 | 5 | 関係部署 |
| 82 | 2019/3/25 | 映像システム | 講義・実技 | 中央手術部 | 34 | 中央手術部 |
| 83 | 2019/3/26 | 映像システム | 講義・実技 | 中央手術部 | 15 | 中央手術部 |
| 84 | 2019/3/27 | 映像システム | 講義・実技 | 中央手術部 | 6 | 中央手術部 |

② 特に安全使用に際して技術の習熟が必要と考えられる医療機器に関する研修

| No | 開催年月日 | 研修の内容・対象機器 | 研修方法 | 対象職種 | 参加者数 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2018/4/4 | 人工呼吸器　トリロジーO2 | 講義・実技 | 看護師 | 5 | 17階南病棟 |
| 2 | 2018/4/20 | 保育器　V-2100G | 講義・実技 | 看護師 | 6 | NICU･GCU |
| 3 | 2018/4/25 | 人工呼吸器　Babylog TN500 | 講義・実技 | 医師・看護師・臨床工学技士 | 25 | 小児科、NICU･GCU、 |
| 4 | 2018/4/26 | 高エネルギーX線発生装置（リニアック） | 講義・実技 | 診療放射線技師 | 27 | 放射線技術科 |
| 5 | 2018/4/26 | 高エネルギーX線発生装置（トモセラピー） | 講義・実技 | 診療放射線技師 | 27 | 放射線技術科 |
| 6 | 2018/4/26 | 高エネルギーX線発生装置（Radixact） | 講義・実技 | 診療放射線技師 | 27 | 放射線技術科 |
| 7 | 2018/4/26 | 密封小線源放射線治療装置（RALS） | 講義・実技 | 診療放射線技師 | 27 | 放射線技術科 |
| 8 | 2018/4/26 | 個人用多用途透析装置　DBB-100N | 講義・実技 | 医師・看護師・臨床工学技士 | 9 | 人工透析部 |
| 9 | 2018/5/10 | 人工呼吸器　RT x | 講義・実技 | 臨床工学技士 | 9 | 臨床工学室 |
| 10 | 2018/5/21 | 人工呼吸器　インファントフローサイパップ | 講義・実技 | 看護師･臨床工学技士 | 12 | NICU･GCU、臨床工学室 |
| 11 | 2018/5/21 | 人工呼吸器　ネーザルハイフロー | 講義・実技 | 看護師･臨床工学技士 | 12 | NICU･GCU、臨床工学室 |
| 12 | 2018/5/25 | 人工呼吸器　V60 | 講義・実技 | 看護師 | 13 | ICUCCU |
| 13 | 2018/6/1 | 人工呼吸器　ネーザルハイフロー | 講義・実技 | 看護師 | 13 | 15階北病棟 |
| 14 | 2018/6/5 | 大動脈バルーンポンプ　IABP | 講義・実技 | 臨床工学技士 | 11 | 臨床工学室 |
| 15 | 2018/6/5 | 除細動機　XL | 講義・実技 | 臨床工学技士 | 11 | 臨床工学室 |
| 16 | 2018/6/13 | 人工呼吸器　トリロジーO2 | 講義・実技 | 看護師 | 14 | 15階北病棟 |
| 17 | 2018/6/13 | 人工呼吸器　V60 | 講義・実技 | 看護師 | 11 | 12階北病棟 |
| 18 | 2018/6/13 | 人工呼吸器　V60 | 講義・実技 | 看護師 | 6 | 16階南病棟 |
| 19 | 2018/7/3 | 人工呼吸器　ネーザルハイフロー | 講義・実技 | 看護師 | 16 | 14階北病棟 |
| 20 | 2018/7/4 | 人工呼吸器　ネーザルハイフロー | 講義・実技 | 看護師 | 6 | 14階北病棟 |
| 21 | 2018/7/11 | 人工呼吸器　V60 | 講義・実技 | 看護師 | 25 | 関係部署 |
| 22 | 2018/7/13 | 人工呼吸器　トリロジーO2 | 講義・実技 | 看護師 | 12 | 15階北病棟 |
| 23 | 2018/7/18 | 人工呼吸器　トリロジーO2 | 講義・実技 | 看護師･臨床工学技士・理学療法士 | 66 | 全体 |
| 24 | 2018/8/16 | 人工呼吸器　V60 | 講義・実技 | 研修医 | 17 | 総合研修センター |
| 25 | 2018/8/17 | 大動脈バルーンポンプ　IABP | 講義・実技 | 看護師 | 13 | ICUCCU |
| 26 | 2018/8/22 | 人工呼吸器　トリロジーO2 | 講義・実技 | 看護師 | 58 | 看護部 |
| 27 | 2018/8/27 | 人工呼吸器　VN500 | 講義・実技 | 看護師 | 1 | NICU・GCU |
| 28 | 2018/9/3 | 人工呼吸器　ネーザルハイフロー | 講義・実技 | 看護師 | 10 | 12階北病棟 |
| 29 | 2018/9/19 | 人工呼吸器　トリロジーO2 | 講義・実技 | 看護師 | 52 | 看護部 |
| 30 | 2018/9/20 | 人工呼吸器　ネーザルハイフロー | 講義・実技 | 研修医 | 12 | 総合研修センター |
| 31 | 2018/9/27 | 人工呼吸器　PB560 | 講義・実技 | 看護師 | 9 | 11階南病棟 |
| 32 | 2018/10/1 | 人工呼吸器　ネーザルハイフロー | 講義・実技 | 看護師 | 12 | 15階北病棟 |
| 33 | 2018/10/15 | 人工呼吸器　ネーザルハイフロー | 講義・実技 | 看護師 | 2 | NICU･GCU |
| 34 | 2018/10/15 | 人工呼吸器　インファントフローサイパップ | 講義・実技 | 看護師 | 2 | NICU･GCU |
| 35 | 2018/10/16 | 人工呼吸器　ネーザルハイフロー | 講義・実技 | 看護師 | 2 | 14階北病棟 |
| 36 | 2018/10/19 | 高エネルギーX線発生装置（リニアック） | 講義・実技 | 放射線技師 | 22 | 放射線技術科 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 37 | 2018/10/19 | 高エネルギーX線発生装置（トモセラピー） | 講義・実技 | 放射線技師 | 22 | 放射線技術科 |
| 38 | 2018/10/19 | 高エネルギーX線発生装置（Radixact） | 講義・実技 | 放射線技師 | 22 | 放射線技術科 |
| 39 | 2018/10/19 | 密封小線源放射線治療装置（RALS） | 講義・実技 | 放射線技師 | 22 | 放射線技術科 |
| 40 | 2018/10/25 | 人工呼吸器　ネーザルハイフロー | 講義・実技 | 臨床工学技士 | 10 | 臨床工学室 |
| 41 | 2018/11/5 | 人工呼吸器　VN500 | 講義・実技 | 看護師 | 3 | NICU・GCU |
| 42 | 2018/11/5 | 人工呼吸器　ハミングX | 講義・実技 | 看護師 | 3 | NICU・GCU |
| 43 | 2018/11/13 | 持続緩徐式血液ろ過器 | 講義・実技 | 臨床工学技士 | 9 | 臨床工学室 |
| 44 | 2018/11/17 | 人工呼吸器　V60 | 講義・実技 | 看護師・臨床工学技士 | 44 | 関係部署 |
| 45 | 2018/11/21 | 人工呼吸器　トリロジーO2 | 講義・実技 | 医師・看護師・臨床工学技士・理学療法士・委託業者 | 59 | 関係部署 |
| 46 | 2018/11/22 | 人工呼吸器　SERVO-n　（NAVA） | 講義・実技 | 臨床工学技士 | 3 | 臨床工学室 |
| 47 | 2018/12/4 | 人工呼吸器　PB840 | 講義・実技 | 看護師 | 6 | 救命救急センター |
| 48 | 2018/12/5 | 人工呼吸器　VN500 | 講義・実技 | 看護師 | 3 | NICU・GCU |
| 49 | 2018/12/5 | 人工呼吸器　ハミングX | 講義・実技 | 看護師 | 3 | NICU・GCU |
| 50 | 2018/12/6 | 人工呼吸器　トリロジーO2 | 講義・実技 | 医師・看護師 | 22 | 11階北病棟 |
| 51 | 2018/12/7 | 人工呼吸器　PB840 | 講義・実技 | 看護師 | 20 | 救命救急センター |
| 52 | 2018/12/11 | 埋込型除細動器 | 講義 | 臨床工学技士 | 11 | 臨床工学室 |
| 53 | 2018/12/12 | 人工呼吸器　トリロジーO2 | 講義・実技 | 看護師・臨床工学技士 | 24 | 関係部署 |
| 54 | 2018/12/14 | 補助循環装置　PCPS | 講義・実技 | 臨床工学技士 | 3 | 臨床工学室 |
| 55 | 2018/12/14 | 人工呼吸器　トリロジーO2 | 講義・実技 | 看護師 | 12 | 11階南病棟 |
| 56 | 2018/12/21 | 人工呼吸器　PB840 | 講義・実技 | 看護師 | 10 | 救命救急センター |
| 57 | 2018/12/25 | 個人用多用途透析装置　DBB-100NX | 講義・実技 | 看護師・臨床工学技士 | 5 | 人工透析部 |
| 58 | 2019/1/10 | 人工呼吸器　AVEA | 講義・実技 | 臨床工学技士 | 6 | 臨床工学室 |
| 59 | 2019/1/11 | 人工呼吸器　PB840 | 講義・実技 | 看護師 | 5 | 救命救急センター |
| 60 | 2019/1/11 | 人工呼吸器　トリロジーO2 | 講義・実技 | 看護師 | 12 | 15階北病棟 |
| 61 | 2019/1/15 | 人工呼吸器　AVEA | 講義・実技 | 医師・看護師 | 11 | NICU・GCU |
| 62 | 2019/1/16 | 人工呼吸器　トリロジーO2 | 講義・実技 | 看護師 | 32 | 全体 |
| 63 | 2019/1/16 | 人工呼吸器　AVEA | 講義・実技 | 看護師 | 6 | NICU・GCU |
| 64 | 2019/1/18 | 人工呼吸器　AVEA | 講義・実技 | 医師・看護師 | 6 | NICU・GCU |
| 65 | 2019/1/18 | 人工呼吸器　V60 | 講義・実技 | 看護師 | 14 | 15階北病棟 |
| 66 | 2019/1/25 | 人工呼吸器　AVEA | 講義・実技 | 医師・看護師・臨床工学技士 | 8 | ＮＩＣＵ |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 67 | 2019/2/5 | 人工呼吸器　V60 | 講義・実技 | 看護師 | 12 | 15階北病棟 |
| 68 | 2019/2/7 | 保育器　Ｂａｂｙｌｅｏ　ＴＮ５００ | 講義・実技 | 看護師 | 13 | ＮＩＣＵ・ＧＣＵ |
| 69 | 2019/2/7 | 人工心肺 | 講義・実技 | 臨床工学技士 | 10 | 臨床工学室 |
| 70 | 2019/2/7 | 人工心肺 | 講義・実技 | 看護師・臨床工学技士 | 18 | 中央手術部 |
| 71 | 2019/2/8 | 保育器　Ｂａｂｙｌｅｏ　ＴＮ５００ | 講義・実技 | 看護師 | 8 | 中央手術部 |
| 72 | 2019/2/8 | 保育器　Ｂａｂｙｌｅｏ　ＴＮ５００ | 講義・実技 | 臨床工学技士・委託職員 | 7 | 臨床工学室 |
| 73 | 2019/2/21 | 除細動器　DFM100 | 講義・実技 | 臨床工学技士・委託職員 | 3 | 臨床工学室 |
| 74 | 2019/2/21 | 除細動器　TEC-5600 | 講義・実技 | 委託職員 | 2 | 臨床工学室 |
| 75 | 2019/2/22 | 人工呼吸器　トリロジーO2 | 講義・実技 | 看護師 | 26 | 関係部署 |
| 76 | 2019/3/1 | 除細動器　TEC-5600 | 講義・実技 | 臨床工学技士 | 7 | 臨床工学室 |
| 77 | 2019/3/4 | 人工呼吸器　VN500 | 講義・実技 | 看護師 | 4 | 臨床工学室 |
| 78 | 2019/3/4 | 人工呼吸器　VN500 | 講義・実技 | 看護師 | 3 | 臨床工学室 |
| 79 | 2019/3/5 | 保育器　Ｂａｂｙｌｅｏ　ＴＮ５００ | 講義・実技 | 看護師 | 5 | 分娩部 |
| 80 | 2019/3/12 | 保育器　Ｂａｂｙｌｅｏ　ＴＮ５００ | 講義・実技 | 看護師 | 13 | 8階北病棟 |
| 81 | 2019/3/13 | 保育器　Ｂａｂｙｌｅｏ　ＴＮ５００ | 講義・実技 | 看護師 | 7 | 8階北病棟 |
| 82 | 2019/3/13 | 人工呼吸器　トリロジーO2 | 講義・実技 | 看護師 | 17 | 関係部署 |
| 83 | 2019/3/14 | 除細動器　DFM100 | 講義・実技 | 臨床工学技士 | 4 | 臨床工学室 |
| 84 | 2019/3/14 | 保育器　Ｂａｂｙｌｅｏ　ＴＮ５００ | 講義・実技 | 看護師 | 3 | 分娩部 |
| 85 | 2019/3/19 | 人工呼吸器　トリロジーO2 | 講義･実技 | 看護師 | 10 | 15階北病棟 |
| 86 | 2019/3/22 | 補助循環装置　PCPS | 講義・実技 | 看護師 | 10 | ICUCCU |
| 87 | 2019/3/27 | 保育器　Ｂａｂｙｌｅｏ　ＴＮ５００ | 講義・実技 | 医師・看護師 | 5 | NICU |
| 88 | 2019/3/29 | 保育器　Ｂａｂｙｌｅｏ　ＴＮ５００ | 講義・実技 | 委託職員 | 3 | 臨床工学室 |
| 89 | 2019/3/29 | 保育器　Ｂａｂｙｌｅｏ　ＴＮ５００ | 講義・実技 | 委託職員 | 2 | 臨床工学室 |

（注）１　「特に安全使用に際して技術の習熟が必要と考えられる医療機器」とは、①人工心肺装置及び補助循環装置、②人工呼吸器、③血液浄化装置、④除細動装置

③　①、②以外に実施している研修

| No | 開催年月日 | 研修の内容・対象機器 | 研修方法 | 対象職種 | 参加者数 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2018/4/2 | 生体情報モニタ | 講義・実技 | 看護師 | 6 | 内視鏡部 |
| 2 | 2018/4/10 | 画像ファイリングシステム　クライオ | 講義・実技 | 医師 | 8 | 眼科 |
| 3 | 2018/4/12 | シリンジポンプ | 講義・実技 | 看護師 | 63 | 新人研修 |
| 4 | 2018/4/12 | 輸液ポンプ | 講義・実技 | 看護師 | 63 | 新人研修 |
| 5 | 2018/4/12 | 輸液ポンプ | 講義・実技 | 看護師 | 3 | 11階南病棟 |
| 6 | 2018/4/12 | シリンジポンプ | 講義・実技 | 看護師 | 3 | 11階南病棟 |
| 7 | 2018/4/13 | シリンジポンプ | 講義・実技 | 看護師 | 62 | 新人研修 |
| 8 | 2018/4/13 | 輸液ポンプ | 講義・実技 | 看護師 | 62 | 新人研修 |
| 9 | 2018/4/13 | 輸液ポンプ | 講義・実技 | 看護師 | 2 | 11階南病棟 |
| 10 | 2018/4/13 | シリンジポンプ | 講義・実技 | 看護師 | 2 | 11階南病棟 |
| 11 | 2018/4/16 | 手術台アクセサリー　スパイダー2　リム・ポジショナー | 講義・実技 | 医師 | 2 | 整形外科 |
| 12 | 2018/4/18 | 冷凍アブレーション装置　Crio　Console | 講義・実技 | 看護師・臨床工学技士 | 25 | 救命救急センター14階北病棟、臨床工 |
| 13 | 2018/4/19 | 手術台アクセサリー　スパイダー2　リム・ポジショナー | 講義・実技 | 看護師 | 31 | 中央手術部 |
| 14 | 2018/4/19 | 心臓カテーテル検査機器 | 講義・実技 | 臨床工学技士 | 10 | 臨床工学室 |
| 15 | 2018/4/20 | 輸液ポンプ | 講義・実技 | 看護師 | 6 | 17階病棟 |
| 16 | 2018/4/20 | 開放型保育器　V-505HL | 講義・実技 | 看護師 | 6 | NICU･GCU |
| 17 | 2018/4/20 | 開放型保育器　インファウォーマーi | 講義・実技 | 看護師 | 6 | NICU･GCU |
| 18 | 2018/4/24 | 冷凍アブレーション装置　Crio　Console | 講義・実技 | 看護師・臨床工学技士 | 7 | 救命救急センター、臨床工学室 |
| 19 | 2018/4/25 | 冷凍アブレーション装置　Crio　Console | 講義・実技 | 看護師・臨床工学技士 | 12 | 救命救急センター14階北病棟、臨床工 |
| 20 | 2018/5/1 | 咳介助　MI－E | 講義・実技 | 医師・看護師 | 7 | 整形外科、ICUCCU12階北病棟 |
| 21 | 2018/5/2 | 咳介助　MI－E | 講義・実技 | 看護師 | 13 | 12階北病棟 |
| 22 | 2018/5/17 | ペースメーカー | 講義・実技 | 看護師・臨床工学技士 | 26 | 中央手術部、臨床工学室 |
| 23 | 2018/5/25 | 携帯型精密輸液ポンプ　CADDポンプ | 講義・実技 | 看護師 | 7 | 15階北病棟 |
| 24 | 2018/5/28 | 生体情報モニタ | 講義・実技 | 看護師 | 63 | 新人研修 |
| 25 | 2018/5/28 | 心電図モニタ | 講義・実技 | 看護師 | 2 | 11階南病棟 |
| 26 | 2018/5/30 | 心電図モニタ | 講義・実技 | 看護師 | 3 | 11階南病棟 |
| 27 | 2018/5/30 | 生体情報モニタ | 講義・実技 | 看護師 | 62 | 新人研修 |
| 28 | 2018/6/4 | 携帯型精密輸液ポンプ　CADDポンプ | 講義・実技 | 看護師・臨床工学技士・薬剤師 | 94 | 関係部署 |
| 29 | 2018/6/4 | PCAポンプ | 講義・実技 | 看護師 | 5 | 11階南病棟 |
| 30 | 2018/6/6 | 低圧持続吸引器　SD-3000 | 講義・実技 | 看護師 | 5 | 11階南病棟 |
| 31 | 2018/6/8 | フットポンプ　Active Care DVT | 講義・実技 | 看護師 | 14 | 12階北病棟 |
| 32 | 2018/6/11 | フットポンプ　Active Care DVT | 講義・実技 | 臨床工学技士 | 5 | 臨床工学室 |
| 33 | 2018/6/12 | 電気メス　VIO3 | 講義・実技 | 看護師 | 35 | 中央手術部 |
| 34 | 2018/6/13 | 手術用ロボット　da vinch Xi | 講義・実技 | 看護師 | 11 | 中央手術部 |
| 35 | 2018/6/15 | フットポンプ　Active Care DVT | 講義・実技 | 看護師 | 6 | 12階北病棟 |
| 36 | 2018/6/18 | 消化器内視鏡　GIF-H290他 | 講義・実技 | 看護師・臨床検査技師 | 10 | 内視鏡部 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 37 | 2018/6/18 | 洗浄消毒装置　OER-4 | 講義・実技 | 看護師・臨床検査技師 | 10 | 内視鏡部 |
| 38 | 2018/6/20 | 手術用ロボット　da vinch Xi | 講義・実技 | 看護師 | 17 | 中央手術部 |
| 39 | 2018/6/25 | 経腸栄養用輸液ポンプ　カンガルーJoeyポンプ | 講義・実技 | 看護師・臨床工学技士 | 17 | 関係部署 |
| 40 | 2018/6/26 | 経腸栄養用輸液ポンプ　カンガルーJoeyポンプ | 講義・実技 | 看護師 | 20 | 関係部署 |
| 41 | 2018/7/17 | 血液アナライザー　i-STAT | 講義・実技 | 臨床工学技士 | 7 | 臨床工学室 |
| 42 | 2018/7/17 | 経皮血ガスモニター　TCM5 FLEX | 講義・実技 | 看護師 | 10 | NICU･GCU |
| 43 | 2018/7/18 | シリンジポンプ　TP-8200R | 講義・実技 | 医師・看護師 | 23 | 9階南病棟 |
| 44 | 2018/7/31 | 自動腹膜灌流用装置　ホームAPDシステムゆめ | 講義・実技 | 看護師 | 17 | 10階南病棟 |
| 45 | 2018/7/31 | 腹膜灌流用紫外線照射器　くり～んフラッシュ | 講義・実技 | 看護師 | 17 | 10階南病棟 |
| 46 | 2018/8/20 | 自動腹膜灌流装置　マイホームぴこ | 講義・実技 | 看護師 | 8 | 17階病棟 |
| 47 | 2018/9/3 | 超音波診断装置　ソノサイト | 講義・実技 | 医師・研修医・看護師 | 14 | 産科婦人科 |
| 48 | 2018/9/21 | ECGチェッカ　AX-301D | 講義・実技 | 臨床検査技師 | 12 | 生理機能検査 |
| 49 | 2018/10/3 | 汎用超音波画像診断装置　サイトライト５ | 講義・実技 | 医師・研修医 | 7 | 臨床シミュレーションセンター |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 50 | 2018/10/3 | 抹消穿刺中心静脈カテーテル　PICC | 講義・実技 | 医師・看護師・臨床工学技士 | 22 | 関係部署 |
| 51 | 2018/10/23 | 陰圧維持管理装置　Arti V.A.C | 講義・実技 | 看護師 | 11 | 11階南病棟 |
| 52 | 2018/10/30 | カルト | 講義 | 医師・臨床工学技士 | 7 | 循環器内科・臨床工学室 |
| 53 | 2018/11/9 | 低圧持続吸引器　SD-3000 | 講義・実技 | 看護師 | 9 | 8階北病棟 |
| 54 | 2018/11/15 | セントラルモニタ　CNS-6201 | 講義・実技 | 看護師 | 10 | 8階北病棟 |
| 55 | 2018/12/19 | DBS用プログラマー | 講義・実技 | 臨床工学技士 | 7 | 臨床工学室 |
| 56 | 2018/12/28 | すやすやコット　LARGE | 講義・実技 | 看護師・臨床工学技士 | 7 | NICU･GCU |
| 57 | 2019/1/9 | パルスホルミウムヤグレーザー　CYBER HO60 | 講義・実技 | 医師・看護師 | 18 | 中央手術部･泌尿器科 |
| 58 | 2019/1/11 | 陰圧維持管理装置　V.A.C.Ulta | 講義・実技 | 看護師 | 8 | 17階北病棟 |
| 59 | 2019/1/15 | SJM社製　FFR | 講義・実技 | 臨床工学技士 | 12 | 臨床工学室 |
| 60 | 2019/1/15 | A.T.S4000　タニケットシステム | 講義・実技 | 看護師・臨床工学技士 | 21 | 中央手術部 |
| 61 | 2019/1/17 | パルスホルミウムヤグレーザー　CYBER HO60 | 講義・実技 | 看護師・臨床工学技士 | 19 | 中央手術部 |
| 62 | 2019/1/22 | 医療用語 | 講義 | 委託職員 | 7 | 臨床工学室 |
| 63 | 2019/1/25 | 経皮心筋焼灼術用電気手術ユニット　SmartAblateジェネレータ | 講義・実技 | 臨床工学技士 | 3 | 臨床工学室 |
| 64 | 2019/2/6 | 陰圧持続吸引器　Renasys | 講義・実技 | 医師 | 3 | 形成外科 |
| 65 | 2019/2/14 | CT用インジェクター | 講義・実技 | 看護師 | 21 | 救命救急センター |
| 66 | 2019/2/21 | 自動体外式除細動器 | 講義 | 委託職員 | 7 | 臨床工学室 |
| 67 | 2019/2/26 | 陰圧維持管理装置　V.A.C ulta | 講義・実技 | 看護師 | 8 | 12階北病棟 |
| 68 | 2019/2/28 | 超音波診断装置　アリエッタ | 講義・実技 | 看護師・臨床工学技士 | 14 | 中央手術部 |
| 69 | 2019/3/1 | MR用インジェクター | 講義・実技 | 看護師 | 29 | 救命救急センター |
| 70 | 2019/3/20 | 自動体外式除細動器 | 講義 | 委託職員 | 7 | 臨床工学室 |